

越谷市の地域福祉に関する アンケート調査報告書

令和元年 10 月

越 谷 市

目 次

I	調査概要	3
1	調査の目的	3
2	調査の対象及びサンプル数	3
3	調査方法及び調査実施期間	3
4	回収結果	3
5	分析・表示について	3
II	調査結果の要約	5
1	市民調査結果の要約	5
2	団体調査結果の要約	8
III	調査の結果	9
1	市民調査結果	9
(1)	基礎的事項について	9
■	性別	9
■	年齢	9
■	居住年数	10
■	居住地区	10
■	職業	12
■	家族構成	12
■	定住意向	14
(2)	地域との関わりについて	15
■	近所との付き合いの程度	15
■	地域活動やコミュニティの範囲	17
■	地域での活動の状況	18
■	地域の活動等への関心の変化	19
■	地域福祉の拠点や組織の認知度	20
■	困ったことがあった際の相談先	22
■	地域との関わり合いの満足度	24
■	手助けしていること・手助けできること	26
■	手助けしてほしいこと	29
■	在住外国人が暮らしやすい地域にするためには	31
■	市民と行政の役割分担	33
(3)	ボランティア・NPO活動について	34
■	ボランティアやNPO活動の経験	34
■	活動内容	35

■ ボランティアやNPO活動に参加している（していた）理由	35
■ ボランティアやNPO活動に参加していない理由	36
■ ボランティア活動・NPO活動や市民の自主的な活動等の活性化に必要なこと	37
■ 毎日の生活の中での生きがい	39
（４）地域福祉の考え方について	40
■ 福祉についての考え	40
■ 住んでいる地域で日常生活で困ったことを抱えている人	41
■ 日常生活に困っている人に対する必要な援助	42
■ 福祉サービスの担い方や負担の今後の方向	43
■ 福祉関連分野で力を入れて取り組むべき施策	44
■ 「災害時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと	45
■ 被災後の生活において頼りにする人	46
（５）地域福祉の推進について	47
■ 地域福祉の現状	47
■ 地域に関する環境について	48
■ 「成年後見制度」について	49
（６）自由記述について	51
■ 自由記述について	51
２ 団体調査結果	52
（１）基礎的事項について	52
■ 所在地	52
■ 組織形態	53
■ 活動場所	53
■ 活動区域	54
（２）地域活動等の取り組みについて	55
■ 取り組んでいる地域活動等の分野	55
■ 地域の範囲の認識	56
■ 地域活動を行う上での問題点・課題	56
■ ボランティア活動・NPO活動等、市民の自主的な活動等の活性化に必要なこと	57
■ 福祉分野で特に力を入れて取り組むべき施策	58
■ 「災害時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと	59
■ 地域福祉の現状	60
■ 地域福祉活動を推進するためのネットワーク形成に必要な機関	61
■ 市役所等の地域福祉を担う主体に対する支援	62
（３）自由記述について	63
■ 自由記述について	63
資料編	64

I 調査概要

1 調査の目的

越谷市と越谷市社会福祉協議会では、市民がお互いに助け合い、支え合い、誰もが住みやすい地域社会をめざして、「地域福祉」を進めていくための計画策定に取り組んでいます。

その一環として、市民の皆様や市内で活動しているボランティア・NPO団体等の地域福祉に対する考え方や、日頃の生活やボランティア、地域活動の状況などを把握し、計画づくりの基礎資料を得ることを目的にアンケート調査を実施しました。

2 調査の対象及びサンプル数

調査対象者	抽出方法
20 歳以上の住民 2,940 人	令和元年 6 月 1 日現在の住民基本台帳から、地区別、年代別、男女別に無作為抽出
越谷市関係団体 700 団体	市内で活動している自治会、各地区民生委員・児童委員協議会、子育てサークル団体、介護施設等、障害者福祉センター「こばと館」に登録されている障害者団体、障害者 NPO 団体、ボランティアセンター登録団体等

3 調査方法及び調査実施期間

調査方法	郵送による配布・回収
調査実施期間	令和元年 6 月 24 日 ～ 7 月 15 日

4 回収結果

調査対象者	配布数	有効回収数	有効回収率
20 歳以上の住民	2,940 票	1,341 票	45.6 %
福祉関連団体	700 票	510 票	72.9 %

5 分析・表示について

- ・ 比率は、小数点以下第 2 位を四捨五入しています。このため比率が 0.05 未満の場合には 0.0 と表記しています。また、合計が 100.0% とならないこともあります。
- ・ 複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、比率算出を行っています。このため、比率計が 100% を超えることがあります。

- ・ 報告書中の文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略して記載している場合があります。
- ・ グラフの n=〇〇 という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。
- ・ 図表中の記号については以下のとおりです。

全体値より	◇:10%以上高い	◆:10%以上低い
	△:5～9.9%高い	▲:5～9.9%低い

Ⅱ 調査結果の要約

1 市民調査結果の要約

●回答者の属性

回答者の属性は、「男性」が43.3%、「女性」が52.5%で女性の方が高く、年齢は、60代以上が過半数となっている。越谷市での居住年数は、20年以上が7割台半ばとなっており、居住地区は、「越ヶ谷地区」、「大袋地区」、「蒲生地区」が1割を超えている。また、職業は、「無職」が約3割、「会社員」が2割強となっている。家族構成は、「親・子の二世帯家族」が4割台半ば、「夫婦のみ」が3割弱となっている。

定住意向は、「今住んでいるところに住み続けたい」が約8割で「今住んでいるところ以外の、越谷市内のどこかに住みたい」が約1割となっており、両項目を合計した“越谷市内に住み続けたい”方は約9割に上る。

●地域との関わりについて

近所との付き合いの程度は、「あいさつをする程度」が約4割となっている。また、「何か困った時に、助け合える関係」という深い関係を構築している地域は荻島地区が3割弱、大相模地区が2割台半ばで他の地区に比べて高く、若年層に比べて高齢層の方が高くなっている。

地域での活動の状況は、「自治会等の行事」が約4割となっており、若年層に比べて高齢層の方が高くなっている。特に60代は5割台半ばで他の年齢に比べて最も高い。

地域の活動等への関心の変化は、以前（約5年前）と比べて「どちらかという、より関心を持つようになった」が「どちらかという、より関心がなくなった」を3.6ポイント上回っている。

地域福祉の拠点や組織の認知度は、「地区センター」、「民生委員・児童委員」が4割台後半で高く、「地区センター」は荻島地区、川柳地区、大相模地区で6割を超えている。

困ったことがあった際の相談先は、上位3項目は「家族・親戚」が4割台半ば、「友人・知人」が3割台半ば、「市役所」が3割弱となっている。

地域との関わり合いの満足度は、6割弱が満足しており、特に大沢地区では7割弱が満足している。

地域の困っている世帯を手助けしていることは、すべての項目で1割未満となっているが、「話し相手」、「近所のイベントの手伝い」が7%台で他の項目に比べて高い。一方、今後手助けできることは、「安否確認の声かけ」が4割台半ば、「災害時・緊急時の手助け」が3割台半ばで他の項目に比べて高い。また、自身が望む手助けしてほしいことは、「災害時・緊急時の手助け」が2割台半ば、「安否確認の声かけ」が約2割で他の項目に比べて高く、手助けできることと同じ項目が上位に挙げられている。

在住外国人が暮らしやすい地域にするためには、「気軽に相談できる窓口の充実、地域との関わりを増やすための受け入れ体制を整備する」、「お互いの文化を知る機会を増やす」が4割を超えて高い。

市民と行政の役割分担は『予算を検討し、決定する』は「主に行政が考える」が最も高く、その他『地域の問題や課題を明らかにする』、『地域で解決すべき課題の優先順位を考える』、『必要な施策を検討し実施する』、『施策の成果を評価する』は「共に考える」が最も高い。

●ボランティア・NPO活動について

ボランティアやNPO活動の経験は、「今までに活動したことはない」が8割弱で最も高く、「現在活動している」は4.7%となっている。

ボランティアやNPO活動をしている方の活動内容は、「地域の清掃・美化に関する活動」、「文化・芸術、スポーツに関する活動」が約3割で高い。また、ボランティアやNPO活動を現在、過去に活動していた方の参加理由は、「身近な地域のために役立ちたいから」、「活動を通じて人間関係が広がり自分の成長につながるから」が2割台半ばで高い。一方、ボランティアやNPO活動をしていない方の参加していない理由は、「仕事や学業などで忙しく時間がないから」が4割弱、「どのような活動があるのか知らないから」、「体力的に自信がないから」が約3割で高い。

ボランティア活動・NPO活動や市民の自主的な活動等の活性化に必要なことは、「負担の少ない活動内容（時間的・体力的）にする」、「元気な高齢者の参加を促す」が3割を超えて高い。

毎日の生活の中での生きがいは、7割台半ばが生きがいを感じており、特に30代が8割台半ばで他の年齢に比べて高い。

●地域福祉の考え方について

福祉についての考え方は、「福祉は、行政と地域住民（住民組織）が協力しあいながら行うものであると思う」が6割台半ばで最も高い。

住んでいる地域で日常生活で困ったことを抱えている人は、「一人暮らしで不安や心細い思いをしている人がいる」、「買い物などの外出が一人では大変な人がいる」、「草むしりや庭の手入れなど、体力のいることができてなくて困っている人がいる」が1割を超えており、その他項目は1割未満となっているが、日常生活で困ったことを抱えている人がいるか「わからない」方は5割弱に上る。

日常生活に困っている人に対する必要な援助は、「何に困っているかを理解し、サービス等につなげること」が約4割、「問題を解決するための情報を提供すること」が3割台半ばで高い。

福祉サービスの担い方や負担の今後の方向の優先順位は、1位の割合が最も高いのは「福祉は行政が行うべきものであり、たとえ増税になってもすべての国・県・市が担うべきだ」であり、1位と2位の合計は「ある程度広い地域の中での低料金による対応を可能とするため、ボランティア・NPO等の活動を活性化し、それらが福祉の中心的な担い手となるべきだ」が最も高い。

福祉関連分野で力を入れて取り組むべき施策は、「高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策」、「急病でも対応できるなど医療体制の整備」が4割を超えて高い。

災害時に住民が支えあう地域づくりに必要なことは、「災害時の情報をすみやかに伝達できるような情報伝達システムを充実する」、「日頃から隣近所が声をかけ合い、助け合うようにする」が過半数となっている。

被災後の生活において頼りにする人は、「家族・親族」が8割台半ばで最も高いが、「行政（市役所など）」も6割台半ばで次いで高い。

●地域福祉の推進について

越谷市の地域福祉の現状は、特にできていると評価の高い項目は「地域ぐるみで、身近な環境（保全・美化）が快適に保たれている」、「地域防犯・交通安全への自主的な活動が行われている」となっている。

約5年前と比べた地域環境に関する評価は、すべての項目で悪くなったという回答に比べて良くなったとの回答が上回っており、特に良くなったとの回答が高い項目は「生活のいろいろな面で便利である」、「必要なときに安心して医療を受けることができる」、「道路や交通の便が良く、誰もが

外出しやすい」が3割を超えて高い。

成年後見制度については、「制度は知っているが、活用する必要がある」が4割台半ばで最も高く、制度の“認知度”（「制度を活用している」＋「申立てをしている」＋「制度は知っているが、活用する必要がある」＋「制度を活用したいが、どのような手続きをしたらよいかわからない」の合計）は過半数となっている。

2 団体調査結果の要約

●回答者の属性

回答者の所在地は、「大袋地区」、「越ヶ谷地区」が1割を超えて高い。組織形態は、「自治会」が3割台半ば、「ボランティアグループ」が2割強となっており、活動場所は、「自治会館や集会所」が4割台半ばで高い。

活動区域は、「市内の一部地域」が7割弱で最も高いが、「市内と隣接市町村など」、「隣接県を含む地域」、「県内」等の広域で活動している組織も1割台半ばいる。

●地域活動等の取り組みについて

取り組んでいる地域活動等の分野は、「高齢者福祉」が過半数となっており、「地域交流」、「地域コミュニティ」、「健康づくり」が3割を超えて高い。

地域の範囲の認識は、「自治会」が約4割、「越谷市全域」が3割弱となっている。

地域活動を行う上での問題点・課題は、「スタッフが不足している」が4割で最も高い。

ボランティア活動・NPO活動等、市民の自主的な活動等の活性化に必要なことは、「若い人の参加を促す」、「地域内の交流を深め、よりよい人間関係をつくる」、「元気な高齢者の参加を促す」が4割を超えて高い。

福祉分野で特に力を入れて取り組むべき施策は、「高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策」が4割台半ば、「一人暮らしの高齢者や障がい者に対する災害時の支援体制」が4割で高い。

災害時に住民が支えあう地域づくりに必要なことは、「地域における援助体制の構築」が過半数、「自主防災組織づくり（地域住民で結成する防災隊）」が約5割で高い。

越谷市の地域福祉の現状は、市民調査と同様に、特にできていると評価の高い項目は「地域ぐるみで、身近な環境（保全・美化）が快適に保たれている」、「地域防犯・交通安全への自主的な活動が行われている」となっている。

地域福祉活動を推進するためのネットワーク形成に必要な機関は、「自治会」、「市役所」、「社会福祉協議会」が7割を超えて高い。

Ⅲ 調査の結果

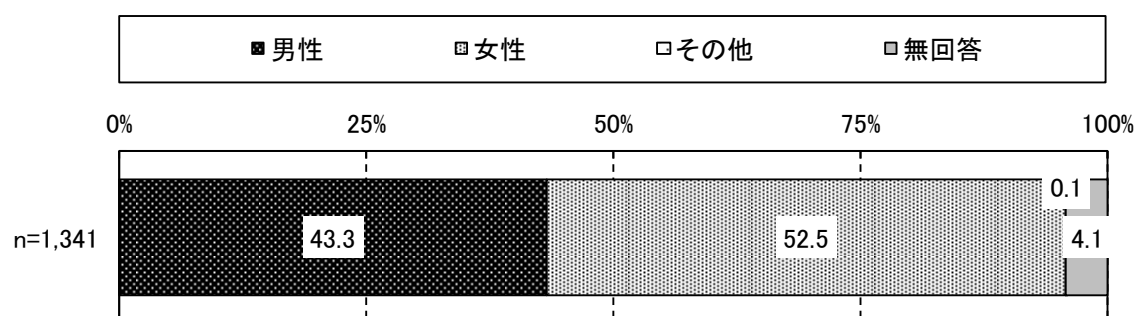
1 市民調査結果

(1) 基礎的事項について

問1. あなたの性別をお答えください。

回答者の性別は、「男性」が43.3%、「女性」が52.5%で「女性」が「男性」を9.2ポイント上回っています。

■性別

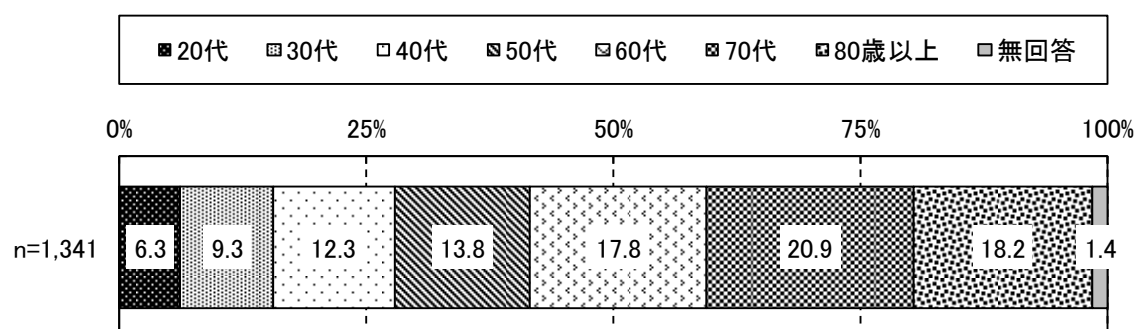


※グラフの n=〇〇 は、その問の有効回答者数。以降のグラフも同様。

問2. あなたの年齢をお答えください。

回答者の年齢は、回答割合が高い順に、「70代」が20.9%、「80歳以上」が18.2%、「60代」が17.8%、「50代」が13.8%、「40代」が12.3%、「30代」が9.3%、「20代」が6.3%と概ね年齢が高いほど回答の割合が高くなっています。

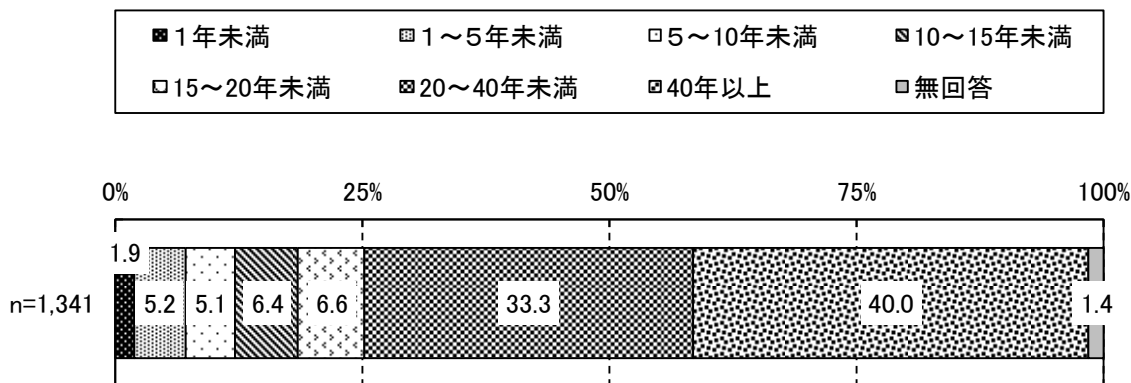
■年齢



問3. 越谷市内における在住年数をお答えください。

居住年数は、「40年以上」が40.0%で最も高く、次いで「20～40年未満」が33.3%、「15～20年未満」が6.6%となっています。

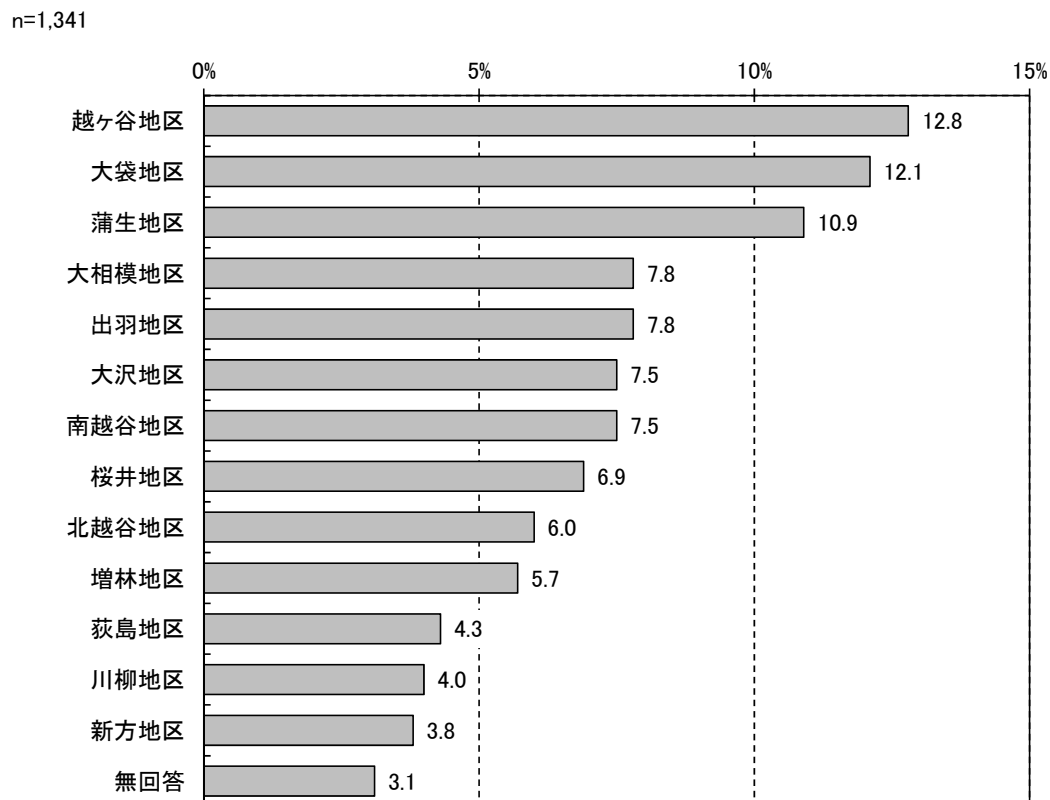
■居住年数



問4. お住まいの地区はどこですか。

居住地区は、「越ヶ谷地区」が12.8%で最も高く、次いで「大袋地区」が12.1%、「蒲生地区」が10.9%となっています。

■居住地区



性別を居住地区別でみると、全体では「女性」が「男性」を上回っていますが、「増林地区」、「大袋地区」では「男性」が上回っています。

年齢を居住地区別でみると、全体と比較して「新方地区」は、「20代」、「60代」が高く、「30代」、「40代」が低くなっています。また、「川柳地区」、「北越谷地区」、「南越谷地区」は「60代」、「蒲生地区」は「70代」、「桜井地区」は「80歳以上」が高くなっています。

■性別（地区別）（単位：人、％）

全体	n	男性		女性	
	1,341		43.3		52.5
桜井地区	92	◆	32.6	◇	63.0
新方地区	51		45.1		49.0
増林地区	77	◇	55.8	◆	41.6
大袋地区	162	△	50.6	▲	44.4
荻島地区	58		39.7	△	60.3
出羽地区	104		41.3		52.9
蒲生地区	146		40.4		56.8
川柳地区	54		38.9	△	59.3
大相模地区	105		46.7		50.5
大沢地区	100		47.0		53.0
北越谷地区	80		42.5		56.3
越ヶ谷地区	171		46.2		50.9
南越谷地区	100	▲	38.0	△	58.0

■年齢（地区別）（単位：人、％）

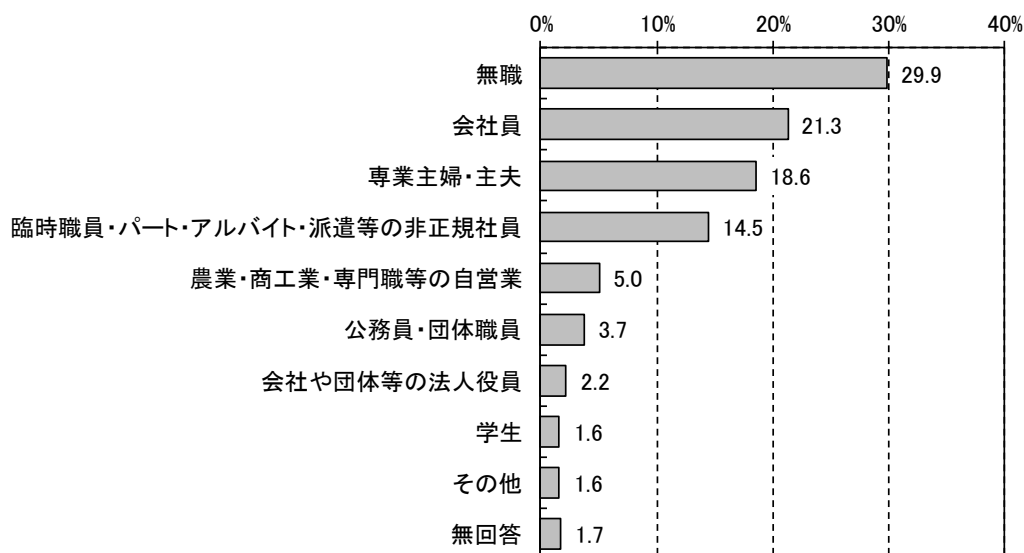
全体	n	20代		30代		40代		50代		60代		70代		80歳以上	
	1,341		6.3		9.3		12.3		13.8		17.8		20.9		18.2
桜井地区	92		7.6		5.4		8.7		17.4		14.1		20.7	△	26.1
新方地区	51	△	11.8	▲	3.9	▲	5.9		15.7	△	27.5		21.6		13.7
増林地区	77		3.9		10.4		13.0		16.9		18.2		16.9		20.8
大袋地区	162		8.0		9.3		14.2		10.5		16.7		23.5		17.9
荻島地区	58		6.9		10.3		15.5		13.8		20.7		17.2		15.5
出羽地区	104		3.8		9.6		10.6		13.5		18.3		24.0		20.2
蒲生地区	146		6.2		11.0		11.0		15.8		13.7	△	26.7		15.1
川柳地区	54		7.4		9.3		7.4		11.1	△	25.9		22.2		16.7
大相模地区	105		4.8		7.6		9.5		13.3		17.1		24.8		21.9
大沢地区	100		5.0		9.0		16.0		10.0		21.0		22.0		17.0
北越谷地区	80		6.3		11.3		10.0		11.3	△	23.8		17.5		20.0
越ヶ谷地区	171		7.0		12.9		15.8		18.1		12.9		17.0		16.4
南越谷地区	100		7.0		7.0		14.0		11.0	△	23.0		17.0		20.0

問5. ご職業は何ですか。

職業は、「無職」が29.9%で最も高く、次いで「会社員」が21.3%、「専業主婦・主夫」が18.6%となっています。

■職業

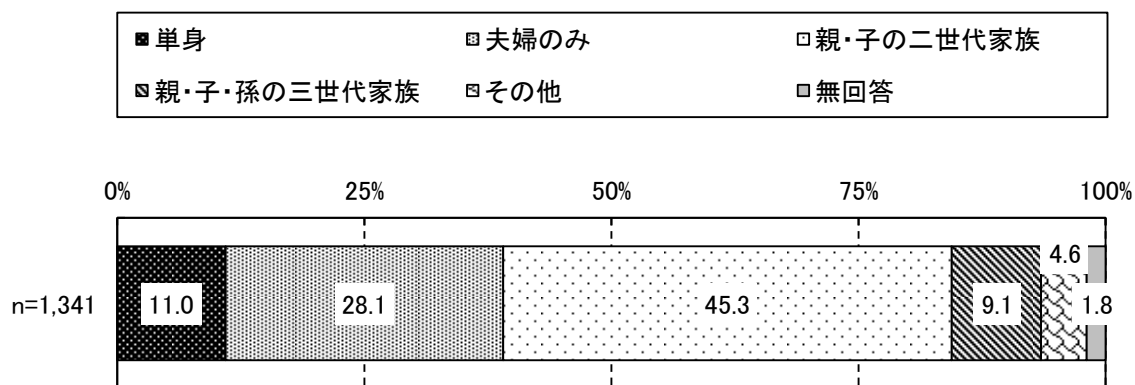
n=1,341



問6. ご家族の構成についてお答えください。

家族構成は、「親・子の二世代家族」が45.3%で約半数を占め、次いで「夫婦のみ」が28.1%、「単身」が11.0%、「親・子・孫の三世代家族」が9.1%となっています。

■家族構成



家族構成を居住地区別でみると、全体の割合と比較して「単身世帯」では、「増林地区」が低くなっています。「夫婦のみ世帯」では、「増林地区」、「南越谷地区」が高く、「荻島地区」が低くなっています。「親・子の二世家族世帯」では、「大相模地区」が高く、「新方地区」、「南越谷地区」が低くなっています。「親・子・孫の三世家族世帯」では、「荻島地区」が高くなっています。

年齢別でみると、全体の割合と比較して「夫婦のみ」では、60代未満で低く60代以上で高くなっています。「親・子の二世家族」では、60代未満で高く60代以上で低くなっています。

■家族構成（地区別）

（単位：人、％）

全体	n	単身	夫婦のみ	親・子の二世家族	親・子・孫の三世家族
	1,341	11.0	28.1	45.3	9.1
桜井地区	92	9.8	31.5	46.7	7.6
新方地区	51	7.8	29.4	▲ 39.2	13.7
増林地区	77	▲ 3.9	△ 33.8	46.8	11.7
大袋地区	162	13.6	32.7	41.4	8.0
荻島地区	58	6.9	▲ 20.7	50.0	△ 15.5
出羽地区	104	6.7	27.9	50.0	8.7
蒲生地区	146	14.4	26.0	43.8	11.0
川柳地区	54	9.3	29.6	46.3	11.1
大相模地区	105	6.7	25.7	△ 50.5	10.5
大沢地区	100	12.0	25.0	49.0	9.0
北越谷地区	80	15.0	27.5	45.0	8.8
越ヶ谷地区	171	15.2	24.6	46.8	7.0
南越谷地区	100	13.0	△ 35.0	▲ 40.0	6.0

■家族構成（年齢別）

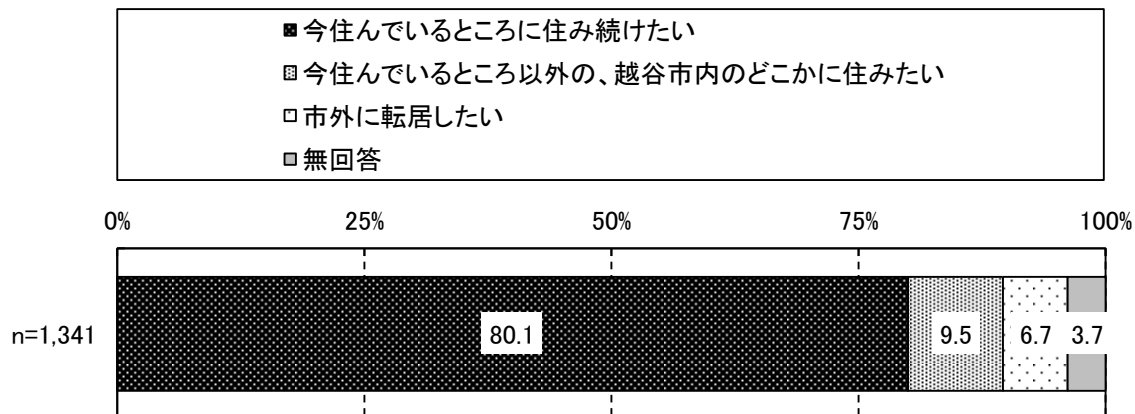
（単位：人、％）

全体	n	単身	夫婦のみ	親・子の二世家族	親・子・孫の三世家族
	1,341	11.0	28.1	45.3	9.1
20代	84	9.5	◆ 6.0	◇ 69.0	9.5
30代	125	9.6	◆ 15.2	◇ 66.4	7.2
40代	165	10.3	◆ 11.5	◇ 65.5	9.7
50代	185	8.6	◆ 17.8	◇ 61.1	9.7
60代	239	9.2	△ 36.8	▲ 38.9	9.6
70代	280	14.6	◇ 41.8	◆ 26.8	8.2
80歳以上	244	13.1	◇ 38.1	◆ 32.0	9.8

問7. 今後も越谷市に住み続けたいと思いますか。

定住意向については、「今住んでいるところに住み続けたい」が80.1%で最も高く、次いで「今住んでいるところ以外の、越谷市内のどこかに住みたい」が9.5%、「市外に転居したい」が6.7%となっています。

■定住意向



定住意向を居住地区別でみると、全体の割合と比較して「今住んでいるところに住み続けたい」では、「川柳地区」、「大相模地区」が高くなっています。「市外に転居したい」では、「桜井地区」、「大袋地区」が高くなっています。

■定住意向（地区別）

（単位：人、％）

全体	n	今住んでいるところに住み続けたい	今住んでいるところ以外の、越谷市内のどこかに住みたい	市外に転居したい
	1,341	80.1	9.5	6.7
桜井地区	92	76.1	9.8	△ 12.0
新方地区	51	78.4	11.8	5.9
増林地区	77	84.4	11.7	2.6
大袋地区	162	79.6	6.8	△ 11.7
荻島地区	58	84.5	10.3	3.4
出羽地区	104	80.8	10.6	8.7
蒲生地区	146	83.6	7.5	6.8
川柳地区	54	◇ 90.7	5.6	3.7
大相模地区	105	△ 88.6	4.8	2.9
大沢地区	100	81.0	10.0	5.0
北越谷地区	80	76.3	13.8	8.8
越ヶ谷地区	171	75.4	14.0	6.4
南越谷地区	100	81.0	6.0	6.0

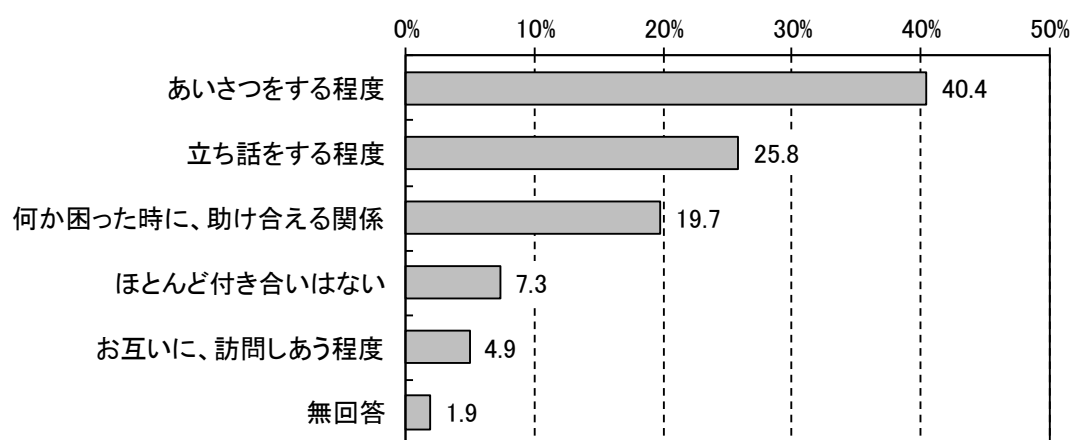
(2) 地域との関わりについて

問8. あなたは、ご近所との付き合いをどの程度していますか。(1つ)

ご近所との付き合いの状況は、「あいさつをする程度」が 40.4%で最も高く、次いで「立ち話をする程度」が 25.8%、「何か困った時に、助け合える関係」が 19.7%となっています。

■近所との付き合いの程度

n=1,341



3 調査の結果

近所との付き合いの程度を居住地区別でみると、全体の割合と比較して「何か困ったときに、助け合える関係」では、「荻島地区」、「大相模地区」が高く、「増林地区」、「北越谷地区」が低くなっています。「お互いに、訪問しあう程度」では、「桜井地区」、「荻島地区」が高くなっています。「立ち話をする程度」では、「桜井地区」、「新方地区」、「出羽地区」が高く、「荻島地区」、「越ヶ谷地区」が低くなっています。「あいさつをする程度」では、「増林地区」、「北越谷地区」、「越ヶ谷地区」が高く、「桜井地区」、「新方地区」、「大沢地区」が低くなっています。「ほとんど付き合いはない」では、「越ヶ谷地区」が高く、「桜井地区」、「新方地区」が低くなっています。

年齢別でみると、「何か困ったときに、助け合える関係」では、70代以上で高く、40代以下で低く、「立ち話をする程度」では、「60代」で高く、「20代」で低くなっています。「あいさつをする程度」では、50代以下で高く、70代以上で低くなっています。「ほとんど付き合いはない」では、30代以下で高くなっています。

■近所との付き合いの程度（地区別）

（単位：人、％）

全体	n	何か困った時に、助け合える関係	お互いに、訪問しあう程度	立ち話をする程度	あいさつをする程度	ほとんど付き合いはない
	1,341	19.7	4.9	25.8	40.4	7.3
桜井地区	92	20.7	△ 10.9	△ 31.5	▲ 34.8	▲ 2.2
新方地区	51	21.6	9.8	◇ 37.3	▲ 31.4	▲ 0.0
増林地区	77	▲ 14.3	2.6	29.9	△ 46.8	5.2
大袋地区	162	22.2	4.3	26.5	38.3	7.4
荻島地区	58	△ 27.6	△ 10.3	▲ 19.0	39.7	3.4
出羽地区	104	19.2	3.8	△ 32.7	39.4	3.8
蒲生地区	146	17.8	4.1	23.3	45.2	7.5
川柳地区	54	20.4	3.7	24.1	42.6	9.3
大相模地区	105	△ 25.7	5.7	24.8	37.1	6.7
大沢地区	100	22.0	8.0	30.0	▲ 34.0	5.0
北越谷地区	80	◆ 7.5	1.3	30.0	△ 48.8	11.3
越ヶ谷地区	171	16.4	2.3	▲ 18.1	△ 48.5	△ 14.0
南越谷地区	100	24.0	4.0	24.0	38.0	9.0

■近所との付き合いの程度（年齢別）

（単位：人、％）

全体	n	何か困った時に、助け合える関係	お互いに、訪問しあう程度	立ち話をする程度	あいさつをする程度	ほとんど付き合いはない
	1,341	19.7	4.9	25.8	40.4	7.3
20代	84	◆ 3.6	2.4	◆ 6.0	◇ 66.7	◇ 20.2
30代	125	▲ 12.8	2.4	21.6	◇ 50.4	△ 12.8
40代	165	▲ 14.5	0.6	21.2	△ 49.7	12.1
50代	185	16.2	1.6	25.9	△ 48.1	8.1
60代	239	17.2	6.7	△ 31.8	38.9	4.6
70代	280	△ 28.6	6.8	29.3	▲ 30.7	3.6
80歳以上	244	△ 28.3	9.0	29.5	◆ 29.1	3.3

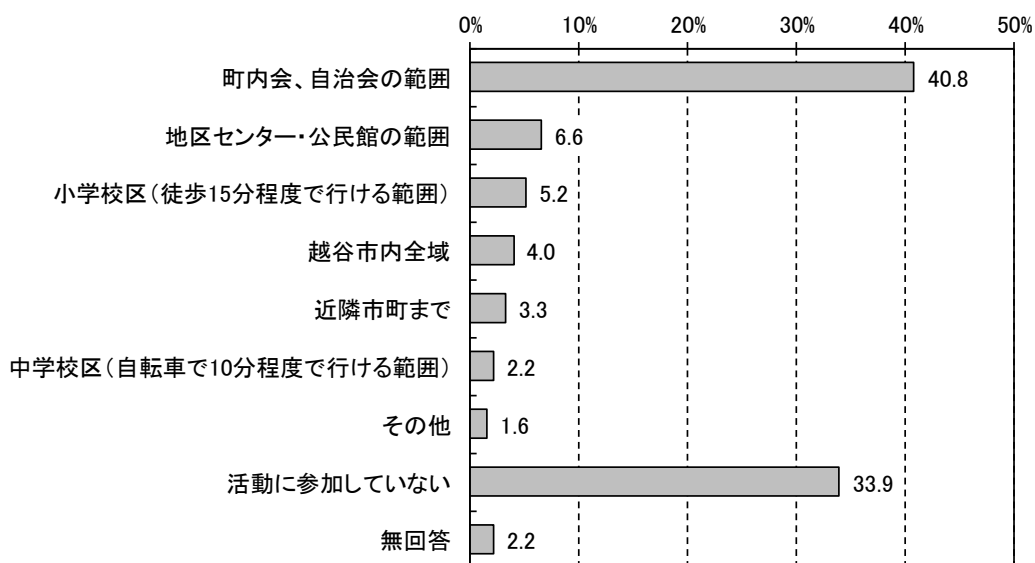
問9. あなたにとって、地域での活動やコミュニティの範囲はどれですか。（1つ）

地域での活動やコミュニティの範囲の認識は、「町内会、自治会の範囲」が40.8%で最も高く、次いで「地区センター・公民館の範囲」が6.6%、「小学校区（徒歩15分程度で行ける範囲）」が5.2%となっています。

一方、「活動に参加していない」と回答した割合が33.9%となっています。

■地域活動やコミュニティの範囲

n=1,341



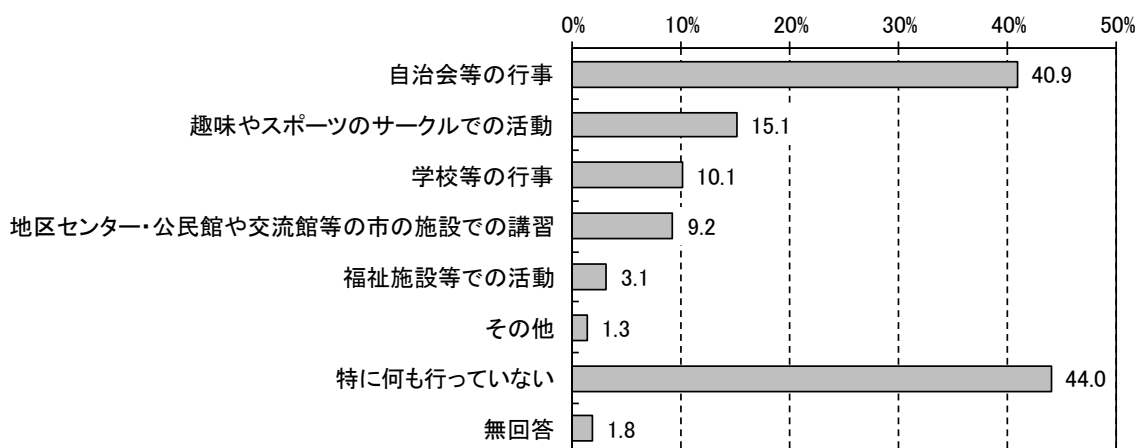
問 10. あなたは、お住まいの地域でどのような活動に参加していますか。(いくつでも)

地域における活動は、「自治会等の行事」が 40.9%で最も高く、次いで「趣味やスポーツのサークルでの活動」が 15.1%、「学校等の行事」が 10.1%となっています。

一方、「特に何も行っていない」と回答した割合が 44.0%となっています。

■地域での活動の状況

n=1,341



地域活動への参加を年齢別でみると、全体の割合と比較して「自治会等の行事」では、「50代」、「60代」、「70代」が高く、40代以下が低く、「学校等の行事」では、「30代」、「40代」が高く、60代以上が低くなっています。また、「趣味やスポーツのサークルでの活動」では、70代以上が高く、「20代」、「30代」、「50代」が低く、「地区センター・公民館や交流館等の市の施設での講習」では、「70代」が高く、「20代」が低くなっています。

一方、「特に何も行っていない」では、「20代」が高く、「60代」、「70代」が低くなっています。

■地域での活動の状況（年齢別）

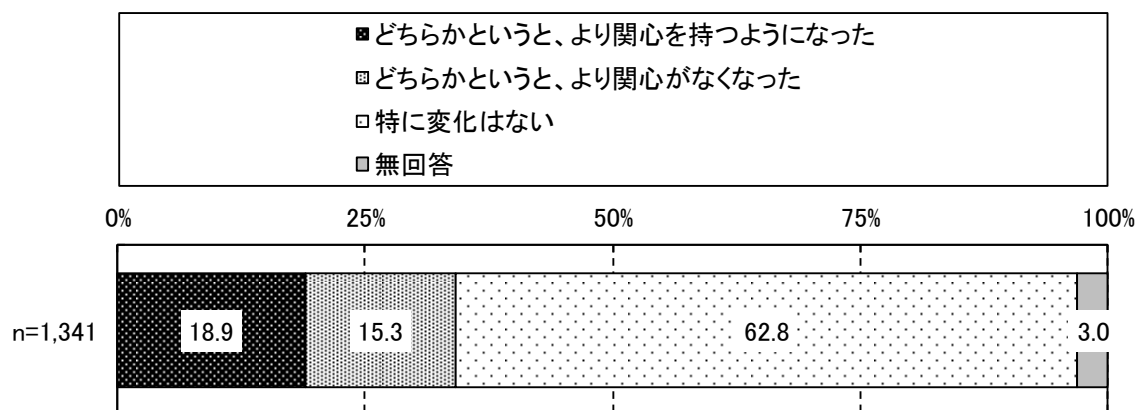
（単位：人、%）

全体	n	自治会等の行事	学校等の行事	福祉施設等での活動	趣味やスポーツのサークルでの活動	地区センター・公民館や交流館等の市の施設での講習	その他	特に何も行っていない
	1,341	40.9	10.1	3.1	15.1	9.2	1.3	44.0
20代	84	◆ 11.9	◇ 6.0	1.2	◆ 4.8	▲ 1.2	0.0	◇ 79.8
30代	125	◆ 29.6	◇ 31.2	2.4	◆ 4.8	7.2	0.8	48.8
40代	165	▲ 34.5	◇ 37.6	1.2	10.3	5.5	0.6	46.1
50代	185	△ 47.0	8.1	0.5	▲ 9.2	6.5	2.2	46.5
60代	239	◇ 53.6	▲ 3.8	2.9	16.7	10.9	1.7	▲ 35.6
70代	280	△ 46.1	▲ 0.7	5.7	△ 23.2	△ 15.7	1.1	▲ 37.5
80歳以上	244	40.6	▲ 1.6	4.5	△ 22.1	9.0	2.0	43.9

問 11. あなたの地域の行事や活動についての関心は、以前と比べて（約 5 年前と比べて）どのように変化したと感じますか。（1つ）

地域の行事や活動についての関心の変化は、「どちらかというと、より関心を持つようになった」が 18.9%、「どちらかというと、より関心がなくなった」が 15.3%で比較すると「どちらかというと、より関心を持つようになった」が 3.6 ポイント上回っています。

■地域の活動等への関心の変化

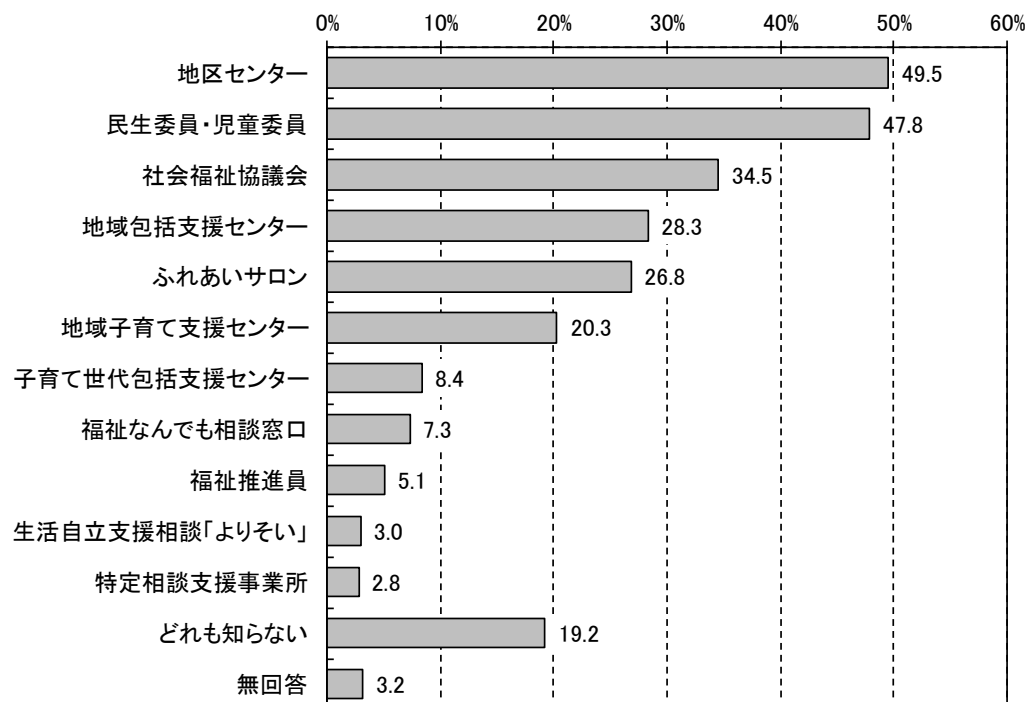


問 12. あなたは、次のような地域福祉の拠点や組織を知っていますか。（いくつでも）

地域福祉の拠点や組織の認識は、「地区センター」が 49.5%で最も高く、次いで「民生委員・児童委員」が 47.8%、「社会福祉協議会」が 34.5%となっています。

■ 地域福祉の拠点や組織の認知度

n=1,341



地域福祉の拠点や組織の認識の程度について上位4位を地区別でみると、全体の割合と比較して「区民センター」では、「荻島地区」、「川柳地区」、「大相模地区」、「大沢地区」が高く、「大袋地区」、「越ヶ谷地区」が低くなっています。「民生委員・児童委員」では、「大相模地区」、「南越谷地区」が高く、「北越谷地区」、「越ヶ谷地区」が低くなっています。「社会福祉協議会」では、「出羽地区」、「大相模地区」、「南越谷地区」が高く、「大袋地区」、「荻島地区」が低くなっています。「地域包括支援センター」では、「新方地区」、「川柳地区」が高く、「荻島地区」、「越ヶ谷地区」が低くなっています。

年齢別でみると、「区民センター」では、「50代」が高く、30代以下が低くなっています。「民生委員・児童委員」、「社会福祉協議会」、「地域包括支援センター」では、いずれも「50代、60代」が高く、40代以下が低くなっています。

■地域福祉の拠点や組織の認知度・上位4位（地区別）（単位：人、％）

全体	n	地区センター	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	地域包括支援センター
	1,341	49.5	47.8	34.5	28.3
桜井地区	92	53.3	47.8	37.0	32.6
新方地区	51	52.9	49.0	31.4	◇ 41.2
増林地区	77	53.2	51.9	39.0	31.2
大袋地区	162	▲ 41.4	46.3	▲ 25.3	23.5
荻島地区	58	◇ 67.2	48.3	▲ 25.9	▲ 22.4
出羽地区	104	52.9	51.9	△ 44.2	27.9
蒲生地区	146	47.9	52.1	33.6	26.0
川柳地区	54	◇ 66.7	46.3	37.0	△ 35.2
大相模地区	105	◇ 62.9	△ 55.2	△ 41.0	32.4
大沢地区	100	△ 56.0	51.0	35.0	33.0
北越谷地区	80	51.3	▲ 42.5	30.0	27.5
越ヶ谷地区	171	◆ 28.1	▲ 38.0	32.2	▲ 21.6
南越谷地区	100	54.0	△ 55.0	△ 40.0	26.0

■地域福祉の拠点や組織の認知度・上位4位（年齢別）（単位：人、％）

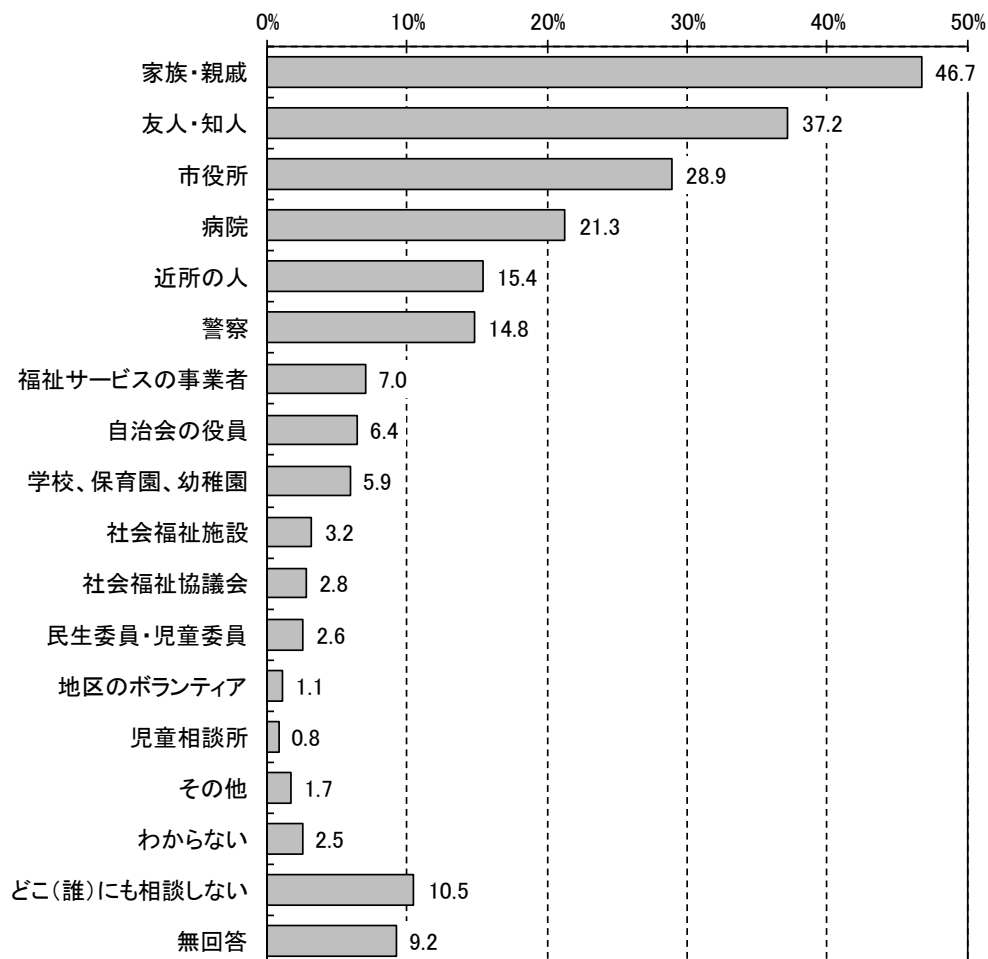
全体	n	地区センター	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	地域包括支援センター
	1,341	49.5	47.8	34.5	28.3
20代	84	▲ 41.7	◆ 19.0	◆ 16.7	◆ 17.9
30代	125	◆ 37.6	▲ 41.6	◆ 21.6	▲ 20.8
40代	165	52.1	▲ 42.4	▲ 27.3	▲ 22.4
50代	185	△ 55.1	△ 53.5	△ 40.0	△ 34.6
60代	239	53.1	△ 56.1	△ 42.7	△ 33.5
70代	280	51.8	51.1	37.1	29.3
80歳以上	244	46.3	48.8	36.5	28.7

問 13. 日常生活で困ったことがあった際に、実際に相談したことがある人（もしくは窓口等）はどこ（誰）ですか。（いくつでも）

困ったことがあった際の相談先については、「家族・親戚」が 46.7%で最も高く、次いで「友人・知人」が 37.2%、「市役所」が 28.9%となっています。

■困ったことがあった際の相談先

n=1,341



困ったことがあった際の相談先について上位4位を地区別で見ると、全体の割合と比較して「家族・親戚」では、「荻島地区」、「大沢地区」、「南越谷地区」が高く、「出羽地区」、「北越谷地区」が低くなっています。「友人・知人」では、「新方地区」、「大袋地区」、「荻島地区」、「大沢地区」、「南越谷地区」が高く、「蒲生地区」、「大相模地区」が低くなっています。「市役所」では、「増林地区」、「荻島地区」が低くなっています。「病院」では、「桜井地区」、「南越谷地区」が高く、「蒲生地区」、「北越谷地区」が低くなっています。

年齢別で見ると、「家族・親戚」は40代以下が高く、60代以上が低くなっています。「友人・知人」では、40代以下が高く、70代以上が低くなっています。

■困ったことがあった際の相談先・上位4位（地区別）（単位：人、％）

全体	n	家族・親戚		友人・知人		市役所		病院	
	1,341		46.7		37.2		28.9		21.3
桜井地区	92		48.9		39.1		32.6	△	27.2
新方地区	51		43.1	△	43.1		27.5		17.6
増林地区	77		44.2		32.5	▲	22.1		19.5
大袋地区	162		48.8	△	45.7		29.6		25.9
荻島地区	58	△	55.2	△	44.8	▲	20.7		19.0
出羽地区	104	▲	40.4		35.6		29.8		18.3
蒲生地区	146		45.2	▲	32.2		26.7	▲	14.4
川柳地区	54		44.4		37.0		25.9		22.2
大相模地区	105		46.7	▲	28.6		31.4		23.8
大沢地区	100	△	52.0	△	43.0		27.0		18.0
北越谷地区	80	▲	41.3		33.8		26.3	▲	16.3
越ヶ谷地区	171		44.4		32.7		33.3		22.8
南越谷地区	100	△	54.0	△	43.0		29.0	△	27.0

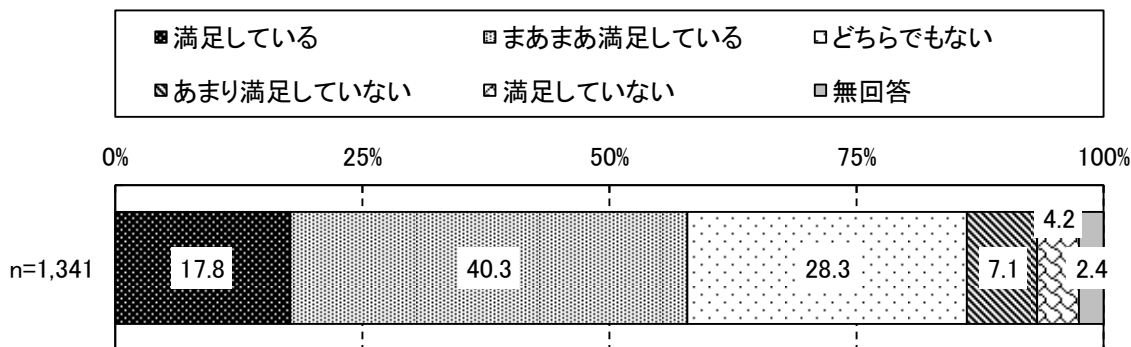
■困ったことがあった際の相談先・上位4位（年齢別）（単位：人、％）

全体	n	家族・親戚		友人・知人		市役所		病院	
	1,341		46.7		37.2		28.9		21.3
20代	84	◇	72.6	◇	58.3		26.2		20.2
30代	125	◇	64.0	◇	60.0		25.6		24.0
40代	165	△	54.5	△	46.7		27.9		20.6
50代	185		44.9		37.3	△	36.8		23.8
60代	239	▲	40.6		33.9		26.4	▲	14.2
70代	280	▲	40.7	▲	30.7		31.4		23.2
80歳以上	244	▲	38.5	◆	24.2		25.4		23.8

問 14. 現在お住まいの地域との関わりについて、満足していますか。（1つ）

現在住んでいる地域との関わりについての状況では、「満足している」が17.8%、「まあまあ満足している」が40.3%で、合計すると58.1%が満足していると回答しています。

■地域との関わり合いの満足度



地域との関わり合いの満足度を地区別でみると、「満足している」と「まあまあ満足している」を合計した割合では、「北越谷地区」で50%を下回っています。

また、「あまり満足していない」と「満足していない」を合計した割合では、「大相模地区」が高く、「桜井地区」、「大沢地区」が低くなっています。

■地域との関わり合いの満足度（地区別）

（単位：人、%）

全体	n	満足している + まあまあ満足している	どちらでもない	あまり満足していない + 満足していない
	1,341	58.1	28.3	11.3
桜井地区	92	63.0	31.5	▲ 5.4
新方地区	51	56.9	23.5	15.7
増林地区	77	62.4	28.6	9.1
大袋地区	162	59.8	30.2	9.9
荻島地区	58	62.1	25.9	10.4
出羽地区	104	53.8	27.9	15.4
蒲生地区	146	58.9	29.5	8.2
川柳地区	54	53.7	29.6	11.2
大相模地区	105	53.4	26.7	△ 18.1
大沢地区	100	△ 68.0	25.0	▲ 6.0
北越谷地区	80	▲ 48.8	31.3	12.5
越ヶ谷地区	171	54.4	31.6	11.7
南越谷地区	100	58.0	24.0	15.0

地域との関わり合いの満足度を年齢別でみると、「満足している」と「まあまあ満足している」を合計した割合では、「80 歳以上」が最も高く、「50 代」が最も低くなっています。

■地域との関わり合いの満足度（年齢別）（単位：人、％）

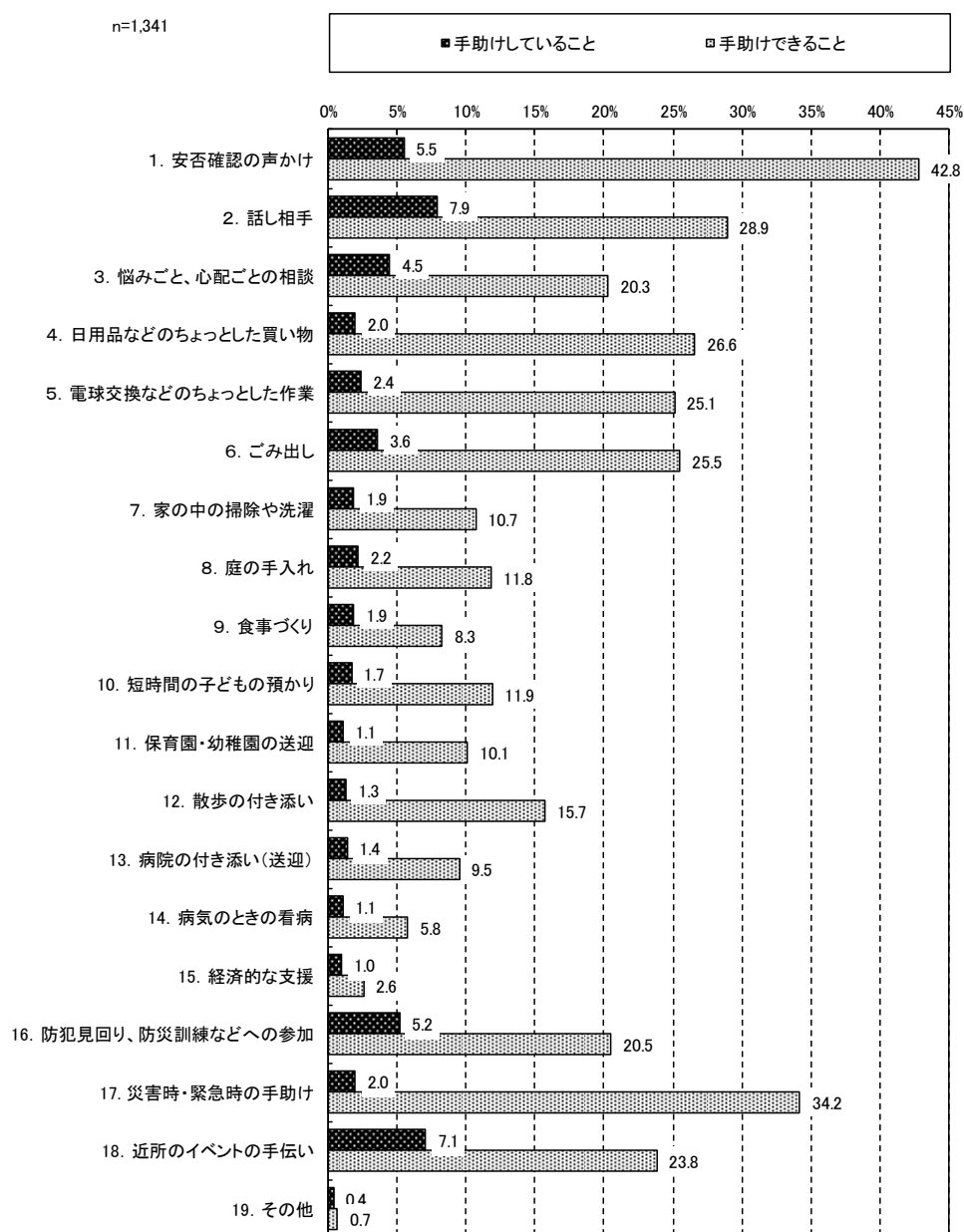
全体	n	満足している + まあまあ満足している	どちらでもない	あまり満足していない + 満足していない
	1,341	58.1	28.3	11.3
20代	84	54.8	32.1	11.9
30代	125	56.8	30.4	12.8
40代	165	57.6	28.5	11.5
50代	185	◆ 47.0	△ 37.8	14.6
60代	239	56.1	28.9	11.7
70代	280	62.5	25.0	9.6
80歳以上	244	△ 65.1	▲ 21.7	9.4

問 15. あなたは、地域に困っている世帯がある場合、現在すでに「手助けしていること」や今後「手助けできること」はありますか。また、現在もしくは将来的に、あなた自身が地域の人に「手助けしてほしいこと」はありますか。（いくつでも）

地域に困っている世帯がある場合に「手助けしていること」については、「2. 話し相手」が 7.9%で最も高く、次いで「18. 近所のイベントの手伝い」が 7.1%、「1. 安否確認の声かけ」が 5.5%、「16. 防犯見回り、防災訓練などへの参加」が 5.2%となっています。

今後「手助けできること」については、「1. 安否確認の声かけ」が 42.8%で最も高く、次いで「17. 災害時・緊急時の手助け」が 34.2%、「2. 話し相手」が 28.9%となっています。

■手助けしていること・手助けできること



「手助けしていること」について上位4位を地区別でみると、全体の割合と比較して「話し相手」では、「川柳地区」が高くなっています。「近所のイベントの手伝い」では、「新方地区」が高く、「北越谷地区」が低くなっています。「防犯見回り、防災訓練などへの参加」では、「荻島地区」が高くなっています。

年齢別でみると、総じて60代以上で全体の割合と比較して高くなっているが、「話し相手」では、「20代」も高くなっています。

■手助けしていること・上位4位（地区別）（単位：人、％）

全体	n	話し相手	近所のイベント の手伝い	安否確認の声 かけ	防犯見回り、 防災訓練など への参加
	1,341	7.9	7.1	5.5	5.2
桜井地区	92	10.9	4.3	9.8	5.4
新方地区	51	11.8	△ 15.7	9.8	7.8
増林地区	77	9.1	7.8	5.2	6.5
大袋地区	162	8.0	6.2	4.9	5.6
荻島地区	58	6.9	6.9	8.6	△ 12.1
出羽地区	104	6.7	11.5	4.8	3.8
蒲生地区	146	6.2	4.8	6.2	6.2
川柳地区	54	△ 13.0	7.4	5.6	1.9
大相模地区	105	7.6	10.5	3.8	2.9
大沢地区	100	5.0	4.0	5.0	5.0
北越谷地区	80	10.0	▲ 1.3	2.5	2.5
越ヶ谷地区	171	5.8	7.0	2.9	4.7
南越谷地区	100	10.0	8.0	10.0	8.0

■手助けしていること・上位4位（年齢別）（単位：人、％）

全体	n	話し相手	近所のイベント の手伝い	安否確認の声 かけ	防犯見回り、 防災訓練など への参加
	1,341	7.9	7.1	5.5	5.2
20代	84	9.5	4.8	▲ 0.0	1.2
30代	125	6.4	3.2	1.6	4.0
40代	165	4.2	6.1	5.5	3.6
50代	185	6.5	7.6	5.4	8.1
60代	239	9.6	8.8	5.9	5.4
70代	280	8.9	7.5	7.9	6.1
80歳以上	244	8.6	7.4	7.0	5.3

「手助けできること」について上位4位を地区別でみると、全体の割合と比較して「安否確認の声かけ」では、「大沢地区」、「南越谷地区」が高く、「出羽地区」が低くなっています。「災害時・緊急時の手助け」では、「新方地区」、「増林地区」が高く、「荻島地区」が低くなっています。「話し相手」では、「新方地区」、「大沢地区」が高く、「北越谷地区」、「越ヶ谷地区」が低くなっています。「日用品などのちょっとした買い物」では、「大袋地区」が低くなっています。

年齢別でみると、「安否確認の声かけ」、「災害時・緊急時の手助け」では、60代以下で高く、70代以上で低くなっています。「話し相手」では、40代以下で高く、70代以上で低く、「日用品などのちょっとした買い物」では、60代以下で高く、70代以上で低くなっています。

■手助けできること・上位4位（地区別）（単位：人、%）

全体	n	安否確認の声かけ	災害時・緊急時の手助け	話し相手	日用品などのちょっとした買い物
	1,341	42.8	34.2	28.9	26.6
桜井地区	92	38.0	31.5	28.3	27.2
新方地区	51	47.1	◇ 45.1	△ 37.3	31.4
増林地区	77	42.9	△ 40.3	24.7	26.0
大袋地区	162	40.1	32.1	29.6	▲ 21.6
荻島地区	58	39.7	▲ 27.6	31.0	25.9
出羽地区	104	▲ 35.6	33.7	26.0	27.9
蒲生地区	146	45.2	29.5	28.1	29.5
川柳地区	54	40.7	35.2	25.9	25.9
大相模地区	105	44.8	32.4	32.4	28.6
大沢地区	100	△ 51.0	36.0	△ 35.0	29.0
北越谷地区	80	46.3	37.5	▲ 23.8	23.8
越ヶ谷地区	171	38.0	33.9	▲ 23.4	22.2
南越谷地区	100	△ 49.0	32.0	33.0	31.0

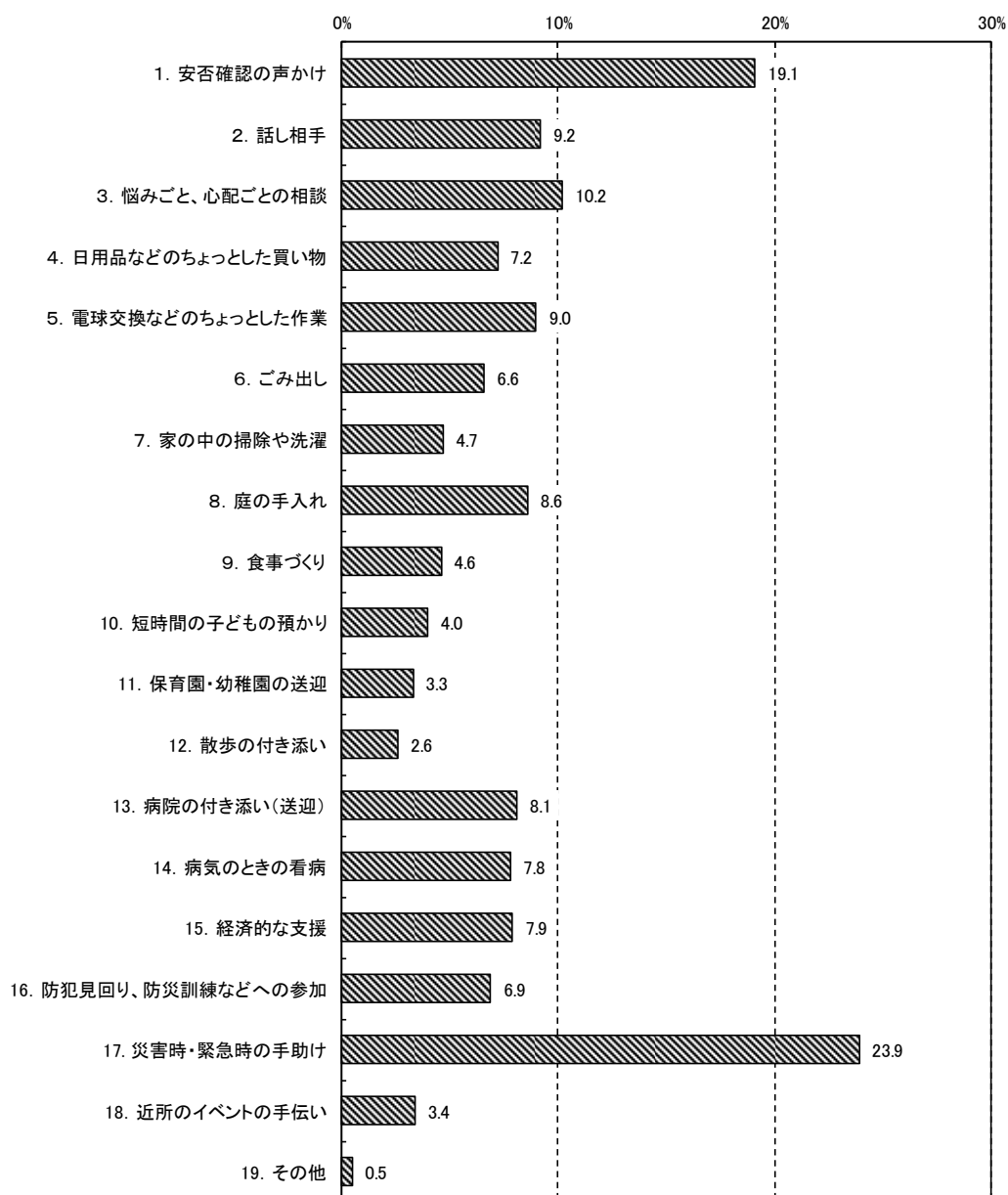
■手助けできること・上位4位（年齢別）（単位：人、%）

全体	n	安否確認の声かけ	災害時・緊急時の手助け	話し相手	日用品などのちょっとした買い物
	1,341	42.8	34.2	28.9	26.6
20代	84	◇ 57.1	◇ 54.8	◇ 41.7	◇ 36.9
30代	125	◇ 62.4	◇ 51.2	◇ 39.2	◇ 39.2
40代	165	◇ 56.4	◇ 50.9	△ 36.4	△ 33.3
50代	185	◇ 55.7	◇ 47.0	31.9	31.4
60代	239	△ 52.3	△ 42.3	33.5	◇ 38.9
70代	280	◆ 27.5	◆ 17.5	▲ 23.9	▲ 17.1
80歳以上	244	◆ 16.8	◆ 7.8	◆ 13.1	◆ 7.8

現在もしくは将来的に、あなた自身が地域の人に「手助けしてほしいこと」については、「17. 災害時・緊急時の手助け」が 23.9%で最も高く、次いで「1. 安否確認の声かけ」が 19.1%、「3. 悩みごと、心配ごとの相談」が 10.2%となっています。

■手助けしてほしいこと

n=1,341



3 調査の結果

「手助けしてほしいこと」について上位4位を地区別でみると、全体の割合と比較して「災害時・緊急時の手助け」では、「増林地区」、「大相模地区」が高く、「出羽地区」、「北越谷地区」、「南越谷地区」が低くなっています。「安否確認の声かけ」では、「増林地区」、「北越谷地区」が高く、「出羽地区」、「蒲生地区」が低くなっています。「悩みごと、心配ごとの相談」では、「桜井地区」が高くなっています。「話し相手」では、「出羽地区」低くなっています。

年齢別でみると、「災害時・緊急時の手助け」は「40代」が高く、「60代」が低くなっています。「悩みごと、心配ごとの相談」では、「30代」が高く、「60代」が低くなっています。

■手助けしてほしいこと・上位4位（地区別）（単位：人、%）

全体	n	災害時・緊急時の手助け	安否確認の声かけ	悩みごと、心配ごとの相談	話し相手
	1,341	23.9	19.1	10.2	9.2
桜井地区	92	26.1	21.7	△ 15.2	8.7
新方地区	51	27.5	19.6	9.8	11.8
増林地区	77	△ 33.8	△ 26.0	11.7	11.7
大袋地区	162	24.7	20.4	12.3	11.7
荻島地区	58	22.4	19.0	12.1	8.6
出羽地区	104	▲ 18.3	◆ 7.7	6.7	▲ 3.8
蒲生地区	146	22.6	▲ 13.0	11.0	6.8
川柳地区	54	24.1	18.5	7.4	11.1
大相模地区	105	△ 30.5	21.0	8.6	13.3
大沢地区	100	28.0	20.0	9.0	7.0
北越谷地区	80	▲ 16.3	△ 25.0	11.3	7.5
越ヶ谷地区	171	24.0	19.9	7.6	7.6
南越谷地区	100	◆ 13.0	21.0	11.0	12.0

■手助けしてほしいこと・上位4位（年齢別）（単位：人、%）

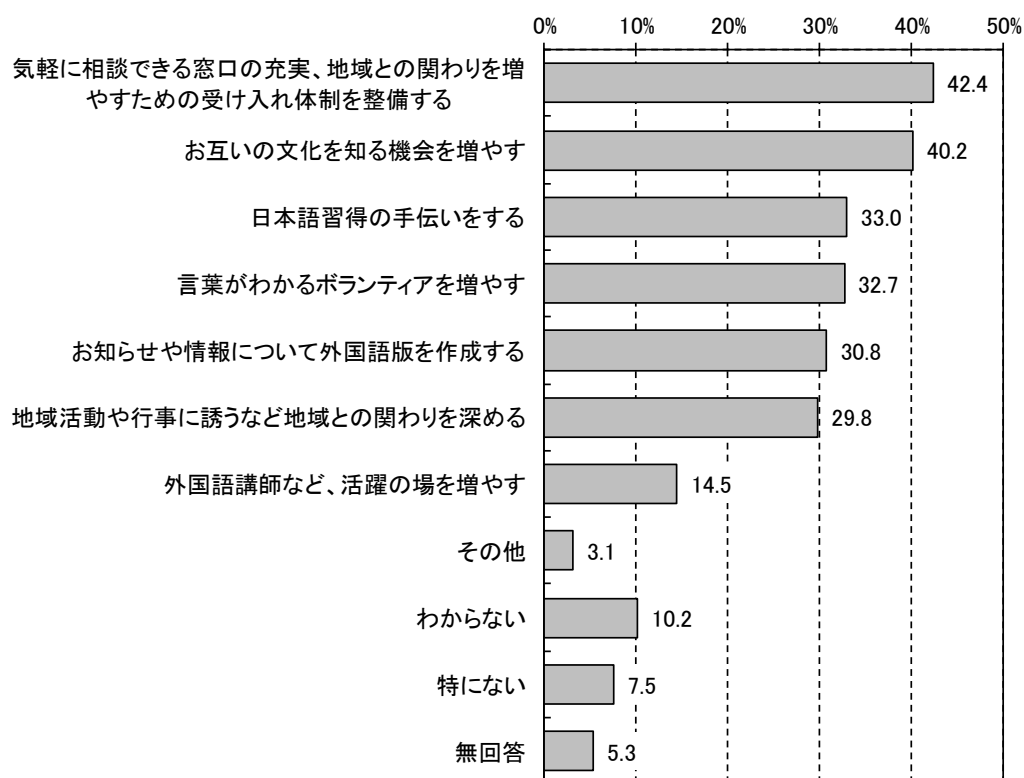
全体	n	災害時・緊急時の手助け	安否確認の声かけ	悩みごと、心配ごとの相談	話し相手
	1,341	23.9	19.1	10.2	9.2
20代	84	27.4	21.4	14.3	9.5
30代	125	28.0	22.4	△ 18.4	12.0
40代	165	△ 30.3	22.4	13.3	9.1
50代	185	28.1	23.2	10.8	7.0
60代	239	▲ 18.0	15.9	▲ 5.0	5.9
70代	280	22.1	17.5	6.1	10.0
80歳以上	244	20.9	16.0	11.5	11.1

問 16. 在住外国人にとっても暮らしやすい地域にするためには、どのようなことが大事だと思いますか。（いくつでも）

在住外国人が暮らしやすい地域にするために大事だと思うことについては、「気軽に相談できる窓口の充実、地域との関わりを増やすための受け入れ体制を整備する」が42.4%で最も高く、次いで「お互いの文化を知る機会を増やす」が40.2%となっています。

■在住外国人が暮らしやすい地域にするためには

n=1,341



在住外国人が暮らしやすい地域にするために大事だと思うことについて上位4位を地区別でみると、全体の割合と比較して「気軽に相談できる窓口の充実、地域との関わりを増やすための受け入れ体制を整備する」では、「桜井地区」、「川柳地区」、「越ヶ谷地区」、「南越谷地区」が高く、「増林地区」、「出羽地区」、「蒲生地区」が低くなっています。「お互いの文化を知る機会を増やす」では、「荻島地区」、「大相模地区」が高く、「出羽地区」、「蒲生地区」、「南越谷地区」が低くなっています。「日本語習得の手伝いをする」では、「桜井地区」、「新方地区」、「増林地区」が高く、「荻島地区」、「出羽地区」が低くなっています。「言葉がわかるボランティアを増やす」では、「桜井地区」、「南越谷地区」が高くなっています。

年齢別でみると、「気軽に相談できる窓口の充実、地域との関わりを増やすための受け入れ体制を整備する」では、「20代」、「50代」、「60代」が高く、「30代」、「70代」、「80歳以上」が低くなっています。「お互いの文化を知る機会を増やす」では、「30代」、「40代」が高く、70代以上が低くなっています。「日本語習得の手伝いをする」では、「20代」、「40代」、「50代」、「60代」が高く、70代以上が低くなっています。「言葉がわかるボランティアを増やす」では、「20代」、「30代」、「50代」が高く、「60代」、「80歳以上」が低くなっています。

■在住外国人が暮らしやすい地域にするためには・上位4位（地区別）（単位：人、％）

全体	n	気軽に相談できる窓口 の充実、地域との関わり を増やすための受け入 れ体制を整備する	お互いの文化を知る 機会を増やす	日本語習得の手伝 いをする	言葉がわかるボラン ティアを増やす				
	1,341	42.4	40.2	33.0	32.7				
桜井地区	92	△	48.9	41.3	△	38.0			
新方地区	51		39.2	41.2	◇	43.1	31.4		
増林地区	77	◆	31.2	44.2	△	42.9	28.6		
大袋地区	162		40.7	42.0		34.6	34.6		
荻島地区	58		37.9	△	46.6	▲	25.9	31.0	
出羽地区	104	▲	32.7	▲	33.7	▲	26.0	31.7	
蒲生地区	146	▲	35.6	▲	34.2		33.6	31.5	
川柳地区	54	△	50.0		38.9		37.0	35.2	
大相模地区	105		45.7	△	48.6		28.6	31.4	
大沢地区	100		40.0		41.0		36.0	29.0	
北越谷地区	80		46.3		38.8		31.3	28.8	
越ヶ谷地区	171	△	48.0		42.1		28.1	35.7	
南越谷地区	100	△	52.0	▲	33.0		33.0	△	38.0

■在住外国人が暮らしやすい地域にするためには・上位4位（年齢別）（単位：人、％）

全体	n	気軽に相談できる窓口 の充実、地域との関わり を増やすための受け入 れ体制を整備する		お互いの文化を知る 機会を増やす		日本語習得の手伝 いをする		言葉がわかるボラン ティアを増やす	
	1,341	42.4		40.2		33.0		32.7	
20代	84	△	48.8		38.1	△	39.3	△	38.1
30代	125	▲	35.2	◇	52.8		36.0	◇	49.6
40代	165		43.6	◇	50.3	△	39.4		33.9
50代	185	◇	53.5		44.9	△	39.5	△	38.9
60代	239	△	51.0		42.7	△	40.2	▲	27.6
70代	280	▲	36.4	▲	33.6	▲	27.1		30.7
80歳以上	244	◆	32.4	◆	29.5	◆	19.7	▲	24.2

問 17. 地域社会における市民と行政の望ましい役割分担について、どのようにお考えですか。（1つ）

地域社会における市民と行政の役割分担の考えを「主に行政が考える」「共に考える」「主に市民が考える」を比較すると以下の結果となっています。

■「主に行政が考える」について

◇「3. 予算を検討し、決定する」は5つの項目の中で「主に行政が考える」割合が「共に考える」「主に市民が考える」と比較して唯一最も高くなっています。

◇「1. 地域の問題や課題を明らかにする」「2. 地域で解決すべき課題の優先順位を考える」「5. 施策の成果を評価する」の3項目の割合は他の項目と比べて低い割合となっています。

■「共に考える」について

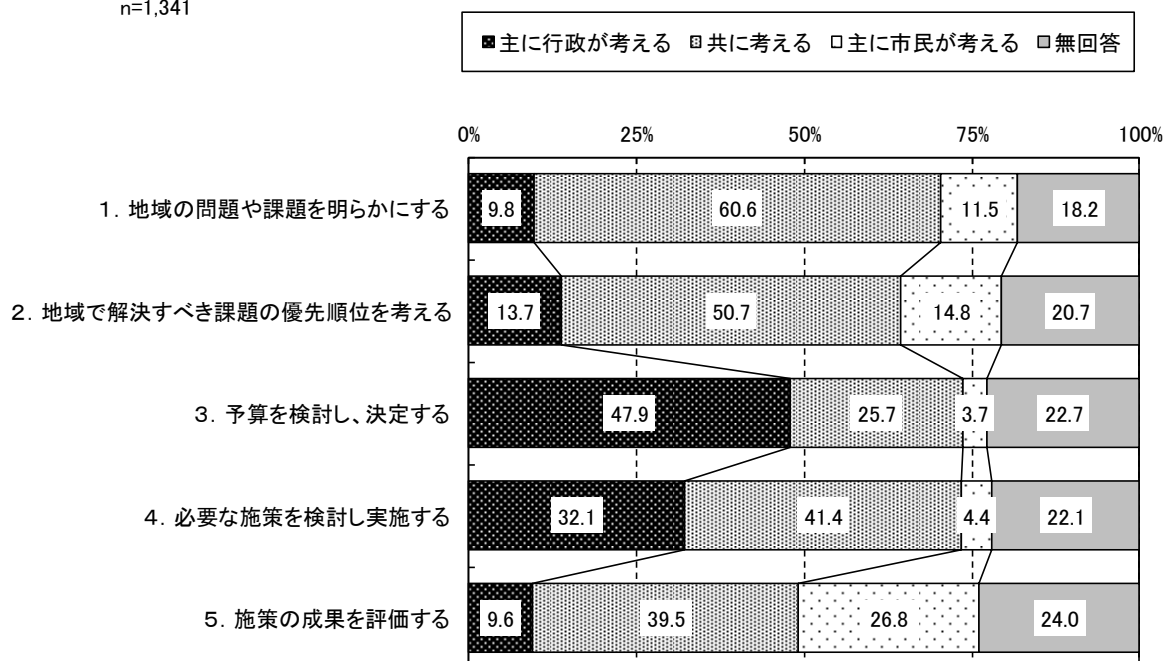
◇「3. 予算を検討し、決定する」以外の4項目全てにおいて「主に行政が考える」と「主に市民が考える」と比較して最も高くなっています。なかでも「1. 地域の問題や課題を明らかにする」は60.6%と6割以上の人が回答しています。

■「主に市民が考える」について

◇「主に行政が考える」「共に考える」と比較して、「主に市民が考える」が最も高い項目はありませんが、5つの項目の中では「5. 施策の成果を評価する」が26.8%で最も高くなっています。

■市民と行政の役割分担

n=1,341

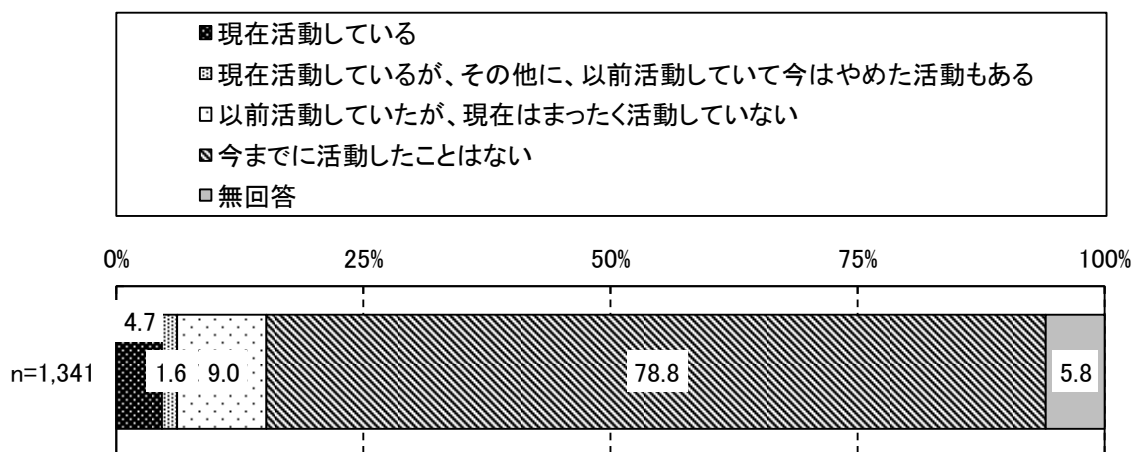


(3) ボランティア・NPO活動について

問 18. これまでにボランティアやNPOで活動したことがありますか。(1つ)

ボランティアやNPO活動の状況は、『現在活動している』(「現在活動している」と「現在活動しているが、その他に、以前活動していて今は辞めた活動もある」の合計)が6.3%となっています。

■ ボランティアやNPO活動の経験



ボランティアやNPO活動の経験を年齢別でみると、「以前活動していたが、現在はまったく活動していない」割合は「20代」で高くなっています。

また、「今までに活動したことがない」では、「80歳以上」が最も低くなっており、概ね年齢が上がるにつれて低くなっています。

■ ボランティアやNPO活動の経験（年齢別）（単位：人、%）

全体	n	現在活動している	現在活動しているが、その他に、以前活動していて今はやめた活動もある	以前活動していたが、現在はまったく活動していない	今までに活動したことはない
	1,341	4.7	1.6	9.0	78.8
20代	84	2.4	1.2	◇ 19.0	77.4
30代	125	0.0	0.8	△ 12.8	84.0
40代	165	3.6	0.0	8.5	83.6
50代	185	4.3	1.1	7.0	△ 84.3
60代	239	7.5	2.9	5.9	79.9
70代	280	5.7	2.1	6.1	78.9
80歳以上	244	4.9	1.6	11.5	▲ 68.9

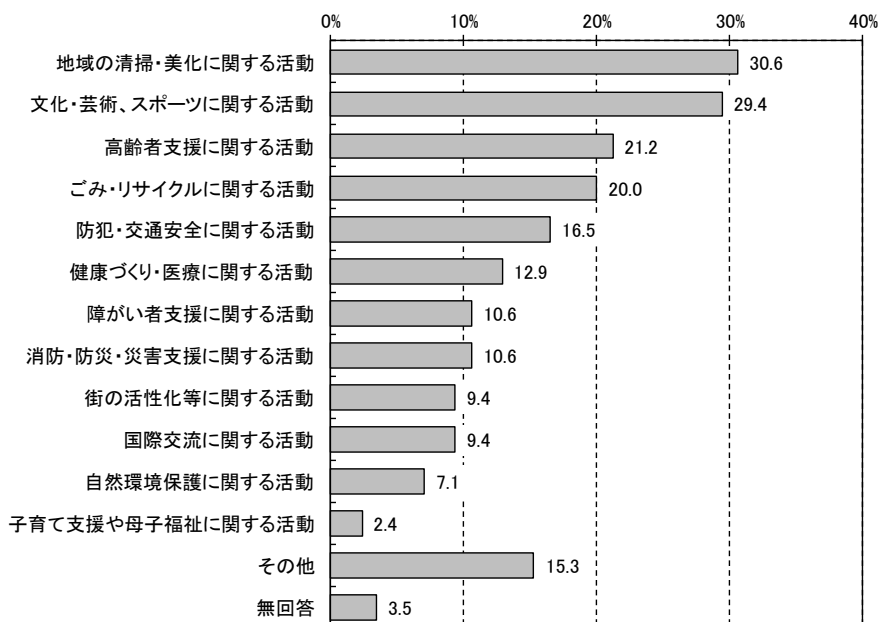
問 18-1. (問 18 で「1」、「2」を選択された方に伺います。)

現在どのような活動をしていますか。(いくつでも)

ボランティアやNPO活動を「現在活動中」と回答した方の活動内容は、「地域の清掃・美化に関する活動」が30.6%で最も高く、次いで「文化・芸術、スポーツに関する活動」が29.4%、「高齢者支援に関する活動」が21.2%、「ごみ・リサイクルに関する活動」が20.0%となっています。

■活動内容

n=85



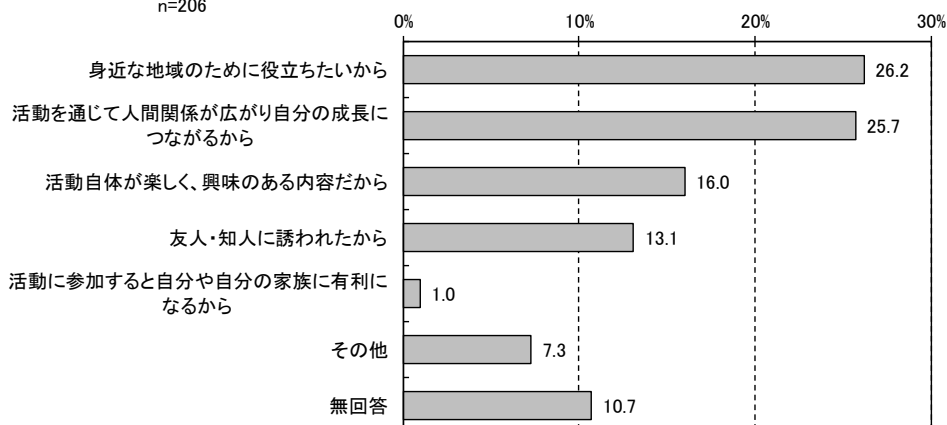
問 18-2. (問 13 で「1」、「2」、「3」を選択した方に伺います。)

ボランティア活動やNPO活動に参加している（していた）理由として、最もあてはまるものはなんですか。(1つ)

ボランティアやNPO活動を「現在活動中」や「以前活動していた」と回答した方の活動理由は、「身近な地域のために役立ちたいから」が26.2%で最も高く、次いで「活動を通じて人間関係が広がり自分の成長につながるから」が25.7%となっています。

■ボランティアやNPO活動に参加している（していた）理由

n=206

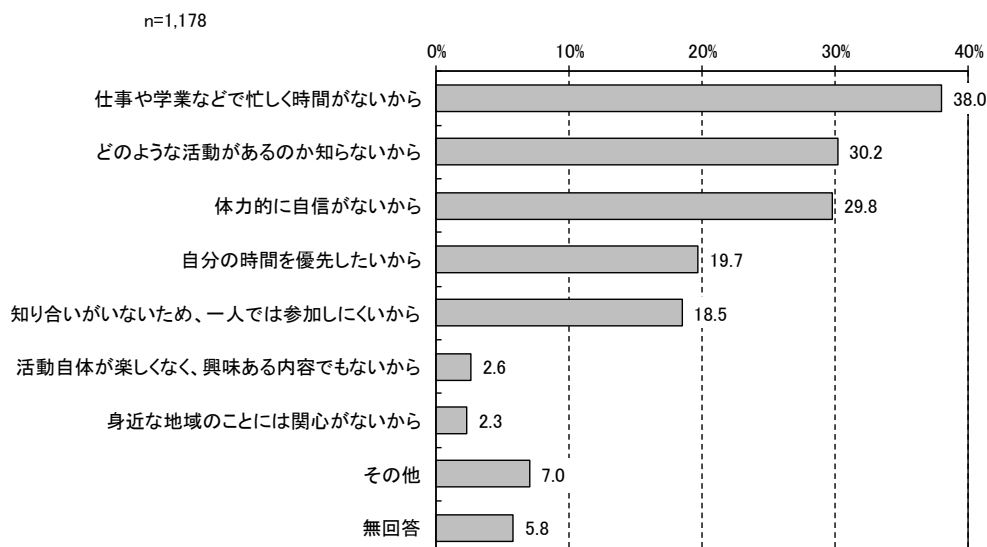


問 18-3. (問 13 で「3」、「4」を選択した方に伺います。)

あなたがボランティア活動やNPO活動に参加していない主な理由としてあてはまるものはなんですか。(2つまで)

ボランティアやNPO活動を「以前活動していたが、現在は全く活動していない」「今までに活動したことはない」と回答した方のボランティアやNPO活動に参加していない理由は、「仕事や学業などで忙しく時間がないから」が 38.0%で最も高く、次いで「どのような活動があるのか知らないから」が 30.2%、「体力的に自信がないから」が 29.8%となっています。

■ ボランティアやNPO活動に参加していない理由



ボランティアやNPO活動に参加していない理由を年齢別でみると、「仕事や学業などで忙しく時間がないから」の割合は50代以下で高く、体力的に自信がないからは、70代以上で高くなっています。「どのような活動があるのか知らないから」、「自分の時間を優先したいから」は「20代」で高くなっています。「知り合いがいないため、一人では参加しにくいから」は、「70代」で高くなっています。

■ ボランティアやNPO活動に参加していない理由（年齢別）

(単位：人、%)

全体	n	活動自体が楽しくなく、興味ある内容でもないから	身近な地域のことには関心がないから	仕事や学業などで忙しく時間がないから	どのような活動があるのか知らないから	体力的に自信がないから	自分の時間を優先したいから	知り合いがいないため、一人では参加しにくいから	その他
	1,178	2.6	2.3	38.0	30.2	29.8	19.7	18.5	7.0
20代	81	6.2	2.5	◇ 49.4	◇ 40.7	◆ 6.2	△ 25.9	21.0	3.7
30代	121	4.1	0.8	◇ 62.0	33.1	◆ 6.6	23.1	17.4	5.0
40代	152	4.6	3.9	◇ 57.2	31.6	◆ 14.5	19.1	17.8	5.9
50代	169	0.6	1.8	◇ 65.1	26.0	◆ 18.9	21.3	18.3	8.3
60代	205	1.5	2.0	40.0	34.1	28.3	23.4	20.5	6.3
70代	238	2.1	2.9	◆ 14.7	31.9	◇ 46.2	19.7	△ 24.4	8.0
80歳以上	196	2.6	2.0	◆ 8.2	▲ 21.4	◇ 57.7	▲ 10.7	▲ 9.7	8.7

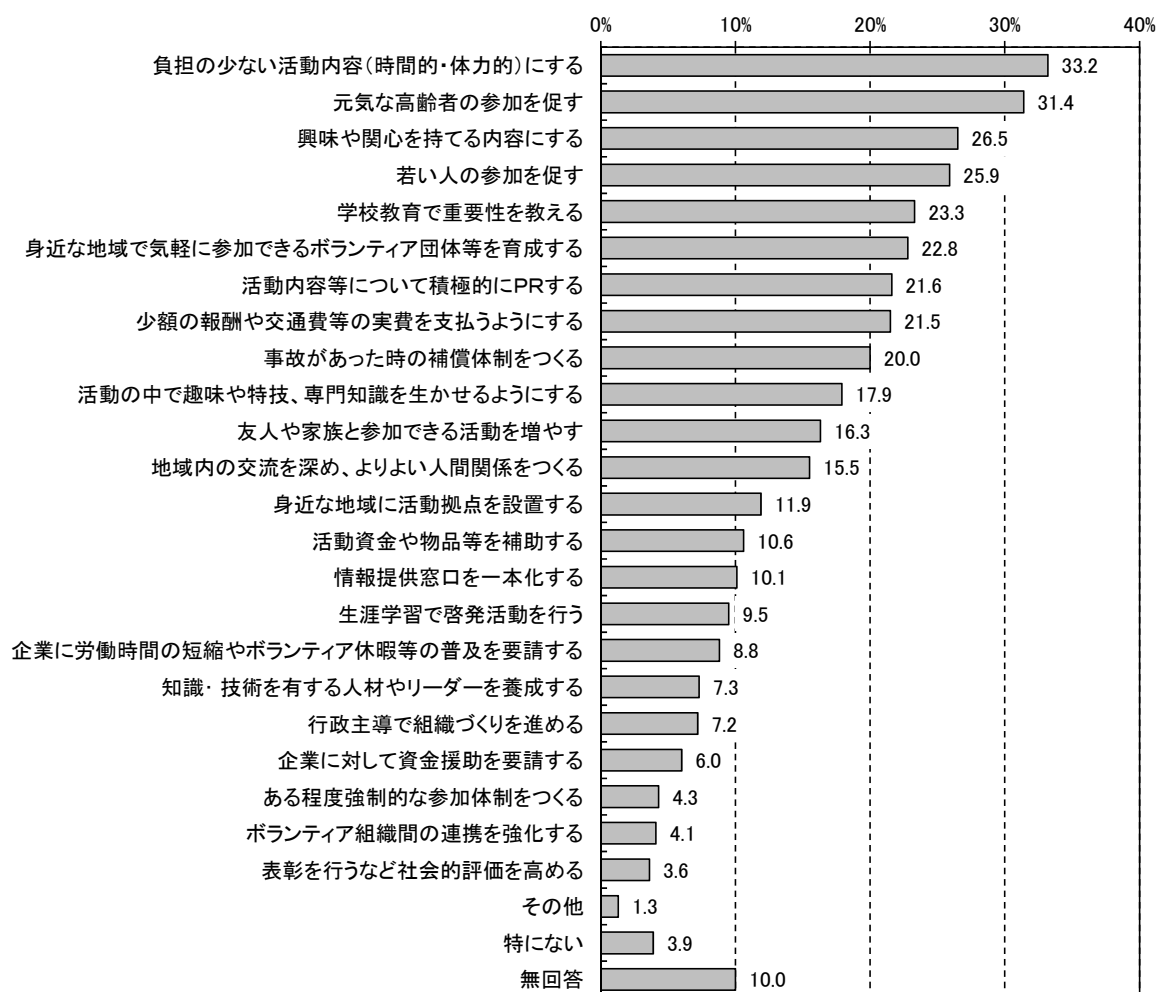
問 19. 今後、ボランティア活動・NPO活動や市民の自主的な活動等を活性化するためには、何が必要だと思いますか。（5 つまで）

ボランティア活動・NPO活動や市民の自主的な活動等を活性化するために必要なことは、「負担の少ない活動内容（時間的・体力的）にする」が 33.2%で最も高く、次いで「元気な高齢者の参加を促す」が 31.4%、「興味や関心を持てる内容にする」が 26.5%、「若い人の参加を促す」が 25.9%となっています。

前問でボランティアやNPO活動に参加していない理由であげられた、「仕事や学業などで忙しく時間がないから」に対しては、「負担の少ない活動内容（時間的・体力的）にする」ことで参加を促す必要があると考えられる。また、「どのような活動があるのか知らないから」に対しては「活動内容等について積極的にPRする」と共に「興味や関心を持てる内容にする」といった対策が求められている。「元気な高齢者の参加を促す」や「若い人の参加を促す」ことも上位項目にあげられており、多くの世代が活動することで活性化できると考えている人が多いと思われる。

■ ボランティア活動・NPO活動や市民の自主的な活動等の活性化に必要なこと

n=1,341



ボランティアやNPO活動や市民の自主的な活動等を活性化に必要なことについて上位4位を年齢別でみると、「負担の少ない活動内容（時間的・体力的）にする」では、「40代」、「50代」で高く、「元気な高齢者の参加を促す」では、「50代」と「70代」で高くなっています。また、「興味や関心を持てる内容にする」では、「20代」、「40代」で高く、「若い人の参加を促す」では、「80歳以上」で高くなっています。

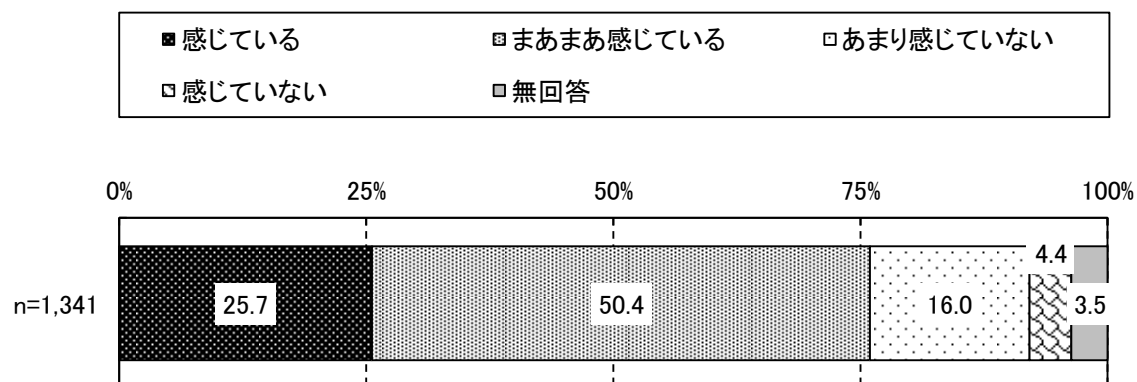
■ ボランティア活動・NPO活動や市民の自主的な活動等を活性化に必要なこと・上位4位（年齢別）
（単位：人、%）

全体	n	負担の少ない 活動内容（時間 的・体力的）に する	元気な高齢者 の参加を促す	興味や関心を 持てる内容に する	若い人の参加 を促す
	1,341	33.2	31.4	26.5	25.9
20代	84	29.8	◆ 16.7	△ 35.7	23.8
30代	125	32.0	◆ 20.0	30.4	22.4
40代	165	△ 43.0	26.7	△ 35.8	24.8
50代	185	◇ 43.8	△ 40.5	25.9	26.5
60代	239	33.5	33.9	28.0	25.5
70代	280	29.3	△ 38.9	22.9	23.6
80歳以上	244	▲ 23.8	27.5	▲ 18.4	△ 31.1

問 20. あなたは、現在、毎日の生活の中で生きがいを感じて暮らしていますか。(1つ)

毎日の生活の中で生きがいを感じて暮らしているかは、生きがいを「感じている」(「感じている」と「まあまあ感じている」の合計) 割合は 76.1%となっています。

■毎日の生活の中での生きがい



毎日の生活の中での生きがいを年齢別でみると、「感じている」と「まあまあ感じている」を合計した割合は、30代以上で80%を上回っています。

また、「あまり感じていない」と「感じていない」を合計した割合では、「50代」で高くなっています。

■毎日の生活の中での生きがい（年齢別）

(単位：人、%)

全体	n	感じている + まあまあ感じている	あまり感じていない + 感じていない
	1,341	76.1	20.4
20代	84	79.8	17.9
30代	125	△ 84.8	▲ 12.8
40代	165	75.1	23.6
50代	185	71.3	△ 26.5
60代	239	76.2	19.7
70代	280	76.4	19.3
80歳以上	244	73.4	21.3

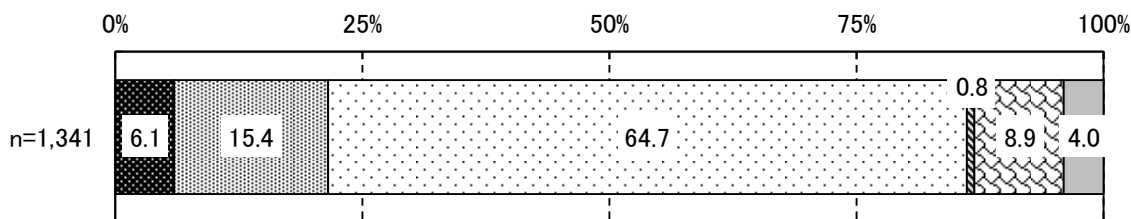
(4) 地域福祉の考え方について

問 21. あなたが福祉に持っている考え方についてお答えください。(1つ)

福祉に持っている考え方は、「福祉は、行政と地域住民（住民組織）が協力しあいながら行うものである」が 64.7%で過半数を占めています。

■福祉についての考え

- ☒ 福祉とは、慈善的に手を差し伸べることでと思う
- ☒ 福祉は行政(国や地方自治体)の責任で行うべきであると思う
- ☐ 福祉は、行政と地域住民(住民組織)が協力しあいながら行うものであると思う
- ☒ その他
- ☐ わからない
- ☐ 無回答



福祉に持っている考え方を年齢別でみると、「福祉は、行政と地域住民（住民組織）が協力しあいながら行うものであると思う」では、「30代」で高く、「80歳以上」で低くなっています。

■福祉についての考え（年齢別）

（単位：人、%）

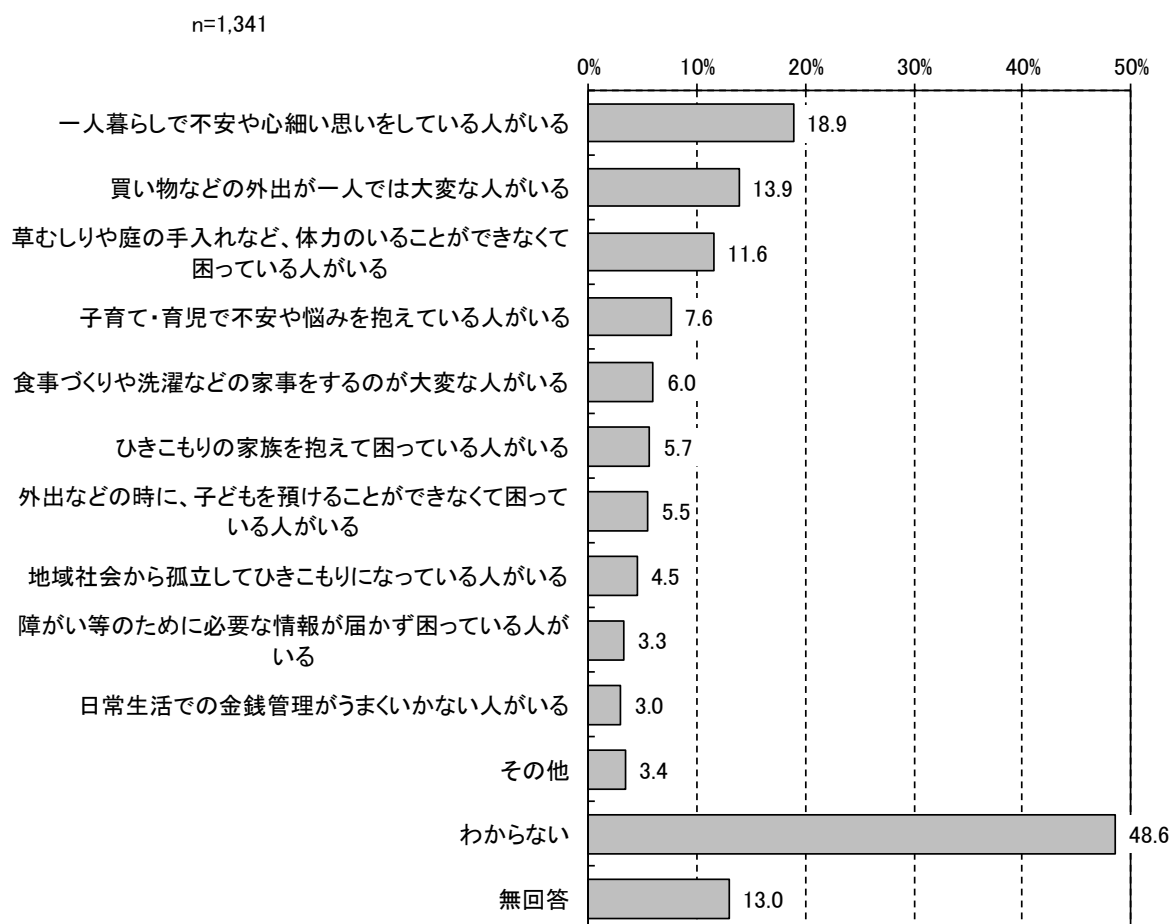
全体	n	福祉とは、慈善的に手を差し伸べることでと思う	福祉は行政(国や地方自治体)の責任で行うべきであると思う	福祉は、行政と地域住民(住民組織)が協力しあいながら行うものであると思う	その他	わからない
	1,341	6.1	15.4	64.7	0.8	8.9
20代	84	4.8	11.9	67.9	1.2	13.1
30代	125	6.4	16.0	△ 72.0	0.8	4.8
40代	165	6.1	13.9	67.9	1.8	9.7
50代	185	7.0	20.0	63.8	1.1	7.0
60代	239	4.6	15.1	67.8	0.4	7.9
70代	280	7.1	13.2	62.5	0.7	8.9
80歳以上	244	6.6	16.4	▲ 57.8	0.4	11.9

問 22. 現在お住まいの地域で、日常生活で困ったことを抱えている人がいますか。(いくつでも)

住んでいる地域で、日常生活で困ったことを抱えている人の有無は、「一人暮らしで不安や心細い思いをしている人がいる」が 18.9%で最も高く、次いで「買い物などの外出が一人では大変な人がいる」が 13.9%、「草むしりや庭の手入れなど、体力のいる事ができなくて困っている人がいる」が 11.6%となっています。

一方、「わからない」と回答した割合が 48.6%となっています。

■住んでいる地域で日常生活で困ったことを抱えている人

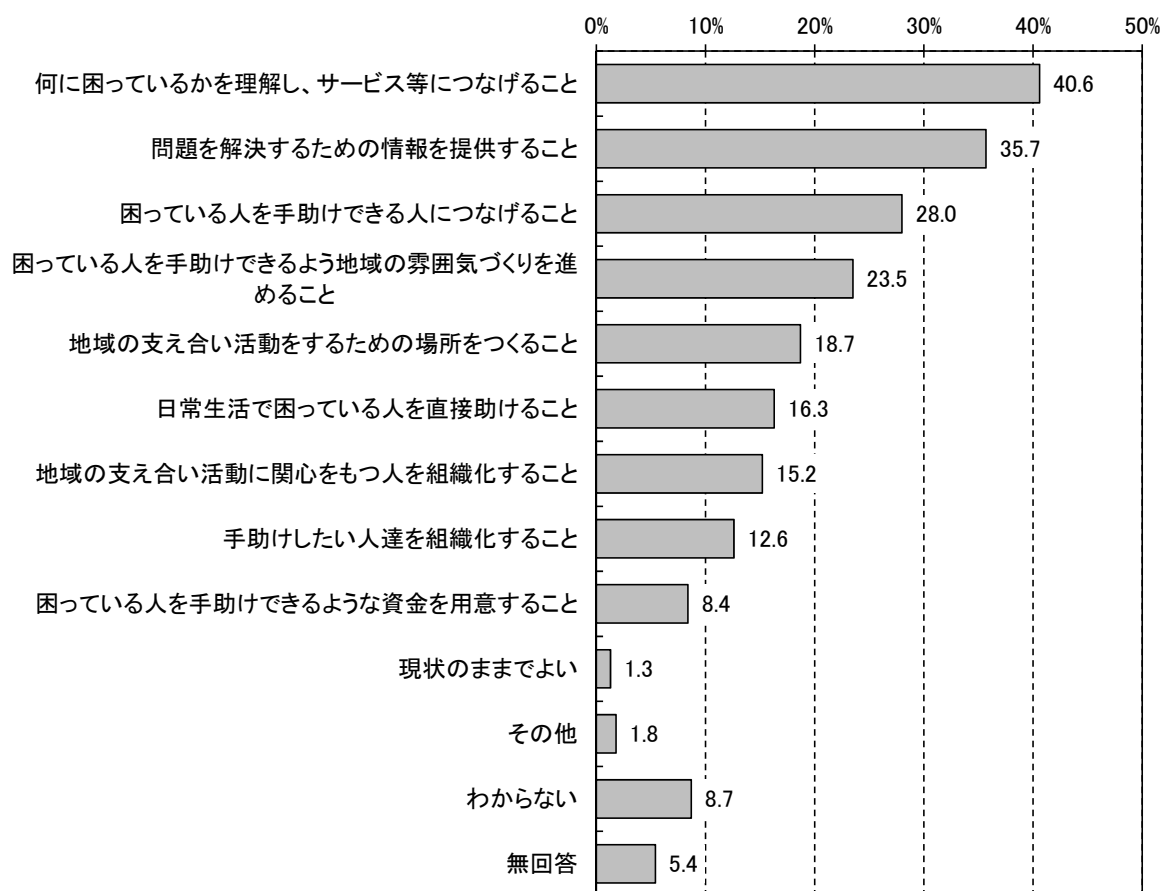


問 23. あなたは日常生活で困っている人がいた場合、どのような援助が必要だと思いますか。（3つまで）

日常生活で困っている人がいた場合の必要な援助は、「何に困っているかを理解し、サービス等につなげること」（サービスの紹介・連絡）が 40.6%で最も高く、次いで「問題を解決するための情報を提供すること」（情報提供）が 35.7%、「困っている人を手助けできる人につなげること」（人への連絡）が 28.0%となっています。

■ 日常生活に困っている人に対する必要な援助

n=1,341

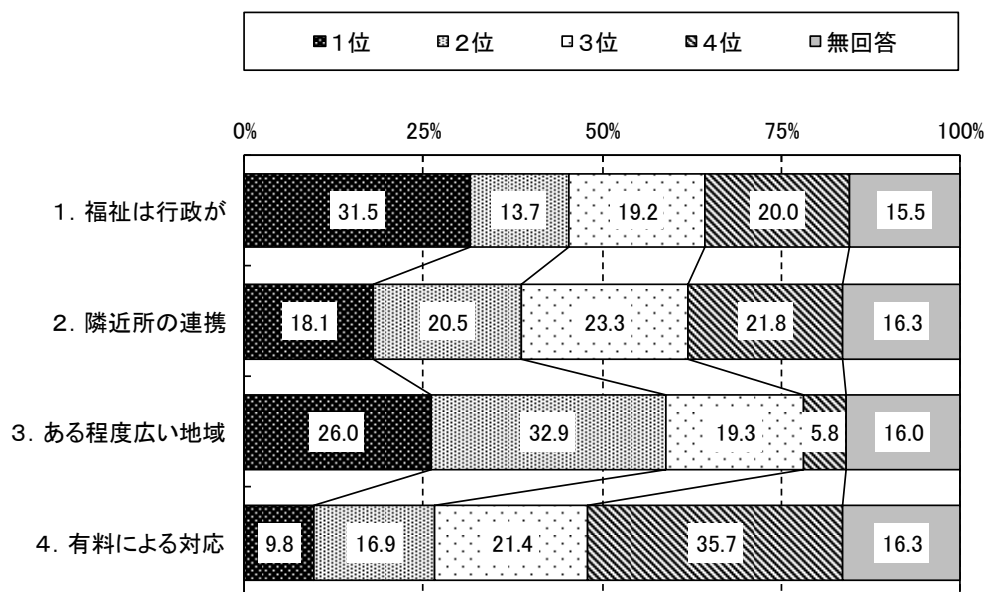


問 24. 福祉サービスの担い方や負担の仕方について、今後、どのような方向を目指すべきだとお考えですか。優先度の高いものから順に、1～4の順位を付けてください。

福祉サービスの担い方や負担の仕方について今後の目指すべき方向の考え方は、1位の割合が高い項目は「1. 福祉は行政が行うべきものであり、たとえ増税になってもすべて国・県・市が担うべきだ」が最も高く、1位と2位を合計した割合が高い項目は、「3. ある程度広い地域の中での低料金による対応を可能とするため、ボランティア・NPO等の活動を活性化し、それらが福祉の中心的な担い手となるべきだ」が最も高くなっています。

■福祉サービスの担い方や負担の今後の方向

n=1,341



※グラフの項目名を省略しています。正式な項目名は以下のとおりです

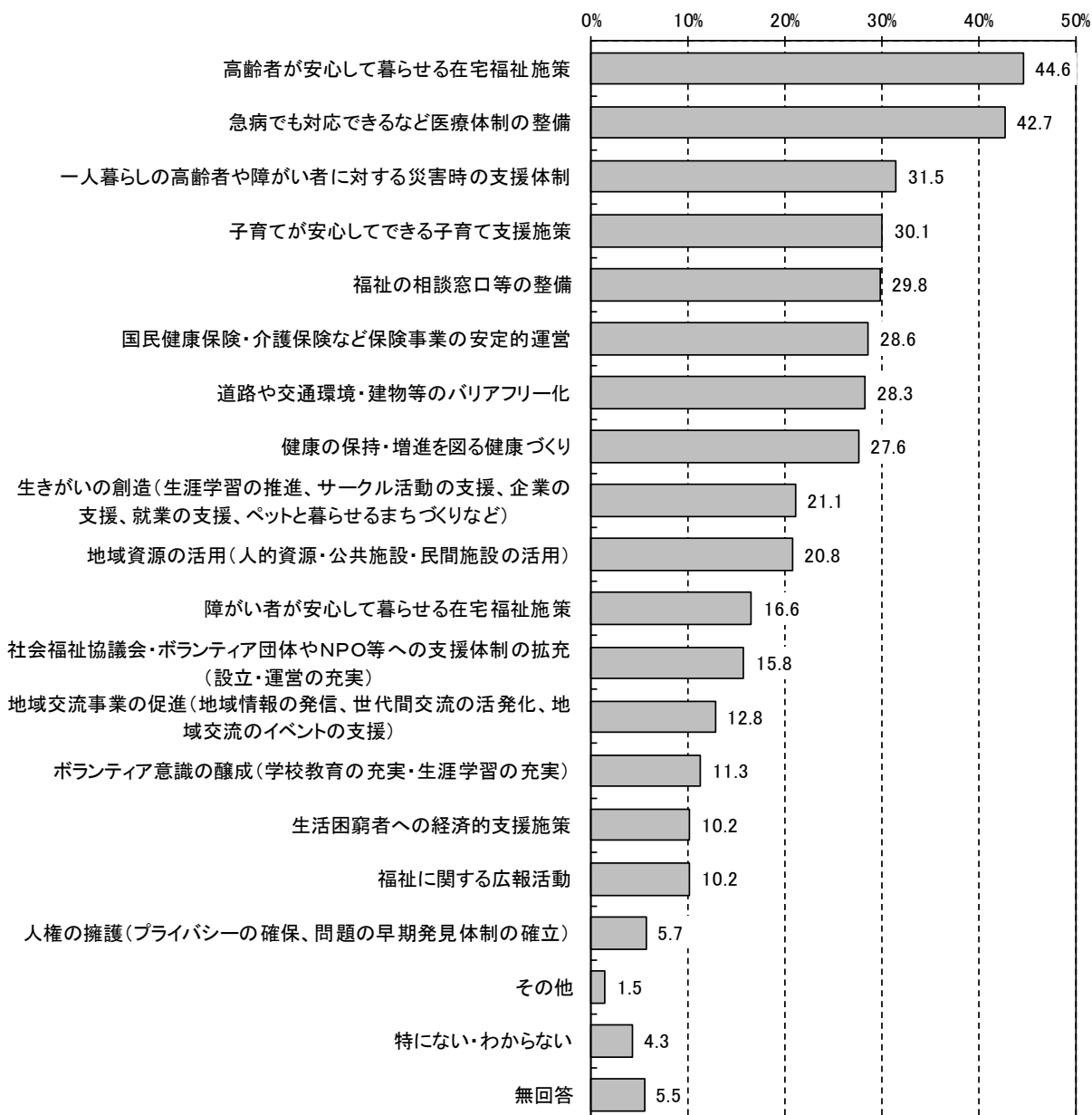
1. 福祉は行政が行うべきものであり、たとえ増税になってもすべて国・県・市が担うべきだ
2. 隣近所の連携を高め、その中で助け合うようにし、住民自身が福祉の中心的な担い手となるべきだ
3. ある程度広い地域の中での低料金による対応を可能とするため、ボランティア・NPO等の活動を活性化し、それらが福祉の中心的な担い手となるべきだ
4. 有料による対応でも構わないので、優良な民間事業者の育成を図り、それらが福祉の中心的な担い手となるべきだ

問 25. 越谷市が、福祉関連の分野で、特に力を入れて取り組むべきだと思う施策は
 なんですか。（5つまで）

越谷市が福祉関連分野で特に力を入れて取り組むべき施策は、「高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策」が44.6%で最も高く、次いで「急病でも対応できるなど医療体制の整備」が42.7%とこの2項目で40%を超えています。

■福祉関連分野で力を入れて取り組むべき施策

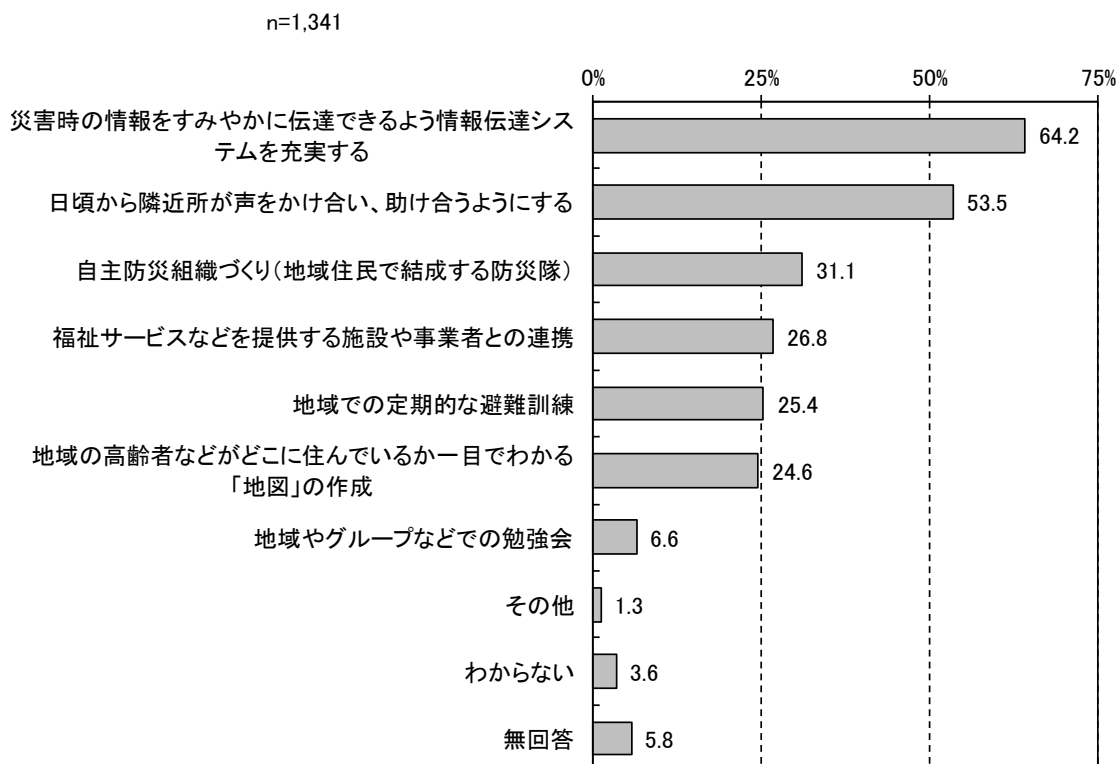
n=1,341



問 26. 地震など災害が発生したときの「災害時に住民が支え合う地域づくり」には何が
必要だと思いますか。(3つまで)

地震など災害が発生したときに備えた「災害時に住民が支え合う地域づくり」のために必要な施策は、「災害時の情報をすみやかに伝達できるよう情報伝達システムを充実する」が64.2%で最も高く、次いで「日頃から隣近所が声をかけ合い、助け合うようにする」が53.5%と上位2項目は過半数を占めています。

■ 「災害時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと

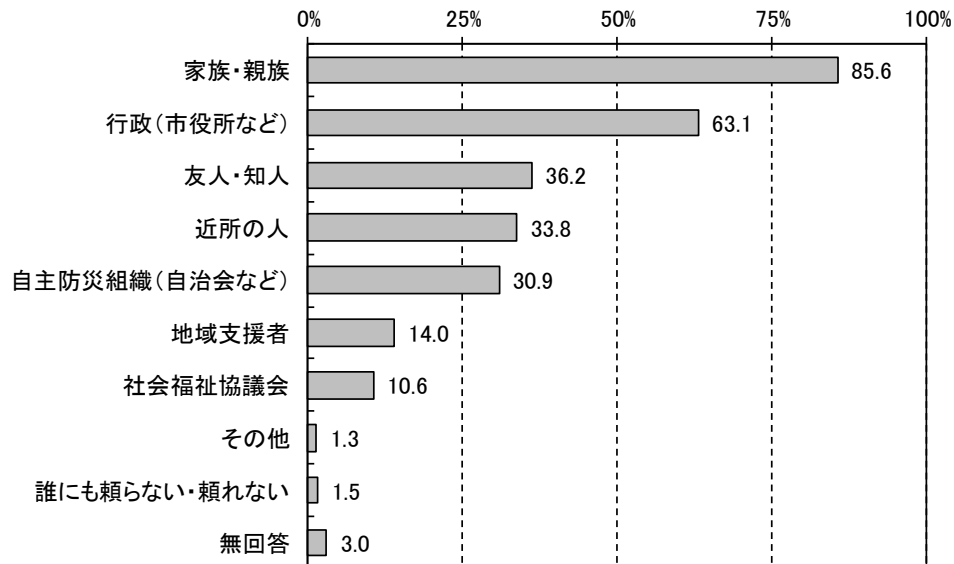


問 27. 被災後の生活において、あなたは誰を頼りにしますか。(いくつでも)

被災後の生活において頼りにする人は、身近な「家族・親族」が 85.6%で最も高く、次いで「行政（市役所など）」が 63.1%となっています。

■被災後の生活において頼りにする人

n=1,341



被災後の生活において頼りにする人を年齢別でみると、「家族・親族」の割合は「30代」で高くなっています。「近所の人」は「80歳以上」で高く、「20代」、「30代」、「50代」で低くなっています。「友人・知人」は40代以下で高く、70代以上で低くなっています。「自主防災組織（自治会など）」は60代以上で高く、50代以下で低くなっています。

■被災後の生活において頼りにする人（年齢別）

（単位：人、%）

全体	n	家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織(自治会など)	社会福祉協議会	行政(市役所など)	地域支援者	その他	誰にも頼らない・頼れない
	1,341	85.6	33.8	36.2	30.9	10.6	63.1	14.0	1.3	1.5
20代	84	89.3	◆ 20.2	◇ 51.2	◆ 10.7	▲ 4.8	◆ 52.4	10.7	0.0	1.2
30代	125	△ 91.2	▲ 28.0	◇ 47.2	◆ 17.6	▲ 3.2	59.2	10.4	4.0	0.8
40代	165	84.8	30.3	◇ 46.7	◆ 20.6	▲ 5.5	△ 69.7	10.3	3.0	1.2
50代	185	85.4	▲ 27.0	35.7	▲ 25.9	8.1	65.9	▲ 8.6	0.5	2.7
60代	239	84.9	36.4	39.7	△ 39.7	10.5	67.4	14.2	0.8	2.9
70代	280	83.9	38.6	▲ 28.2	△ 37.9	12.9	65.0	18.6	0.4	0.7
80歳以上	244	86.9	△ 41.4	◆ 25.8	△ 39.3	△ 18.0	▲ 56.1	17.6	1.2	0.8

(5) 地域福祉の推進について

問 28. 越谷市の地域福祉の現状についてどう思われますか。(各項目 1 つ)

越谷市の地域福祉の現状については、『できている』（「できている」と「ある程度できている」の合計）と『できていない』（「あまりできていない」と「ほとんどできていない」の合計）を比較して、『できている』の割合が高い項目は「14. 地域ぐるみで、身近な環境（保全・美化）が快適に保たれている」、「13. 地域防犯・交通安全への自主的な活動が行われている」となっています。他の項目は『できていない』の割合が高くなっています。

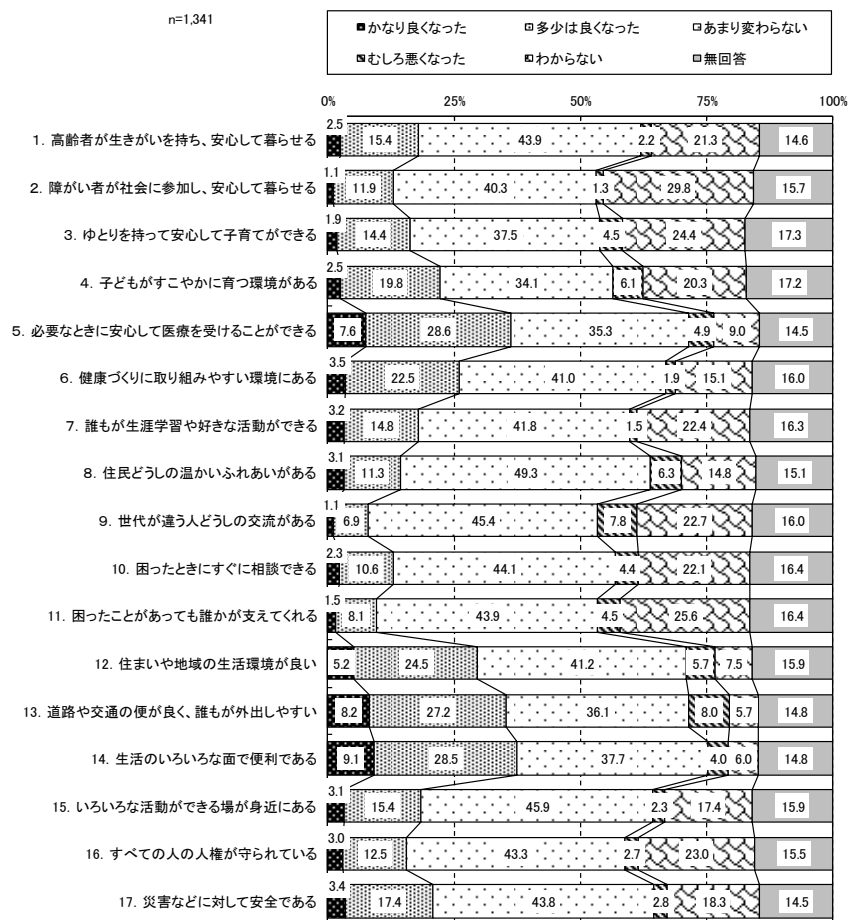
■ 地域福祉の現状



問 29. あなたのお住まいの地域に関する環境について、次のことは、以前と比べて（約5年前と比べて）どのように変わったと思いますか。（各項目1つ）

地域に関する環境について、どのように変わったかについては、『良くなった』（「かなり良くなった」と「多少は良くなった」の合計）と「むしろ悪くなった」を比較すると、すべての項目において『良くなった』の割合が高く、その中でも「14. 生活のいろいろな面で便利である」、「5. 必要なときに安心して医療を受けることができる」、「13. 道路や交通の便が良く、誰もが外出しやすい」の割合が高くなっています。

■地域に関する環境について

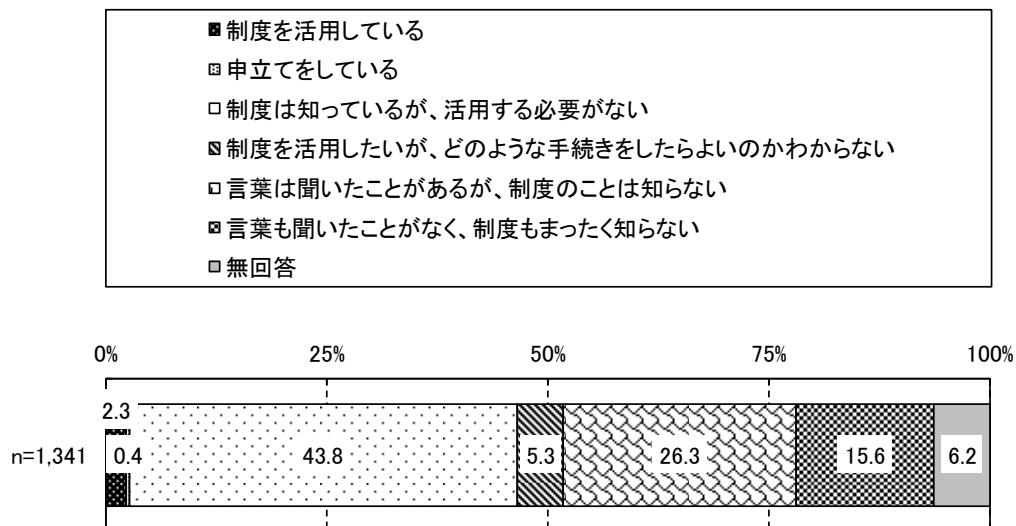


①かなり良くなった ②多少は良くなった	④むしろ悪くなった	① + ②	比較	④
1. 高齢者が生きがいを持ち、安心して暮らせる		17.9	>	2.2
2. 障がい者が社会に参加し、安心して暮らせる		13.0	>	1.3
3. ゆとりを持って安心して子育てができる		16.3	>	4.5
4. 子どもがすこやかに育つ環境がある		22.3	>	6.1
5. 必要なときに安心して医療を受けることができる		36.2	>	4.9
6. 健康づくりに取り組みやすい環境にある		26.0	>	1.9
7. 誰もが生涯学習や好きな活動ができる		18.0	>	1.5
8. 住民どうしの温かいふれあいがある		14.4	>	6.3
9. 世代が違う人どうしの交流がある		8.0	>	7.8
10. 困ったときにすぐに相談できる		12.9	>	4.4
11. 困ったことがあっても誰かが支えてくれる		9.6	>	4.5
12. 住まいや地域の生活環境が良い		29.7	>	5.7
13. 道路や交通の便が良く、誰もが外出しやすい		35.4	>	8.0
14. 生活のいろいろな面で便利である		37.6	>	4.0
15. いろいろな活動ができる場が身近にある		18.5	>	2.3
16. すべての人の人権が守られている		15.5	>	2.7
17. 災害などに対して安全である		20.8	>	2.8

問 30. 「成年後見制度」について、あなたはこの制度について知っていますか。(1つ)

「成年後見制度」の認知については、「制度は知っているが、活用する必要がある」が43.8%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、制度のことは知らない」が26.3%、「言葉も聞いたことがなく、制度もまったく知らない」が15.6%となっています。

■ 「成年後見制度」について



3 調査の結果

「成年後見制度」について居住地区別でみると、全体の割合と比較して「制度を活用している」では、「川柳地区」が高くなっています。「制度は知っているが、活用する必要がある」では、「北越谷地区」、「南越谷地区」が高く、「増林地区」、「川柳地区」が低くなっています。「制度を活用したいが、どのような手続きをしたらよいかわからない」では、「荻島地区」、「川柳地区」が高く、「新方地区」が低くなっています。「言葉は聞いたことがあるが、制度のことは知らない」では、「増林地区」が高く、「北越谷地区」、「南越谷地区」が低くなっています。「言葉も聞いたことがなく、制度もまったく知らない」では、「増林地区」が高く、「荻島地区」、「出羽地区」、「大沢地区」が低くなっています。

年齢別でみると、「制度は知っているが、活用する必要がある」では、「60代」で高く、「20代」、「80歳以上」で低くなっています。「言葉も聞いたことがなく、制度もまったく知らない」では、「20代」、「30代」で高く、「70代」で低くなっています。

■「成年後見制度」について（地区別）

（単位：人、％）

全体	n	制度を活用している	申立てをしている	制度は知っているが、活用する必要がある	制度を活用したいが、どのような手続きをしたらよいかわからない	言葉は聞いたことがあるが、制度のことは知らない	言葉も聞いたことがなく、制度もまったく知らない
	1,341	2.3	0.4	43.8	5.3	26.3	15.6
桜井地区	92	2.2	0.0	41.3	5.4	27.2	18.5
新方地区	51	5.9	0.0	43.1	▲ 0.0	23.5	19.6
増林地区	77	0.0	0.0	◆ 33.8	1.3	△ 35.1	◇ 26.0
大袋地区	162	1.9	0.6	40.1	2.5	30.2	19.8
荻島地区	58	1.7	0.0	44.8	△ 10.3	31.0	▲ 8.6
出羽地区	104	3.8	0.0	45.2	5.8	27.9	▲ 10.6
蒲生地区	146	2.7	0.0	43.8	3.4	26.7	15.8
川柳地区	54	△ 7.4	1.9	◆ 31.5	△ 13.0	24.1	13.0
大相模地区	105	1.9	1.0	45.7	5.7	28.6	11.4
大沢地区	100	1.0	0.0	46.0	8.0	26.0	▲ 10.0
北越谷地区	80	1.3	2.5	△ 48.8	6.3	▲ 17.5	18.8
越ヶ谷地区	171	2.3	0.6	43.9	4.7	25.7	18.1
南越谷地区	100	0.0	0.0	◇ 57.0	7.0	▲ 21.0	11.0

■「成年後見制度」について（年齢別）

（単位：人、％）

全体	n	制度を活用している	申立てをしている	制度は知っているが、活用する必要がある	制度を活用したいが、どのような手続きをしたらよいかわからない	言葉は聞いたことがあるが、制度のことは知らない	言葉も聞いたことがなく、制度もまったく知らない
	1,341	2.3	0.4	43.8	5.3	26.3	15.6
20代	84	1.2	0.0	◆ 27.4	2.4	25.0	◇ 42.9
30代	125	0.8	0.0	41.6	1.6	27.2	△ 24.0
40代	165	1.8	0.0	44.8	6.1	24.8	18.8
50代	185	2.7	0.5	48.6	4.9	26.5	15.1
60代	239	2.9	0.4	△ 51.5	3.3	25.9	10.9
70代	280	1.4	0.0	45.0	6.1	29.3	▲ 10.4
80歳以上	244	4.1	1.6	▲ 38.5	8.6	25.0	10.7

(6) 自由記述について

問 31. 越谷市の福祉についてご意見がありましたらご自由にお書きください。

越谷市の福祉についての意見を求めたところ、331 人から 436 件の回答が得られた。
意見を内容毎にまとめ、主な意見を掲載する。

※ 1 人で複数の意見があるものに関しては内容毎に 1 件としている

■自由記述について

自由記述を分類分けした結果、「交通関連について」の意見が 54 件で最も多く、次いで「生活支援、情報の周知、相談窓口関連について」の意見が 50 件、「教育、子育て関連について」の意見が 37 件、「高齢者関連について」の意見が 34 件、「行政への要望等について」の意見が 33 件、「地域の活動、交流について」の意見が 32 件などとなっている。下記に上位 3 項目の意見を抜粋する。

◆交通関連に関する意見

- ・高齢者が多くなって運転免許の返納が問われている今、小さなコミュニティバスなど循環バスを増やしてほしいと思います。
- ・道路のバリアフリー化がとても低いと思います。
- ・高齢化社会をむかえ、公共交通機関の充実が望まれる。バス等公共交通機関は以前より悪くなったように思う。高齢者による悲惨な事故を防ぐためにも、また高齢者が積極的に外に出て活動に従事するためにもバス会社への支援など公共交通機関の充実に力を入れてもらいたい。

◆生活支援、情報の周知、相談窓口に関する意見

- ・困っている人はなかなか他人に恥かしいと思い相談出来ずにいると思います。よくトイレ等にDVの相談の用紙がありますが、生活等の相談窓口の用紙もあると気軽に相談出来ると思います。
- ・もっと福祉の事を知って貰う為に人通りの多い所にPR用掲示板を作成してみたらどうですか。例（選挙ポスター板みたいな物）。
- ・情報にふれる機会が少なくどのような活動をしているのか把握できていない。若者向けにSNSの発信を増やしたり、駅などでの情報発信を増やしてほしい。

◆教育、子育てに関する意見

- ・小学生以上の子供が放課後に安全にすごせる場所の充実化、仕事を持つ親（特に都内等）が帰宅するまですごせる場所（20時頃）の確立。
- ・子育て支援センターが少なすぎるのでもう少し数を増やしてほしいです。
- ・ファミリサポートを使用しようと思ったが、子供2人のため、いろいろ注文をつけられて、結局、使用出来なかった。ファミリサポートと名前だけで全然サポートする気がない。

2 団体調査結果

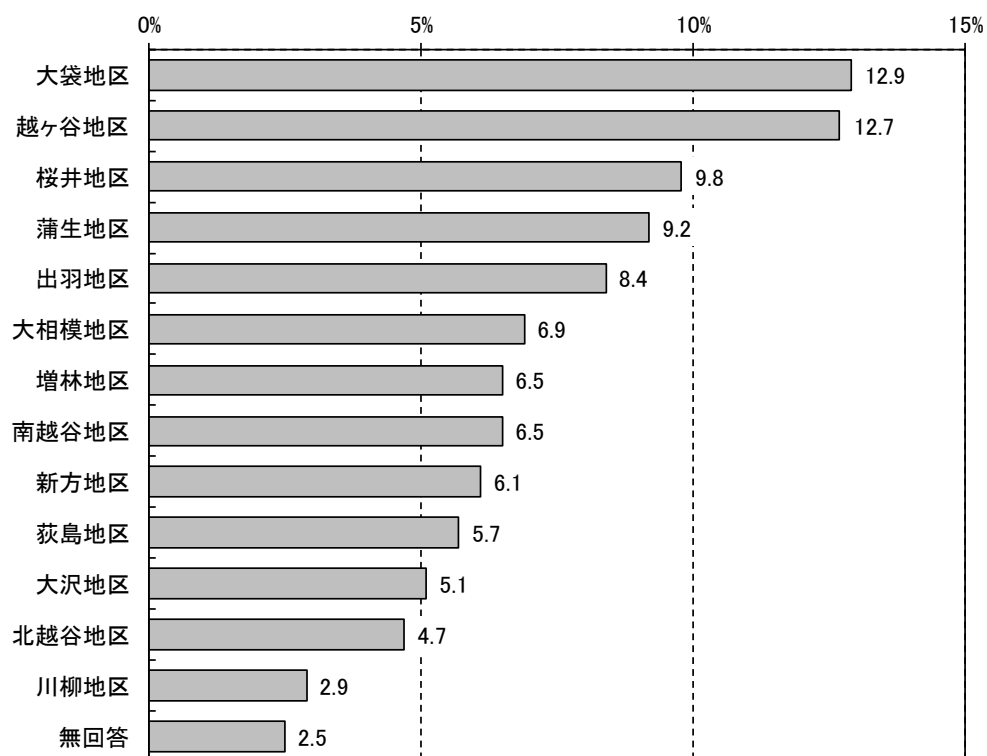
(1) 基礎的事項について

問1. 貴団体の概要についてご記入ください。(各項目ひとつ)

所在地は、「大袋地区」が12.9%で最も高く、次いで「越ヶ谷地区」が12.7%、「桜井地区」が9.8%となっています。

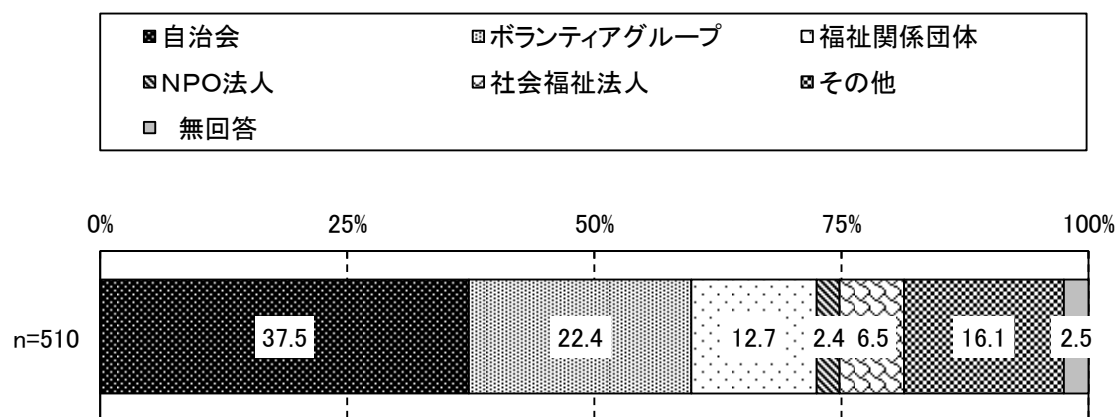
■所在地

n=510



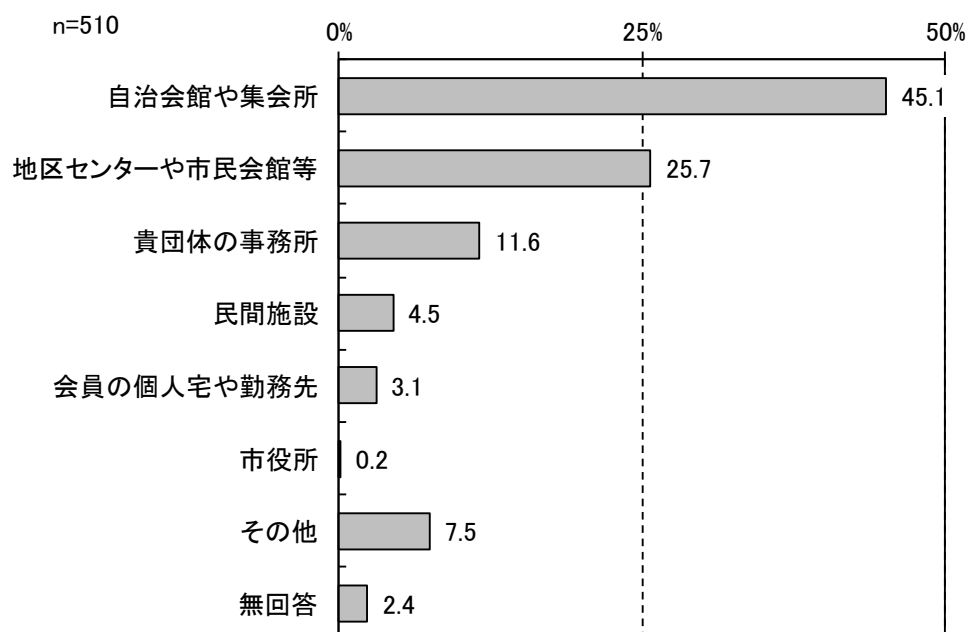
組織形態は、「自治会」が 37.5%で最も高く、次いで「ボランティアグループ」が 22.4%、「福祉関係団体」が 12.7%となっています。

■組織形態



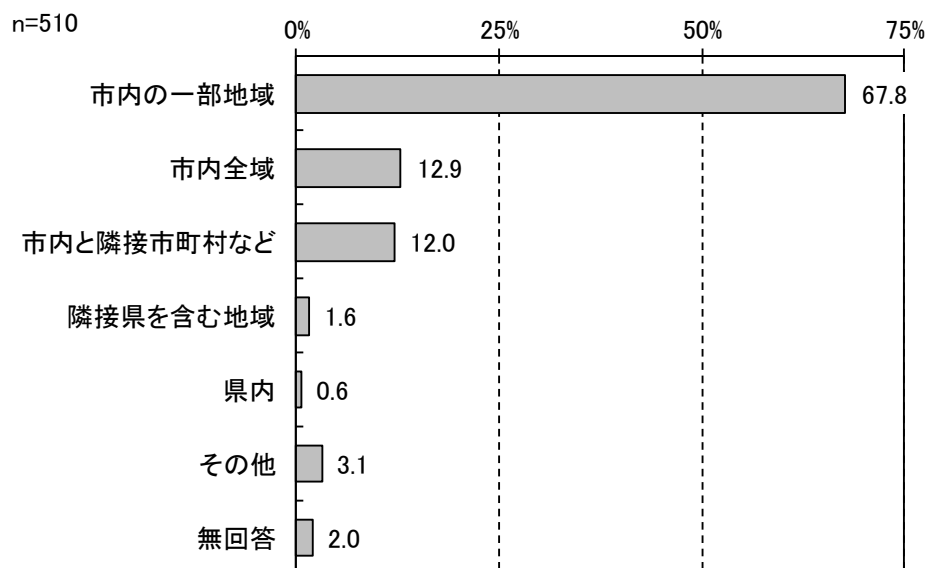
活動場所は、「自治会館や集会所」が 45.1%で最も高く、次いで「地区センターや市民会館等」が 25.7%、「貴団体の事務所」が 11.6%となっています。

■活動場所



活動区域は、「市内の一部地域」が 67.8%で最も高く、次いで「市内全域」が 12.9%、「市内と隣接市町村など」が 12.0%となっています。

■活動区域



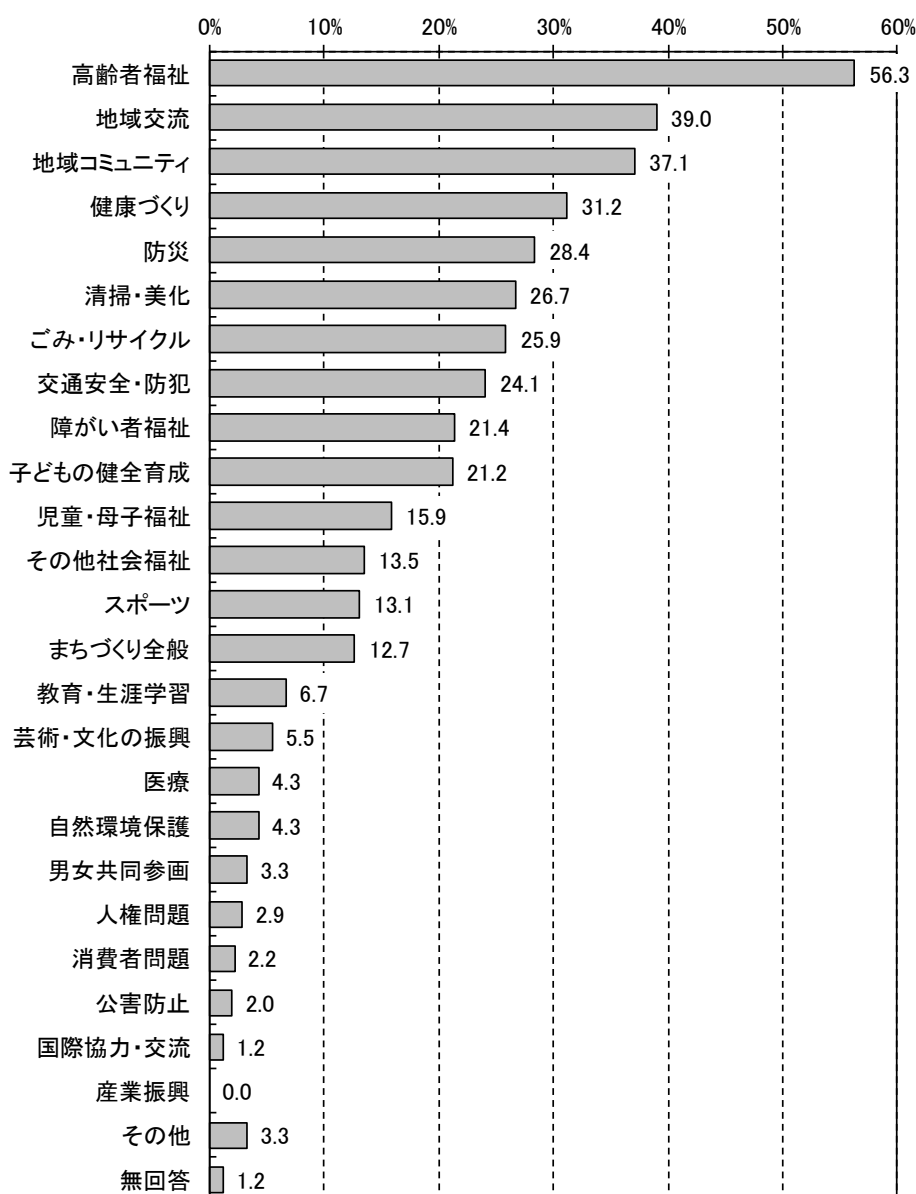
(2) 地域活動等の取り組みについて

問2. 貴団体が取り組んでいる地域活動等は何分野ですか。(いくつでも)

取り組んでいる地域活動等の分野は、「高齢者福祉」が56.3%で最も高く、次いで「地域交流」が39.0%、「地域コミュニティ」が37.1%、「健康づくり」が31.2%となっています。

■取り組んでいる地域活動等の分野

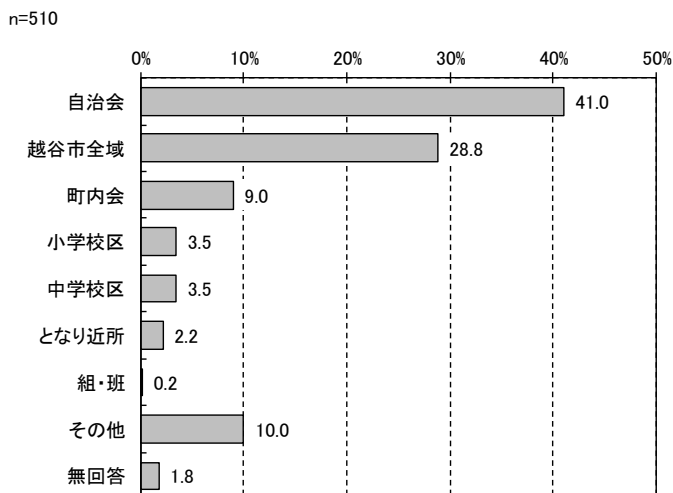
n=510



問3. 貴団体にとって「地域」とは、どのような範囲のことだと思いますか。(1つ)

「地域」の範囲の認識は、「自治会」が41.0%で最も高く、次いで「越谷市全域」が28.8%となっています。

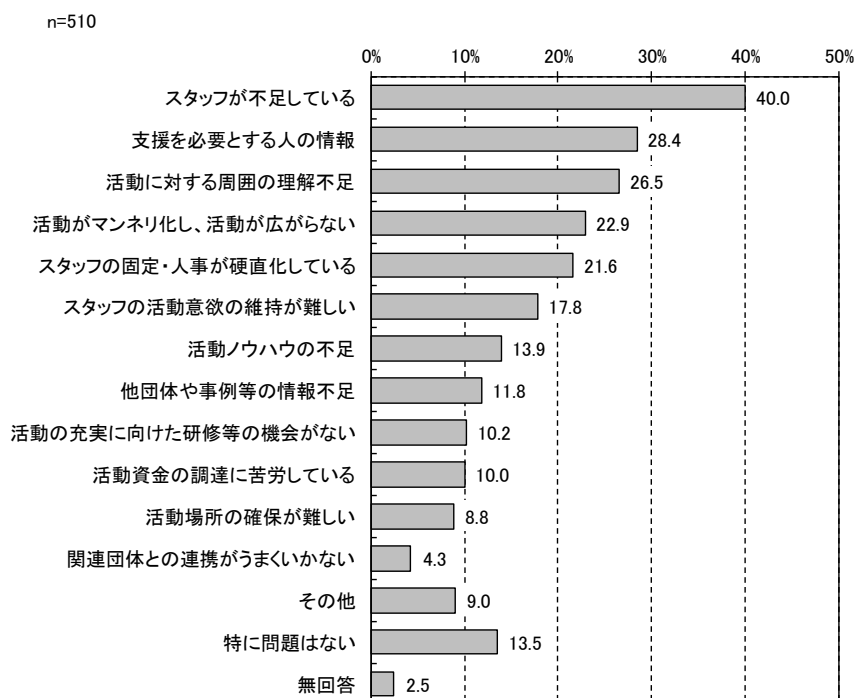
■地域の範囲の認識



問4. 貴団体が地域活動を行う上での問題点・課題についてお答えください。(いくつでも)

地域活動を行う上での問題点・課題は、「スタッフが不足している」が40.0%で最も高く、次いで「支援を必要とする人の情報」が28.4%、「活動に対する周囲の理解不足」が26.5%、「活動がマンネリ化し、活動が広がらない」が22.9%、「スタッフの固定・人事が硬直化している」が21.6%となっています。

■地域活動を行う上での問題点・課題

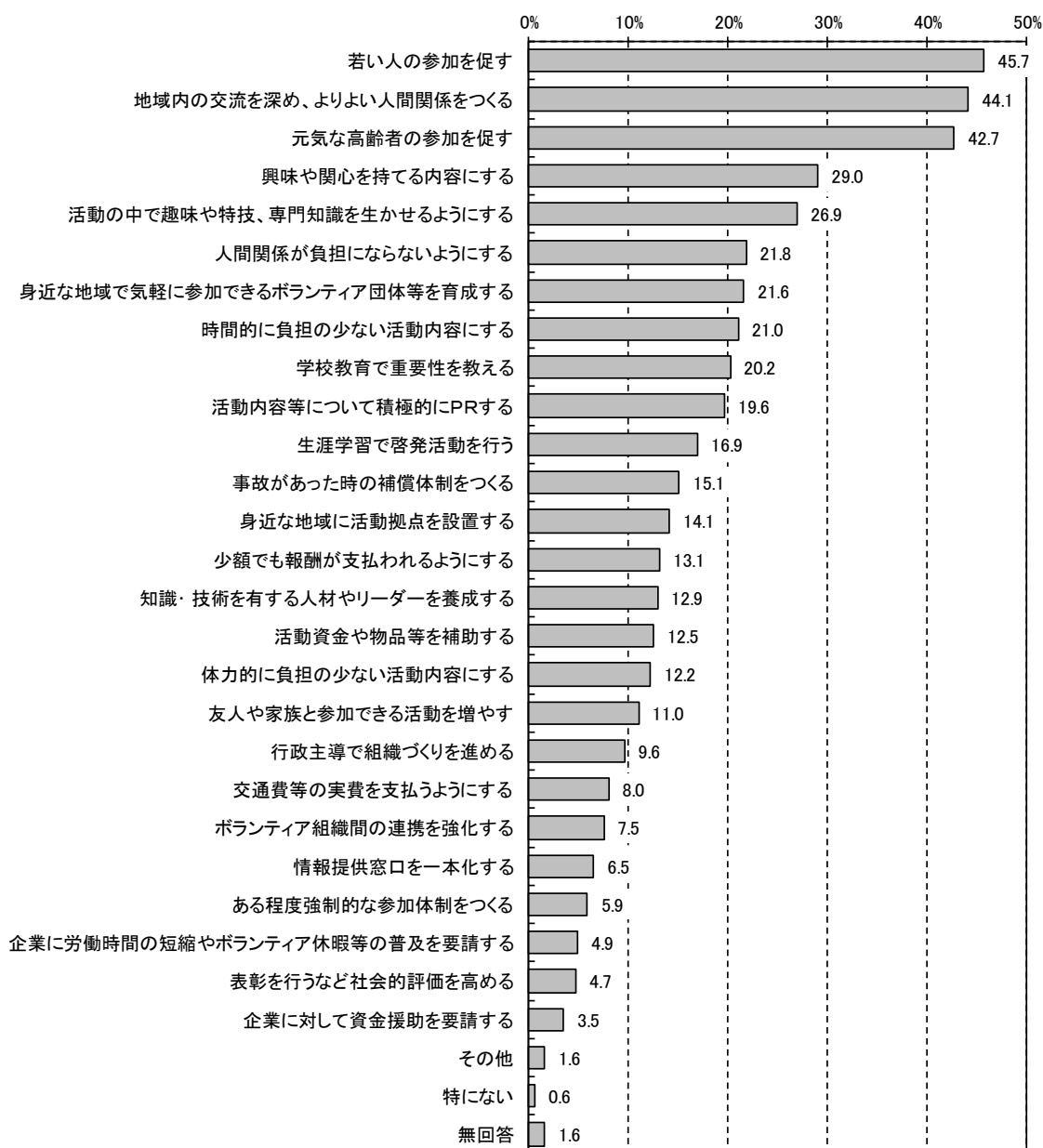


問5. ボランティア活動・NPO活動等、市民の自主的な活動等を活性化するためには、何が必要だと思いますか。（5つまで）

ボランティア活動・NPO活動や市民の自主的な活動等を活性化するために必要なことは、「若い人の参加を促す」が45.7%で最も高く、次いで「地域内の交流を深め、よりよい人間関係をつくる」が44.1%、「元気な高齢者の参加を促す」が42.7%とこれらの項目が40%を超え、前問の地域活動を行う上での問題点・課題に対応する内容となっています。

■ボランティア活動・NPO活動等、市民の自主的な活動等の活性化に必要なこと

n=510

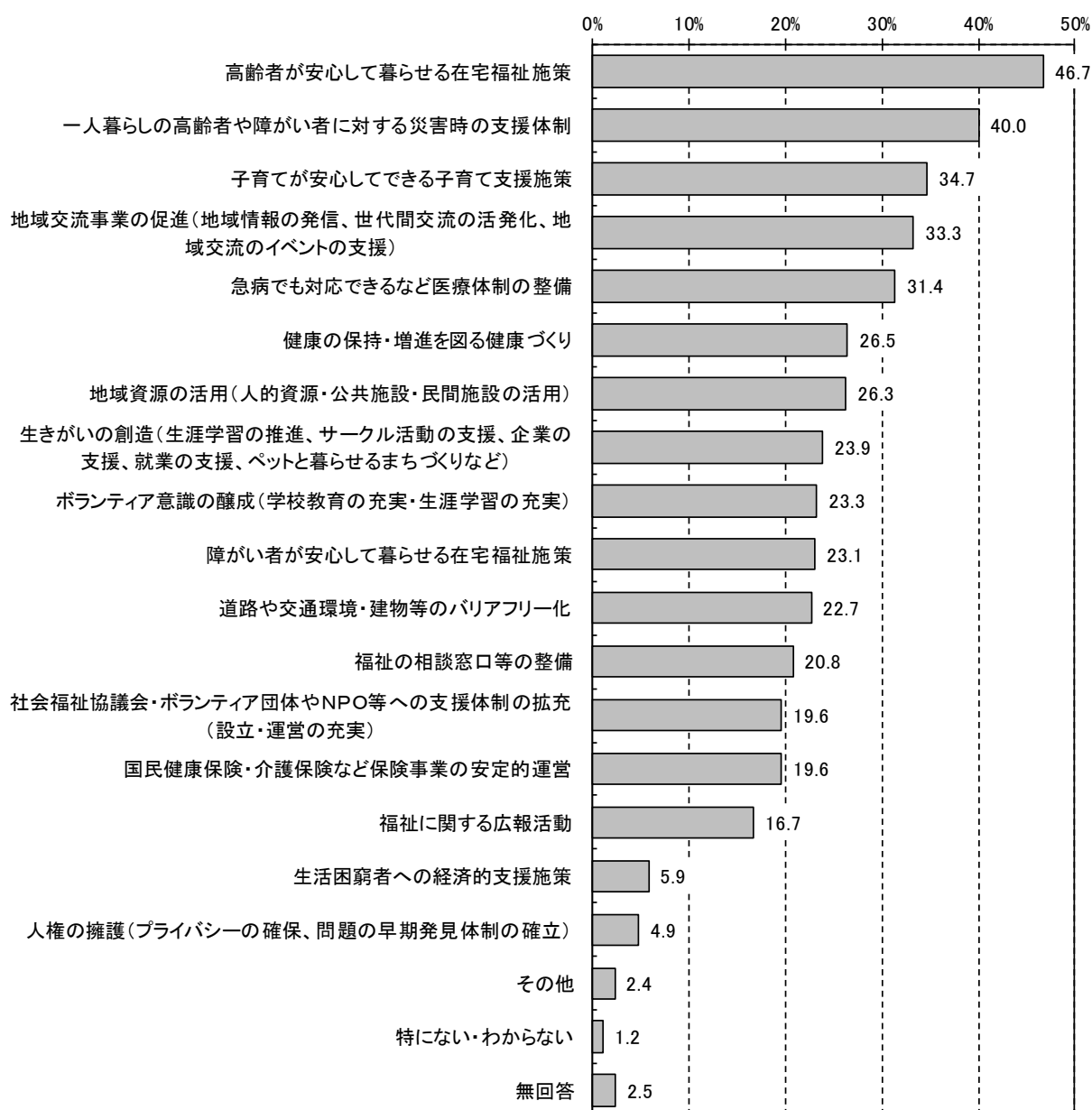


問6. 越谷市が、福祉関連の分野で、特に力を入れて取り組むべきだと思う施策は
 なんですか。(5つまで)

ボランティア・NPO活動を実践している立場からみた、福祉関連分野で特に力を入れて取り組むべき施策は、「高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策」が46.7%で最も高く、次いで「一人暮らしの高齢者や障がい者に対する災害時の支援体制」が40.0%、「子育てが安心してできる子育て支援施策」が34.7%、「地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活発化、地域交流のイベントの支援）」が33.3%、「急病でも対応できるなど医療体制の整備」が31.4%となっています。

■福祉分野で特に力を入れて取り組むべき施策

n=510

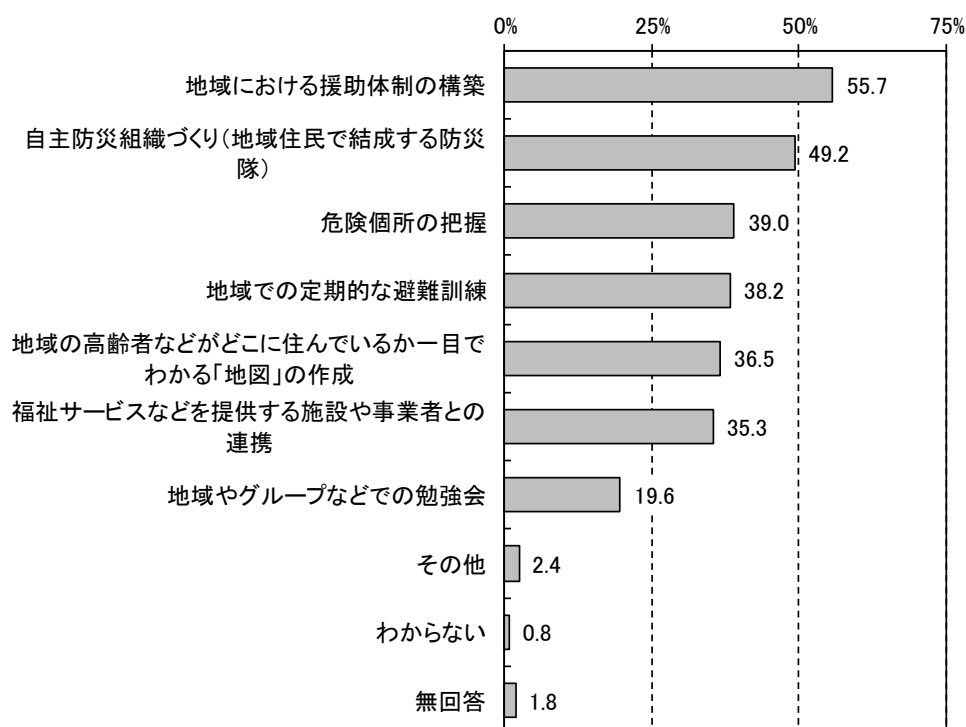


問7. 地震など災害が発生したときの「災害時に支え合う地域づくり」には何が必要だと思いますか。(3つまで)

地震など災害が発生したときに備えた「災害時に住民が支え合う地域づくり」のために必要な施策は、「地域における援助体制の構築」が 55.7%で最も高く、次いで「自主防災組織づくり(地域住民で結成する防災隊)」が 49.2%、「危険個所の把握」が 39.0%、「地域での定期的な避難訓練」が 38.2%、「地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目でわかる「地図」の作成」が 36.5%、「福祉サービスなどを提供する施設や事業者との連携」が 35.3%となっています。

■「災害時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと

n=510

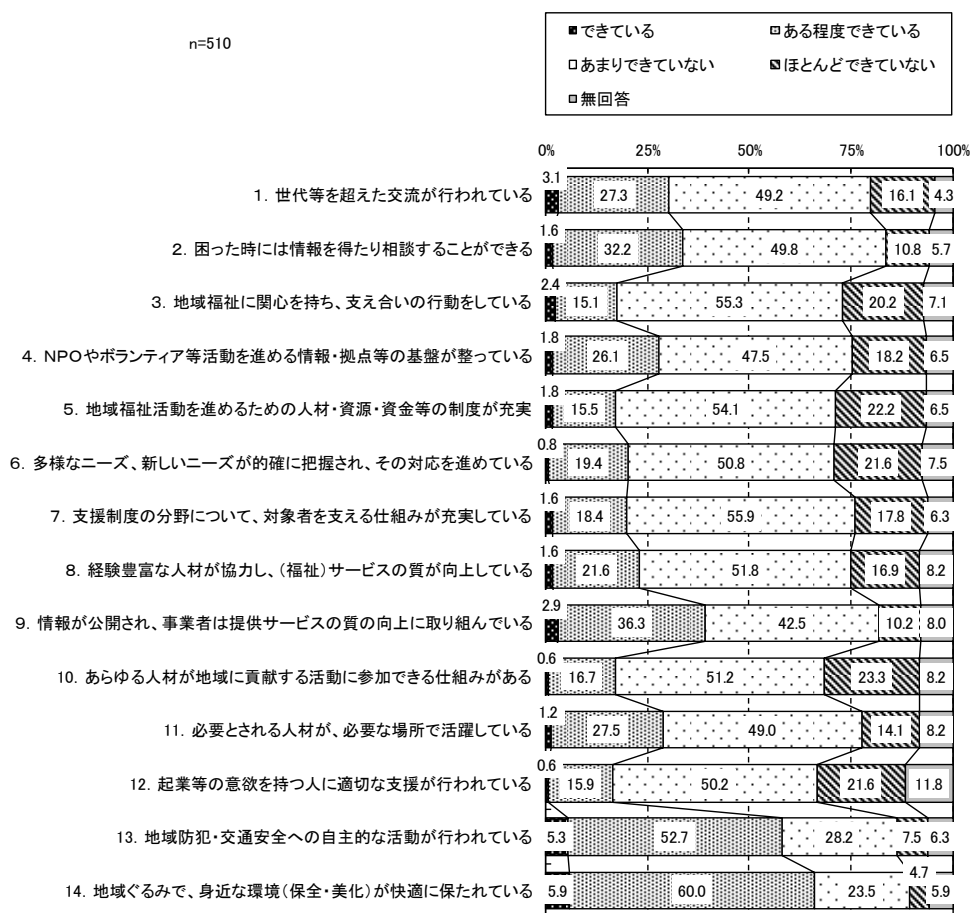


問 8. 越谷市の地域福祉の現状についてどう思われますか。(各項目 1 つ)

越谷市の地域福祉の現状を見ると、『できている』（「できている」と「ある程度できている」の合計）と『できていない』（「あまりできていない」と「ほとんどできていない」の合計）を比較して、『できている』の割合が高い項目は「14. 地域ぐるみで、身近な環境（保全・美化）が快適に保たれている」、「13. 地域防犯・交通安全への自主的な活動が行われている」と市民意識調査と同様の結果となっています。

また、『できている』割合は、すべての項目で市民意識調査結果の割合を上回っています。

■ 地域福祉の現状



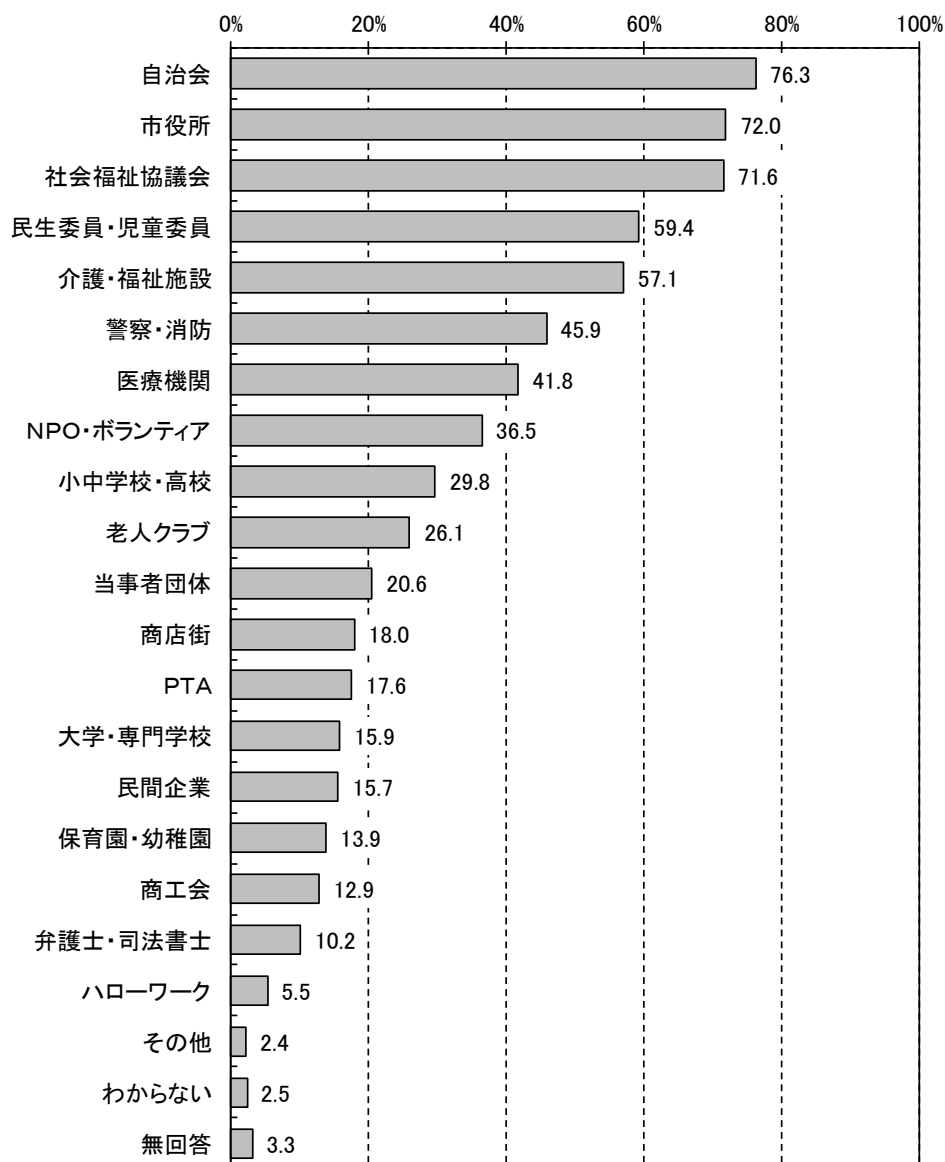
①できている ③あまりできていない	②ある程度できている ④ほとんどできていない	① + ②	比較	③ + ④
1. 世代等を越えた交流が行われている		30.4	<	65.3
2. 困った時には情報を得たり相談することができる		33.8	<	60.6
3. 地域福祉に関心を持ち、支え合いの行動をしている		17.5	<	75.5
4. NPOやボランティア等活動を進める情報・拠点等の基盤が整っている		27.9	<	65.7
5. 地域福祉活動を進めるための人材・資源・資金等の制度が充実		17.3	<	76.3
6. 多様なニーズ、新しいニーズが的確に把握され、その対応を進めている		20.2	<	72.4
7. 支援制度の分野について、対象者を支える仕組みが充実している		20.0	<	73.7
8. 経験豊富な人材が協力し、(福祉)サービスの質が向上している		23.2	<	68.7
9. 情報が公開され、事業者は提供サービスの質の向上に取り組んでいる		39.2	<	52.7
10. あらゆる人材が地域に貢献する活動に参加できる仕組みがある		17.3	<	74.5
11. 必要とされる人材が、必要な場所で活躍している		28.7	<	63.1
12. 起業等の意欲を持つ人に適切な支援が行われている		16.5	<	71.8
13. 地域防犯・交通安全への自主的な活動が行われている		58.0	>	35.7
14. 地域ぐるみで、身近な環境(保全・美化)が快適に保たれている		65.9	>	28.2

問9. 地域福祉活動を推進するために、どのような機関とネットワーク形成が必要だと思いますか。(いくつでも)

地域福祉活動を推進するためのネットワーク形成に必要な機関を、**「自治会」**が76.3%で最も高く、次いで**「市役所」**が72.0%、**「社会福祉協議会」**が71.6%となっています。

■地域福祉活動を推進するためのネットワーク形成に必要な機関

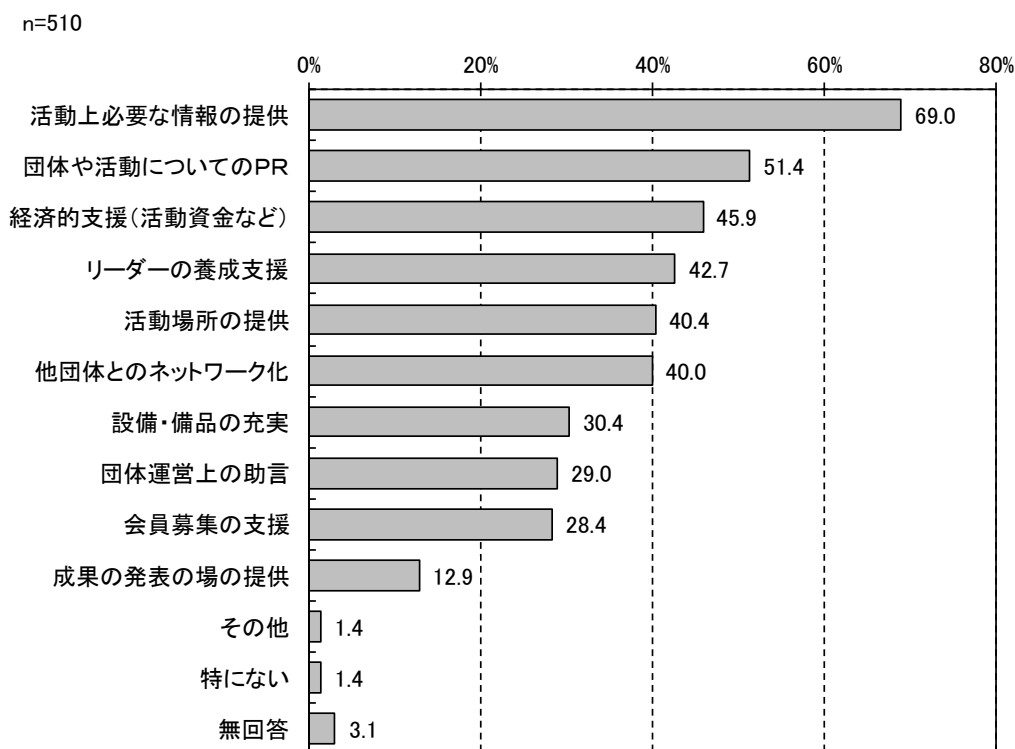
n=510



問 10. これからの地域福祉を担う主体に対して、市役所・社会福祉協議会はどのような支援をすればいいと思いますか。(いくつでも)

市役所等の地域福祉を担う主体に対する支援については、「活動上必要な情報の提供」が 69.0%で最も高く、次いで「団体や活動についてのPR」が 51.4%、「経済的支援（活動資金など）」が 45.9%となっています。

■市役所等の地域福祉を担う主体に対する支援



(3) 自由記述について

問 11. 今後の地域活動への参画に対するお考え、方針等について簡単にご記入ください。

今後の地域福祉への参画に関する考え、方針等についての意見を求めたところ、239 人から 379 件の回答が得られた。意見を内容毎にまとめ、主な意見を掲載する。

※ 1 人で複数の意見があるものに関しては内容毎に 1 件としている

■自由記述について

自由記述を分類分けした結果、「行政への要望・支援について」の意見が 45 件で最も多く、次いで「活動・集会の場の提供関連について」、「自治体の高齢化問題について」の意見が 37 件、「新規・参加者の増加希望について」の意見が 34 件、「地域ネットワーク関連について」の意見が 33 件などとなっている。下記に上位 3 項目の意見を抜粋する。

◆行政への要望・支援に関する意見

- ・高齢単身者世帯が増加する時代で、身寄りや親族がいない世帯が多くなってきております。そうした方への介護が行き届きにくい傾向があり、本来サービスを使用すべき方々が多くいるのではないかと危惧しております。自分で申請ができない、またはそうであるにも関わらず発見すらされていない方も多いのではないのでしょうか。基本的に自己申請主義で、自分で申請して何事も始まる制度ではありますが、行政の責任において、保護をしていく必要があるのだと思います。
- ・自治会長になる人がなかなかいないし、自治会長をやりやすくする為に市として費用を出してほしい。自治会長は金がかかるので考慮して下さい。
- ・高齢者の見守り対象者の情報を、市から提供してほしい。

◆活動・集会の場の提供に関する意見

- ・単身生活の高齢者、障がい者、子育てママの方々の悔み事、相談を気軽にできる場所や身近な場所にあるといいと思います。
- ・高齢化を迎え、知らない者同志が集まる機会を作りたい。
- ・長年に渡り同じ団体が活動されていますが、市民団体の育成はとても重要だと思います。反面、新しい団体の活動拠点が確保できない様に思います。シャッフルする、場所の変更など活性化も必要になるのではないのでしょうか。

◆自治体の高齢化問題に関する意見

- ・私達のサークルは障がい者の方を中心に活動しておりますが、年齢が高くなり体調の変化を感じられる方もいらっしゃいます。今後の活動のあり方を考える時期に来ております。
- ・高齢化が進み自治会を抜ける人が増加中。
- ・自治会組織において高齢者世帯が自治会を抜けるという現状がある。班長が回ってきてもできないからとの理由が多くを占めている。班長役を飛ばして対応している班もある。

資料編

調査票

越谷市の地域福祉に関する調査にご協力をお願いします。

この調査は、「第3次越谷市地域福祉計画」の策定にあたって実施するものです。
誇れる・魅力あるまちづくりのため、皆さまのご意見を聞かせてください！

地域福祉計画とは？

複雑・多様化する地域課題に、地域と行政が協力して取り組んでいくための方策を定める計画です。



みんなで協力してまちづくりをしよう！

集計の方法は？

- この調査は無記名であり、ご回答いただいた調査票はすべて統計的に処理します。
- 個人が特定されることは一切ありません。

※この調査は、無作為に抽出した2,940人の市民の皆さまにご依頼しています。

【ご記入にあたってのお願い】

- あて名のご本人がお答えください。（住所、氏名を記入する必要はありません。）
ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。
- ご記入は、ボールペンまたは鉛筆でこの調査票に直接お書きください。
- 答えたくない質問には無理に答えていただくなくても結構です。
- ご記入いただきましたこの調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
7月15日（月）までに、郵便ポストにご投函ください。（切手は、不要です。）

*** この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。**

越谷市福祉部福祉推進課

電話：963-9320（直通）

A あなた(宛名のご本人)についてお伺いします。

問1. あなたの性別をお答えください。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問2. あなたの年齢（令和元年6月24日現在）をお答えください。該当する番号に、○をつけてください。

- | | | |
|--------|--------|----------|
| 1. 20代 | 4. 50代 | 7. 80歳以上 |
| 2. 30代 | 5. 60代 | |
| 3. 40代 | 6. 70代 | |

問3. 越谷市内における在住年数をお答えください。該当する番号に、○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. 1年未満 | 4. 10～15年未満 | 7. 40年以上 |
| 2. 1～5年未満 | 5. 15～20年未満 | |
| 3. 5～10年未満 | 6. 20～40年未満 | |

問4. お住まいの地区はどこですか。該当する番号に、○をつけてください。

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. 桜井地区 | 6. 出羽地区 | 11. 北越谷地区 |
| 2. 新方地区 | 7. 蒲生地区 | 12. 越ヶ谷地区 |
| 3. 増林地区 | 8. 川柳地区 | 13. 南越谷地区 |
| 4. 大袋地区 | 9. 大相模地区 | |
| 5. 荻島地区 | 10. 大沢地区 | |

問5. ご職業は何ですか。該当する番号に、1つ○をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|------------|
| 1. 農業・商工業・専門職等の自営業 | 6. 専業主婦・主夫 |
| 2. 会社員 | 7. 学生 |
| 3. 会社や団体等の法人役員 | 8. 無職 |
| 4. 公務員・団体職員 | 9. その他 |
| 5. 臨時職員・パート・アルバイト・
派遣等の非正規社員 | (具体的に) |

問6. ご家族の構成についてお答えください。該当する番号に、○をつけてください。

- | | | |
|---------|-----------------|--------|
| 1. 単身 | 3. 親・子の二世世代家族 | 5. その他 |
| 2. 夫婦のみ | 4. 親・子・孫の三世世代家族 | |

問7. 今後も越谷市に住み続けたいと思いますか。該当する番号に、○をつけてください。

1. 今住んでいるところに住み続けたい
2. 今住んでいるところ以外の、越谷市内のどこかに住みたい
3. 市外に転居したい

B 地域との関わりについてお伺いします。

問8. あなたは、ご近所とのお付き合いをどの程度していますか。該当する番号に、1つ○をつけてください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 何か困った時に、助け合える関係 | 4. あいさつをする程度 |
| 2. お互いに、訪問しあう程度 | 5. ほとんど付き合いはない |
| 3. 立ち話をする程度 | |

問9. あなたにとって、地域での活動やコミュニティの範囲はどれですか。該当する番号に、1つ○をつけてください。

1. 町内会、自治会の範囲
2. 小学校区（徒歩15分程度で行ける範囲）
3. 中学校区（自転車で10分程度で行ける範囲）
4. 地区センター・公民館の範囲
5. 越谷市内全域
6. 近隣市町まで
7. その他（具体的に _____ ）
8. 活動に参加していない

問10. あなたは、お住まいの地域でどのような活動に参加していますか。該当する番号に、いくつでも○をつけてください。

1. 自治会等の行事
2. 学校等の行事
3. 福祉施設等での活動
4. 趣味やスポーツのサークルでの活動
5. 地区センター・公民館や交流館等の市の施設での講習
6. その他（具体的に _____ ）
7. 特に何も行っていない

1. どちらかというと、より関心を持つようになった
2. どちらかというと、より関心がなくなった
3. 特に変化はない

1. 社会福祉協議会	7. 地域子育て支援センター
2. 民生委員・児童委員	8. ふれあいサロン
3. 地区センター	9. 福祉推進員
4. 地域包括支援センター	10. 福祉なんでも相談窓口
5. 特定相談支援事業所	11. 生活自立支援相談「よりそい」
6. 子育て世代包括支援センター	12. どれも知らない

また相談してよかったこと（解決できたこと、相談してよかった機関名・団体名など）があればお書き下さい。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 市役所 | 10. 地区のボランティア |
| 2. 警察 | 11. 友人・知人 |
| 3. 病院 | 12. 家族・親戚 |
| 4. 児童相談所 | 13. 福祉サービスの事業者 |
| 5. 学校、保育園、幼稚園 | 14. 近所の人 |
| 6. 社会福祉施設 | 15. その他（具体的に |
| 7. 社会福祉協議会 | 16. わからない |
| 8. 民生委員・児童委員 | 17. どこ（誰）にも相談しない |
| 9. 自治会の役員 | |

問14. 現在お住まいの地域との関わりについて、満足していますか。該当する番号に、1つ〇をつけてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 満足している | 4. あまり満足していない |
| 2. まあまあ満足している | 5. 満足していない |
| 3. どちらでもない | |

問15. あなたは、地域に困っている世帯がある場合、現在すでに「手助けしていること」や今後「手助けできること」はありますか。また、現在もしくは将来的に、あなた自身が地域の人に「手助けしてほしいこと」はありますか。該当する番号に、いくつでも〇をつけてください。

	他人に関すること		自身に関すること
	手助けしていること	手助けできること	手助けしてほしいこと
1. 安否確認の声かけ	1	2	3
2. 話し相手	1	2	3
3. 悩みごと、心配ごとの相談	1	2	3
4. 日用品などのちょっとした買い物	1	2	3
5. 電球交換などのちょっとした作業	1	2	3
6. ごみ出し	1	2	3
7. 家の中の掃除や洗濯	1	2	3
8. 庭の手入れ	1	2	3
9. 食事づくり	1	2	3
10. 短時間の子どもの預かり	1	2	3
11. 保育園・幼稚園の送迎	1	2	3
12. 散歩の付き添い	1	2	3
13. 病院の付き添い（送迎）	1	2	3
14. 病気のときの看病	1	2	3
15. 経済的な支援	1	2	3
16. 防犯見回り、防災訓練などへの参加	1	2	3
17. 災害時・緊急時の手助け	1	2	3
18. 近所のイベントの手伝い	1	2	3
19. その他（ ）	1	2	3

問16. 在住外国人にとっても暮らしやすい地域にするためには、どのようなことが大事だと思いますか。該当する番号に、いくつでも○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 日本語習得の手伝いをする |
| 2. お互いの文化を知る機会を増やす |
| 3. お知らせや情報について外国語版を作成する |
| 4. 言葉がわかるボランティアを増やす |
| 5. 地域活動や行事に誘うなど地域との関わりを深める |
| 6. 外国語講師など、活躍の場を増やす |
| 7. 気軽に相談できる窓口の充実、地域との関わりを増やすための受け入れ体制を整備する |
| 8. その他（具体的に _____ ） |
| 9. わからない |
| 10. 特にない |

問17. 地域社会における市民と行政の望ましい役割分担について、どのようにお考えですか。項目ごとに、ふさわしいと思われる役割分担方法を、1つ選び、○をつけてください。なお、すべて、市民と行政の意見交換は伴うものとして、お答えください。

	役割分担		
	主に行政が考える	共に考える	主に市民が考える
1. 地域の問題や課題を明らかにする	1	2	3
2. 地域で解決すべき課題の優先順位を考える	1	2	3
3. 予算を検討し、決定する	1	2	3
4. 必要な施策を検討し実施する	1	2	3
5. 施策の成果を評価する	1	2	3

C ボランティア・NPO活動についてお伺いします。

ボランティア・NPOとは・・・

ボランティア活動は、個人の自発的な意思に基づく自主的な活動です。また、活動者個人の自己実現への欲求や社会参加意欲が充足されるのはもちろんのこと、その活動が広がることによって、社会において、社会貢献、福祉活動等への関心を高める可能性をもっています。

また、NPOとは、様々な分野で活動を行う民間の非営利団体で、法人格を取得している場合もあります。ボランティア活動が、社会的に重要な役割を担い続けるために、活動を個人で負うのではなく、組織として、活動を続けていこうとする動きが、近年活発になっています。

問18. これまでにボランティアやNPOで活動したことがありますか。次の中から、該当する番号に、1つ〇をつけてください。

- | | | |
|--------------------------------------|---|-----------------------------|
| 1. 現在活動している | } | 1、2を選んだ方は、
問 18-1、18-2 へ |
| 2. 現在活動しているが、その他に、以前活動していた今はやめた活動もある | | |
| 3. 以前活動していたが、現在はまったく活動していない | → | 3を選んだ方は、
問 18-2、18-3 へ |
| 4. 今までに活動したことはない | → | 4を選んだ方は、
問 18-3 へ |

【問18で「1」、「2」を選択された方に伺います。】

問18-1. 現在どのような活動をしていますか。次の中から、いくつでも〇をつけてください。

1. 高齢者支援に関する活動
2. 障がい者支援に関する活動
3. 子育て支援や母子福祉に関する活動
4. 健康づくり・医療に関する活動
5. 地域の清掃・美化に関する活動
6. 街の活性化等に関する活動
7. 防犯・交通安全に関する活動
8. 消防・防災・災害支援に関する活動
9. 自然環境保護に関する活動
10. ごみ・リサイクルに関する活動
11. 文化・芸術、スポーツに関する活動
12. 国際交流に関する活動
13. その他（具体的に

)

【問18で「1」、「2」、「3」を選択した方に伺います。】

問18-2. ボランティア活動やNPO活動に参加している（していた）理由として、最もあてはまるものに、1つ〇をつけてください。

1. 活動自体が楽しく、興味のある内容だから
2. 活動に参加すると自分や自分の家族に有利になるから
3. 活動を通じて人間関係が広がり自分の成長につながるから
4. 身近な地域のために役立ちたいから
5. 友人・知人に誘われたから
6. その他（具体的に

)

【問18で「3」、「4」を選択した方に伺います。】

問18-3. あなたがボランティア活動やNPO活動に参加していない主な理由としてあてはまるものに、2つまで、〇をつけてください。

1. 活動自体が楽しくなく、興味ある内容でもないから
2. 身近な地域のことには関心がないから
3. 仕事や学業などで忙しく時間がないから
4. どのような活動があるのか知らないから
5. 体力的に自信がないから
6. 自分の時間を優先したいから
7. 知り合いがいないため、一人では参加しにくいから
8. その他（具体的に

)

問19. 今後、ボランティア活動・NPO活動や市民の自主的な活動等を活性化するためには、何が必要だと思いますか。主なものに5つまで、○をつけてください。

1. 学校教育で重要性を教える
2. 生涯学習で啓発活動を行う
3. ある程度強制的な参加体制をつくる
4. 行政主導で組織づくりを進める
5. 若い人の参加を促す
6. 元気な高齢者の参加を促す
7. 友人や家族と参加できる活動を増やす
8. 身近な地域で気軽に参加できるボランティア団体等を育成する
9. 地域内の交流を深め、よりよい人間関係をつくる
10. 身近な地域に活動拠点を設置する
11. 情報提供窓口を一本化する
12. 活動内容等について積極的にPRする
13. 企業に労働時間の短縮やボランティア休暇等の普及を要請する
14. 企業に対して資金援助を要請する
15. ボランティア組織間の連携を強化する
16. 興味や関心を持てる内容にする
17. 負担の少ない活動内容（時間的・体力的）にする
18. 活動の中で趣味や特技、専門知識を生かせるようにする
19. 知識・技術を有する人材やリーダーを養成する
20. 表彰を行うなど社会的評価を高める
21. 少額の報酬や交通費等の実費を支払うようにする
22. 活動資金や物品等を補助する
23. 事故があった時の補償体制をつくる
24. その他（具体的に
25. 特にない

問20. あなたは、現在、毎日の生活の中で生きがいを感じていますか。該当する番号に、1つ○をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 感じている | 3. あまり感じていない |
| 2. まあまあ感じている | 4. 感じていない |

D 地域福祉の考え方についてお伺いします。

地域福祉とは・・・

地域福祉の目的は、さまざまな事情から福祉サービスを必要とするようになって、これまでつくりあげてきた家族、友人、知人との関係を保ち、文化やスポーツ、芸術、趣味などの社会的な活動に参加できることで、誰もが自分らしく、誇りをもって、まちの一員として普通の生活を送ることができるようになることです。

地域福祉を進めるためには、在宅での暮らしを支援するいろいろな福祉サービスに加え、地域の人々の結びつきを深めるために助け合いや交流活動を盛んにすること、道路、公園、生活環境など誰もが利用しやすいものとするなどが、とても大切です。

問21. あなたが福祉に持っている考え方について、次の中からあてはまる番号に、1つ〇をつけてください。

1. 福祉とは、慈善的に手を差し伸べることであると思う
2. 福祉は行政（国や地方自治体）の責任で行うべきであると思う
3. 福祉は、行政と地域住民（住民組織）が協力しあいながら行うものであると思う
4. その他（具体的に
5. わからない

問22. 現在お住まいの地域で、日常生活で困ったことを抱えている人がいますか。
次の中から、該当するものに、いくつでも〇をつけてください。

1. 一人暮らしで不安や心細い思いをしている人がいる
2. 障がい等のために必要な情報が届かず困っている人がいる
3. 買い物などの外出が一人では大変な人がいる
4. 草むしりや庭の手入れなど、体力のいることができなくて困っている人がいる
5. 食事づくりや洗濯などの家事をするのが大変な人がいる
6. 日常生活での金銭管理がうまくいかない人がいる
7. 地域社会から孤立してひきこもりになっている人がいる
8. 子育て・育児で不安や悩みを抱えている人がいる
9. 外出などの時に、子どもを預けることができなくて困っている人がいる
10. ひきこもりの家族を抱えて困っている人がいる
11. その他（具体的に
12. わからない

問23. あなたは日常生活で困っている人がいた場合、どのような援助が必要だと思いますか。あてはまるものに、3つまで、○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1. 日常生活で困っている人を直接助けること | |
| 2. 問題を解決するための情報を提供すること | |
| 3. 何に困っているかを理解し、サービス等につなげること | |
| 4. 困っている人を手助けできる人につなげること | |
| 5. 困っている人を手助けできるよう地域の雰囲気づくりを進めること | |
| 6. 困っている人を手助けできるような資金を用意すること | |
| 7. 手助けしたい人達を組織化すること | |
| 8. 地域の支え合い活動をするための場所をつくること | |
| 9. 地域の支え合い活動に関心をもつ人を組織化すること | |
| 10. 現状のままでよい | |
| 11. その他（具体的に | ） |
| 12. わからない | |

問24. 福祉サービスの担い方や負担の仕方について、今後、どのような方向を目指すべきだとお考えですか。優先度の高いものから順に、1～4位までの順位をつけてください。

項 目	順 位
1. 福祉は行政が行うべきものであり、たとえ増税になってもすべて国・県・市が担うべきだ	
2. 隣近所の連携を高め、その中で助け合うようにし、住民自身が福祉の中心的な担い手となるべきだ	
3. ある程度広い地域の中での低料金による対応を可能とするため、ボランティア・NPO等の活動を活性化し、それらが福祉の中心的な担い手となるべきだ	
4. 有料による対応でも構わないので、優良な民間事業者の育成を図り、それらが福祉の中心的な担い手となるべきだ	

問25. 越谷市が、福祉関連の分野で、特に力を入れて取り組むべきだと思われる施策に、5つまで、○をつけてください。

1. 福祉の相談窓口等の整備
2. 地域資源の活用（人的資源・公共施設・民間施設の活用）
3. ボランティア意識の醸成（学校教育の充実・生涯学習の充実）
4. 社会福祉協議会・ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の充実）
5. 地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活発化、地域交流のイベントの支援）
6. 生きがいの創造（生涯学習の推進、サークル活動の支援、企業の支援、就業の支援、ペットと暮らせるまちづくりなど）
7. 健康の保持・増進を図る健康づくり
8. 道路や交通環境・建物等のバリアフリー化
9. 一人暮らしの高齢者や障がい者に対する災害時の支援体制
10. 高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策
11. 障がい者が安心して暮らせる在宅福祉施策
12. 子育てが安心してできる子育て支援施策
13. 急病でも対応できるなど医療体制の整備
14. 生活困窮者への経済的支援施策
15. 国民健康保険・介護保険など保険事業の安定的運営
16. 人権の擁護（プライバシーの確保、問題の早期発見体制の確立）
17. 福祉に関する広報活動
18. その他（具体的に)
19. 特にない・わからない

問26. 地震など災害が発生したときの「災害時に住民が支え合う地域づくり」には何が必要だと思いますか。3つまで、○をつけてください。

1. 自主防災組織づくり（地域住民で結成する防災隊）
2. 日頃から隣近所が声をかけ合い、助け合うようにする
3. 災害時の情報をすみやかに伝達できるよう情報伝達システムを充実する
4. 地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目でわかる「地図」の作成
5. 地域での定期的な避難訓練
6. 地域やグループなどでの勉強会
7. 福祉サービスなどを提供する施設や事業者との連携
8. その他（具体的に)
9. わからない

問27. 被災後の生活において、あなたは誰を頼りにしますか。該当する番号に、いくつでも○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 1. 家族・親族 | 6. 行政（市役所など） |
| 2. 近所の人 | 7. 地域支援者 |
| 3. 友人・知人 | 8. その他（具体的に ） |
| 4. 自主防災組織（自治会など） | 9. 誰にも頼らない・頼れない |
| 5. 社会福祉協議会 | |

E 地域福祉の推進に関することについてお伺いします。

問28. 越谷市の地域福祉の現状についてどう思われますか。各項目ごとに、該当する評価に、1つずつ、○をつけてください。

	できて いる	ある程度 できて いる	あまり できて いない	ほとんど できて いない
1. 地域で、世代等を超えた交流が盛んに行われている	1	2	3	4
2. 誰もが地域でいきいきと暮らし、困った時には情報を得たり相談することができる	1	2	3	4
3. 一人ひとりが地域福祉に関心を持ち、支えあいの行動をしている	1	2	3	4
4. NPOやボランティア等が地域福祉活動を進めるための情報・拠点等の基盤が整っている	1	2	3	4
5. 地域福祉活動を進めるための人材・資源・資金等の制度が充実している	1	2	3	4
6. 地域福祉の多様なニーズ、新しいニーズとしてどのようなものがあるかが的確に把握され、その対応を進めている	1	2	3	4
7. 誰もが、自分が受けられる支援に関する情報を得たり、適切に選択することができ、支援制度・サービスが手薄な分野について、対象者を支える仕組みが充実している	1	2	3	4
8. 最新の知識・技術を身に付けた人材と、経験豊富な人材が協力し、（福祉）サービスの質が向上している	1	2	3	4
9. 利用者が（福祉）サービスを選択するために必要な情報が公開されており、事業者は提供する（福祉）サービスの質の向上に取り組んでいる	1	2	3	4
10. 子育て中や日中は勤労している等の人材も、地域に貢献する活動に参加できる仕組みがある	1	2	3	4
11. 地域で必要とされる人材が、必要な場所で活躍している	1	2	3	4
12. 起業等の意欲を持つ人に適切な支援が行われている	1	2	3	4
13. 住民による地域防犯・交通安全への自主的な活動が行われている	1	2	3	4
14. 地域ぐるみで、身近な環境（保全・美化）が快適に保たれている	1	2	3	4

問29. あなたのお住まいの地域に関する環境について、次のことは、以前と比べて（約5年前と比べて）どのように変わったと思いますか。該当する番号に、1 つずつ、○をつけてください。

	かなり 良くな った	多少は 良くな った	あまり 変わら ない	むしろ 悪くな った	わから ない
1. 高齢者が生きがいを持ち、安心して暮らせる	1	2	3	4	5
2. 障がい者が社会に参加し、安心して暮らせる	1	2	3	4	5
3. ゆとりを持って安心して子育てができる	1	2	3	4	5
4. 子どもがすこやかに育つ環境がある	1	2	3	4	5
5. 必要なときに安心して医療を受けることができる	1	2	3	4	5
6. 健康づくりに取り組みやすい環境にある	1	2	3	4	5
7. 誰もが生涯学習や好きな活動ができる	1	2	3	4	5
8. 住民どうしの温かいふれあいがある	1	2	3	4	5
9. 世代が違う人どうしの交流がある	1	2	3	4	5
10. 困ったときにすぐに相談できる	1	2	3	4	5
11. 困ったことがあっても誰かが支えてくれる	1	2	3	4	5
12. 住まいや地域の生活環境が良い	1	2	3	4	5
13. 道路や交通の便が良く、誰もが外出しやすい	1	2	3	4	5
14. 生活のいろいろな面で便利である	1	2	3	4	5
15. いろいろな活動ができる場が身近にある	1	2	3	4	5
16. すべての人の人権が守られている	1	2	3	4	5
17. 災害などに対して安全である	1	2	3	4	5

F 成年後見制度と越谷市の福祉についてお伺いします。

問30. 「成年後見制度」について、あなたはこの制度について知っていますか。該当する番号に、1つ〇をつけてください。

成年後見制度とは・・・

本人が障がいや認知症などで判断能力が十分でない場合、本人に代わって家庭裁判所が決める法定後見人が財産管理や介護サービス契約などを行うことができる制度です。

1. 制度を活用している
2. 申立てをしている
3. 制度は知っているが、活用する必要がない
4. 制度を活用したいが、どのような手続きをしたらよいのかわからない
5. 言葉は聞いたことがあるが、制度のことは知らない
6. 言葉も聞いたことがなく、制度もまったく知らない

問31. 越谷市の福祉についてご意見がありましたらご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

7月15日までに、同封の返信用封筒に入れて、投函してください。

越谷市の地域福祉に関する団体調査にご協力をお願いします。

この調査は、「第3次越谷市地域福祉計画」の策定にあたって実施するものです。
誇れる・魅力あるまちづくりのため、皆さまのご意見を聞かせてください！

地域福祉計画とは？

複雑・多様化する地域課題に、地域と行政が協力して取り組んでいくための方策を定める計画です。



みんなで協力してまちづくりをしよう！

集計の方法は？

○この調査は無記名であり、ご回答いただいた調査票はすべて統計的に処理します。

※この調査は、福祉に関係のある市内各団体にご依頼しています。

【ご記入にあたってのお願い】

- 原則として代表者または責任者の方にご記入をお願いします。
 - ご記入は、ボールペンまたは鉛筆でこの調査票に直接お書きください。
 - ご記入いただきましたこの調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**7月15日（月）**までに、郵便ポストにご投函ください。（切手は、不要です。）

*** この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。**

越谷市福祉部福祉推進課

電話：963-9320（直通）

問 1. 貴団体の概要についてご記入ください。

所在地 （該当する番号に1つ○をつけてください。）	1. 桜井地区 6. 出羽地区 11. 北越谷地区 2. 新方地区 7. 蒲生地区 12. 越ヶ谷地区 3. 増林地区 8. 川柳地区 13. 南越谷地区 4. 大袋地区 9. 大相模地区 5. 荻島地区 10. 大沢地区
貴団体の組織形態 （該当する番号に1つ○をつけてください。）	1. 自治会 4. NPO法人 2. ボランティアグループ 5. 社会福祉法人 3. 福祉関係団体 6. その他（ ）
貴団体の会員または職員は 何人ですか。	会員（ ）人 職員（ ）人 令和 年 月 日現在
貴団体の活動場所はどこで すか。中心的な場所をお答え ください。 （該当する番号に1つ○をつけてください。）	1. 貴団体の事務所 4. 自治会館や集会所 7. その他（ ） 2. 市役所 5. 民間施設 3. 地区センターや市民会館等 6. 会員の個人宅や勤務先
主な活動区域はどこです か。 （該当する番号に1つ○をつけてください。）	1. 市内の一部地域 4. 県内 2. 市内全域 5. 隣接県を含む地域 3. 市内と隣接市町村など 6. その他（ ）

問2. 貴団体が取り組んでいる地域活動等は何分野ですか。該当する番号に、いくつでも○をつけてください。

1. 健康づくり	10. ごみ・リサイクル	19. 男女共同参画
2. 児童・母子福祉	11. 消費者問題	20. 人権問題
3. 高齢者福祉	12. まちづくり全般	21. 国際協力・交流
4. 障がい者福祉	13. 交通安全・防犯	22. 産業振興
5. その他社会福祉	14. 防災	23. 地域交流
6. 医療	15. 子どもの健全育成	24. 地域コミュニティ
7. 自然環境保護	16. 教育・生涯学習	25. その他
8. 清掃・美化	17. スポーツ	(具体的に)
9. 公害防止	18. 芸術・文化の振興	

問3. 貴団体にとって「地域」とは、どのような範囲のことだと思いますか。
該当する番号に、1つ○をつけてください。

1. となり近所	5. 小学校区
2. 組・班	6. 中学校区
3. 町内会	7. 越谷市全域
4. 自治会	8. その他（具体的に)

問4. 貴団体が地域活動を行う上での運営上の問題点・課題についてお答えください。該当する番号に、いくつでも○をつけてください。

1. 活動場所の確保が難しい	8. スタッフの活動意欲の維持が難しい
2. 活動資金の調達に苦労している	9. 活動ノウハウの不足
3. スタッフが不足している	10. 他団体や事例等の情報不足
4. スタッフの固定・人事が硬直化している	11. 活動の充実に向けた研修等の機会がない
5. 活動がマンネリ化し、活動が広がらない	12. 支援を必要とする人の情報
6. 活動に対する周囲の理解不足	13. その他（具体的に)
7. 関連団体との連携がうまくいかない	14. 特に問題はない

問5. ボランティア活動・NPO活動等、市民の自主的な活動等を活性化するためには、何が必要だと思いますか。主なものに、5つまで、○をつけてください。

1. 学校教育で重要性を教える
2. 生涯学習で啓発活動を行う
3. ある程度強制的な参加体制をつくる
4. 行政主導で組織づくりを進める
5. 若い人の参加を促す
6. 元気な高齢者の参加を促す
7. 友人や家族と参加できる活動を増やす
8. 身近な地域で気軽に参加できるボランティア団体等を育成する
9. 地域内の交流を深め、よりよい人間関係をつくる
10. 身近な地域に活動拠点を設置する
11. 情報提供窓口を一本化する
12. 活動内容等について積極的にPRする
13. 企業に労働時間の短縮やボランティア休暇等の普及を要請する
14. 企業に対して資金援助を要請する
15. ボランティア組織間の連携を強化する
16. 興味や関心を持てる内容にする
17. 時間的に負担の少ない活動内容にする
18. 体力的に負担の少ない活動内容にする
19. 人間関係が負担にならないようにする
20. 活動の中で趣味や特技、専門知識を生かせるようにする
21. 知識・技術を有する人材やリーダーを養成する
22. 表彰を行うなど社会的評価を高める
23. 交通費等の実費を支払うようにする
24. 少額でも報酬が支払われるようにする
25. 活動資金や物品等を補助する
26. 事故があった時の補償体制をつくる
27. その他（具体的に
28. 特にない

問6. 越谷市が、福祉関連の分野で、特に力を入れて取り組むべきだと思われる施策に、5つまで、○をつけてください。

1. 福祉の相談窓口等の整備
2. 地域資源の活用（人的資源・公共施設・民間施設の活用）
3. ボランティア意識の醸成（学校教育の充実・生涯学習の充実）
4. 社会福祉協議会・ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の充実）
5. 地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活発化、地域交流のイベントの支援）
6. 生きがいの創造（生涯学習の推進、サークル活動の支援、企業の支援、就業の支援、ペットと暮らせるまちづくりなど）
7. 健康の保持・増進を図る健康づくり
8. 道路や交通環境・建物等のバリアフリー化
9. 一人暮らしの高齢者や障がい者に対する災害時の支援体制
10. 高齢者が安心して暮らせる在宅福祉施策
11. 障がい者が安心して暮らせる在宅福祉施策
12. 子育てが安心してできる子育て支援施策
13. 急病でも対応できるなど医療体制の整備
14. 生活困窮者への経済的支援施策
15. 国民健康保険・介護保険など保険事業の安定的運営
16. 人権の擁護（プライバシーの確保、問題の早期発見体制の確立）
17. 福祉に関する広報活動
18. その他（具体的に _____）
19. 特にない・わからない

問7. 地震など災害が発生したときの「災害時に支え合う地域づくり」には何が必要だと思いますか。3つまで、○をつけてください。

1. 自主防災組織づくり（地域住民で結成する防災隊）
2. 地域での定期的な避難訓練
3. 地域における援助体制の構築
4. 地域の高齢者などがどこに住んでいるか一目でわかる「地図」の作成
5. 危険個所の把握
6. 地域やグループなどでの勉強会
7. 福祉サービスなどを提供する施設や事業者との連携
8. その他（具体的に _____）
9. わからない

問 8. 越谷市の地域福祉の現状についてどう思われますか。各項目ごとに、該当する評価に、1つずつ、○をつけてください。

	できて いる	ある程度 できて いる	あまり できて いない	ほとんど できて いない
1. 地域で、世代等を超えた交流が盛んに行われている	1	2	3	4
2. 誰もが地域でいきいきと暮らし、困った時には情報を得たり相談することができる	1	2	3	4
3. 一人ひとりが地域福祉に関心を持ち、支え合いの行動をしている	1	2	3	4
4. NPOやボランティア等が地域福祉活動を進めるための情報・拠点等の基盤が整っている	1	2	3	4
5. 地域福祉活動を進めるための人材・資源・資金等の制度が充実している	1	2	3	4
6. 地域福祉の多様なニーズ、新しいニーズとしてどのようなものがあるかが的確に把握され、その対応を進めている	1	2	3	4
7. 誰もが、自分が受けられる支援に関する情報を得たり、適切に選択することができ、支援制度・サービスが手薄な分野について、対象者を支える仕組みが充実している	1	2	3	4
8. 最新の知識・技術を身に付けた人材と、経験豊富な人材が協力し、（福祉）サービスの質が向上している	1	2	3	4
9. 利用者が（福祉）サービスを選択するために必要な情報が公開されており、事業者は提供する（福祉）サービスの質の向上に取り組んでいる	1	2	3	4
10. 子育て中や日中は勤労している等の人材も、地域に貢献する活動に参加できる仕組みがある	1	2	3	4
11. 地域で必要とされる人材が、必要な場所で活躍している	1	2	3	4
12. 起業等の意欲を持つ人に適切な支援が行われている	1	2	3	4
13. 住民による地域防犯・交通安全への自主的な活動が行われている	1	2	3	4
14. 地域ぐるみで、身近な環境（保全・美化）が快適に保たれている	1	2	3	4

問9. 地域福祉活動を推進するために、どのような機関とネットワーク形成が必要だと思いますか。該当する番号に、いくつでも○をつけてください。

1. 市役所	9. P T A	17. 弁護士・司法書士
2. 社会福祉協議会	10. NPO・ボランティア	18. 民間企業
3. 自治会	11. 老人クラブ	19. 商工会
4. 当事者団体	12. 商店街	20. その他
5. 民生委員・児童委員	13. 介護・福祉施設	(具体的に)
6. 保育園・幼稚園	14. 医療機関	21. わからない
7. 小中学校・高校	15. ハローワーク	
8. 大学・専門学校	16. 警察・消防	

問10. これからの地域福祉を担う主体に対して、市役所・社会福祉協議会はどのような支援をすればいいと思いますか。該当する番号に、いくつでも○をつけてください。

1. 団体や活動についてのP R	7. 他団体とのネットワーク化
2. 活動上必要な情報の提供	8. 団体運営上の助言
3. 活動場所の提供	9. 設備・備品の充実
4. 会員募集の支援	10. 成果の発表の場の提供
5. リーダーの養成支援	11. その他（具体的に)
6. 経済的支援（活動資金など）	12. 特にない

問11. 今後の地域活動への参画に対するお考え、方針等について簡単にご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。
7月15日までに、同封の返信用封筒に入れて、投函してください。

越谷市の地域福祉に関するアンケート調査

報告書

令和元年 10 月 発行

発

行

越谷市福祉部福祉推進課

〒343-8501

埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

電話 048-963-9320
